

平成 26 年度
文部科学省委託調査

「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究」

報 告 書

平成 27 年 3 月
株式会社 浜銀総合研究所

目 次

はじめに.....	1
調査結果の概要（本調査研究から主に把握できたこと）.....	2
1. 調査の概要.....	4
(1) 本調査研究の全体像.....	4
(2) 今年度調査の概要.....	5
①生徒向け質問紙調査.....	5
②学校向け質問紙調査.....	7
③ヒアリング調査.....	7
2. 生徒向け調査から把握される3年間の変容.....	8
(1) 調査項目ごとの回答結果の変化.....	8
①生活の充実度.....	8
②意欲・態度.....	9
③学ぶことについての意識・意味づけ.....	10
④人間関係形成・社会形成能力.....	11
⑤自己理解・自己管理能力.....	12
⑥課題対応能力.....	13
⑦キャリアプランニング能力.....	14
⑧職業観・勤労観.....	15
⑨卒業後の進路希望.....	16
(2) 基礎的・汎用的能力に関する合成指標の作成と3年間の変化の把握.....	17
①作成した合成指標と質問項目との対応関係.....	17
②作成した指標から把握される変化.....	18
③1年生前半の時期における属性等と能力・意識水準との関係性.....	19
④属性等と能力・意識の推移との関係性.....	20
3. キャリア教育に関する取り組みと生徒の変容との関連性の把握.....	22
(1) 分析の枠組み.....	22
①分析で着目した点.....	22
②変容の度合いに影響しうる要因として着目した点.....	22
③各指標・観点と質問紙調査の質問項目との対応関係.....	23
④結果の示し方、解釈の仕方.....	24
(2) 分析結果.....	25
①目標設定・計画の作成の状況との関係について.....	25
②目標設定の仕方との関係について.....	28
③教職員向け校内研修会の実施との関係について.....	31
④総合的な学習の時間やホームルーム活動でのキャリア教育に関する時間の多寡との関係.....	34
⑤キャリア教育に関する実践プログラムとの関係.....	37
⑥インターンシップ経験の有無との関係.....	43
⑦事前・事後指導の実施状況との関係.....	49
⑧各指標の変化に影響する要因についてのまとめ.....	52
(3) 属性・条件等別の分析結果.....	54
(4) 補論：勤労観・職業観の変化や進路希望未定者に関する分析.....	56
①勤労観・職業観の変化について.....	56
②進路希望未定者に関する分析.....	58

4. 生徒の変容が大きく見られた学校に着目した分析	61
(1) 学校群の抽出.....	61
(2) 各指標の変化の状況.....	62
(3) 学校群別の学校調査結果の比較.....	63
①キャリア教育に関する計画等策定の状況、教職員を対象とした研修会実施の状況の違い.....	63
②総合的な学習の時間・ホームルーム活動におけるキャリア教育に関する内容の時間の多寡の違い.....	65
③キャリア教育に関する各種の取り組み状況の違い.....	67
5. ヒアリング調査から把握される学校の特徴.....	69
(1) 調査対象の抽出・訪問日.....	69
(2) ヒアリング調査対象先と質問紙調査結果の対応関係.....	70
(3) ヒアリング調査の結果把握された共通点や特徴.....	71
(4) ヒアリング対象校から把握された個別の情報.....	72
6. まとめ.....	76
<資料集>	79
(1) 調査票.....	79
①生徒向け調査票.....	81
②学校向け調査票.....	85
(2) 生徒向け調査集計表.....	89
(3) 学校向け調査集計表.....	95

はじめに

平成 23 年 1 月 31 日の中央教育審議会総会において「今後の学校のキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）が取りまとめられ、キャリア教育・職業教育の方向性を考える上では「仕事をすることの意義や、幅広い視点から職業の範囲を考えさせる指導を行う」こと、「社会的・職業的自立や社会・職業への円滑な移行に必要な力を明確化する」ことが重要であるとされた。そして、この必要な「力」に含まれる要素として、「基礎的・基本的な知識・技能」「基礎的・汎用的能力」「論理的思考力・創造力」「意欲・態度及び価値観」「専門的な知識・技能」が挙げられ、さらに、そのうちの「基礎的・汎用的能力」については、具体的内容として、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の 4 点が挙げられている。

また、答申においては、幼児期から高等教育に至るまでの体系的なキャリア教育の推進の必要性があることが示されており、そのなかで、後期中等教育においては、社会人・職業人としての自立が迫られる時期であり、キャリア教育の充実が喫緊の課題であるとされている。加えて、普通科高校においては、学習と社会・職業とのかかわりが薄い傾向があるということも指摘されている。

このような状況を背景として、本調査研究は、高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の能力や態度の変容にどのような相関関係があるのかについて把握することを目的として実施したものである。具体的には、生徒に対する質問紙調査を通じて、定量的な手法によってキャリア教育の取り組みと生徒の成長・変容との関連性について分析・検討を行おうとするもので、今年度が平成 24 年度から実施した一連の調査の最終年度にあたる。平成 24 年度には第 1 学年の生徒を、平成 25 年度には第 2 学年の生徒を対象にして調査を実施したが、今年度は、その継続調査として、第 3 学年の生徒を対象に、キャリア教育を通じて育成することが目指されている「基礎的・汎用的能力」などの能力や、意欲・態度などについて、どのような変容がみられるのか、また、キャリア教育の取り組み状況の違いによって変容の度合いに差異はみられるのか等を明らかにすることを試みた。

なお、今年度においては、キャリア教育の取り組みと生徒の成長・変容との関連性についてより詳細な状況把握を行うため、いくつかの学校に対するヒアリング調査も実施した。本調査研究の結果が、高等学校各学校におけるキャリア教育の取り組みの振り返りなどにおいて参考になれば幸いである。

本調査研究は、文部科学省初等中等教育局児童生徒課からの委託により、株式会社浜銀総合研究所が実施した。また、調査の実施にあたっては、以下の方々から構成される調査研究協力者会議を計 5 回にわたり開催し、調査票の設計や集計・分析の方法等について助言を受けた。

<調査研究協力者会議委員> (50 音順)

- 鹿嶋 研之助 (千葉商科大学商経学部 教授)
- 川崎 友嗣 (関西大学社会学部 教授)
- 藤田 晃之 (筑波大学人間系教育学域 教授)
- 松井 賢二 (新潟大学人文社会・教育科学系 教授 (教育学部))
- 渡辺 三枝子 (筑波大学 名誉教授 筑波大学 大学研究センター客員研究員)

<オブザーバー>

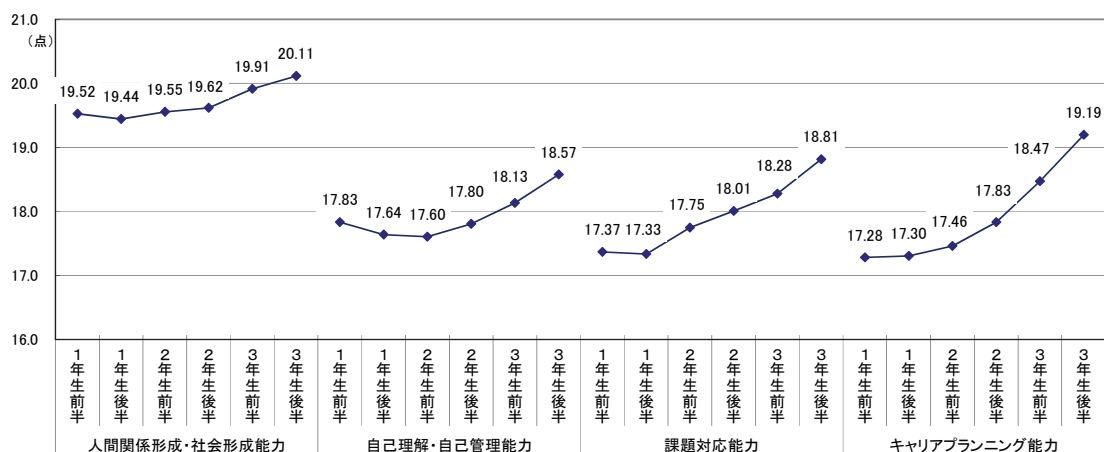
- 長田 徹 (文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官)
- 立石 慎治 (文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 研究員)

調査結果の概要（本調査研究から主に把握できたこと）

<3年間、計6回の調査結果から把握される生徒の変容の特徴>

- 全日制普通科高校 217校の4万人超の生徒を対象に、1年生から3年生にかけて、計6回（1年生前半・後半、2年生前半・後半、3年生前半・後半）調査を実施した。その結果、設定した質問項目の多くで、1年生前半の時期から3年生後半の時期にかけて回答の肯定的な変化が見られた。
- ただし、質問項目の内容によって、3年間を通じて継続的に肯定的な回答割合が高まっていくものもあれば、1年生から2年生の前半にかけて一度低下傾向が見られた後、上昇に転じるものもある。1年生から2年生にかけて肯定的な回答の水準が一度低下することの背景として、生徒はこの時期にある種の「揺らぎ」を経験しているのではないかと推察される。
- 「基礎的・汎用的能力」に関して、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力については、それぞれ関連する6項目を足しあわせた合成指標により3年間の変化を把握した。各指標とも3年生の後半の値は1年生前半の水準を上回っているが、中でも、「自己理解・自己管理能力」については、2年生の前半までは低下し、その後上昇に転じるという特徴が顕著に見られる。

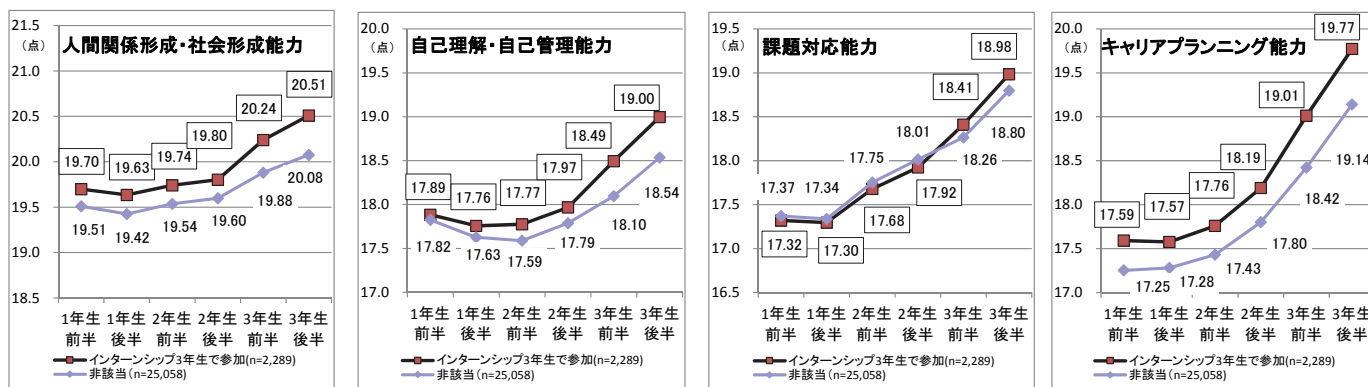
【基礎的・汎用的能力に関する4つの指標の平均値の推移】（各指標とも最低点6点、最高点24点）



<キャリア教育に関する取り組みの実施と生徒の変容の関連性>

- キャリア教育に関連する取り組みの有無と生徒の変容との関連性に着目して分析した結果、キャリア教育に関する目標設定が行われていたり、全体計画・年間指導計画等が作成されていたりするなど、学校としての取り組み体制が整っていると考えられる学校では、1年生から2年生にかけての「自己理解・自己管理能力」の低下の度合いが比較的小さいことなどが明らかになった。
- また、キャリア教育に関する個別の取り組み内容に関する分析から、「キャリアプラン等の作成」「オープンキャンパスへの参加」「インターンシップへの参加」等が、生徒の基礎的・汎用的能力に関する4つの能力をより高める可能性があることが明らかになった。
- なお、「インターンシップへの参加」は3年生での参加の場合に特にプラスの影響が大きいことも示された。このほか、インターンシップに関しては、「事前の調べ学習」を実施している場合に、実施していない学校と比較して、「人間関係形成・社会形成能力」など、基礎的・汎用的能力の伸びがより大きいことも明らかになった。

【分析結果一例：3年生でのインターンシップの参加と基礎的・汎用的能力の変化】



＜生徒の変容が大きかった学校の特徴（ヒアリング調査結果より）＞

- 生徒の変容が比較的大きかった6校を対象に実施したヒアリング調査から、これらの学校の特徴として、「生徒一人ひとりに対する丁寧な指導・対応」をしていること、「様々な活動を通じての成功体験、存在価値の実感や自信・自己肯定感の獲得」が意識されていること、「教職員間の連携・情報共有、引き継ぎ等に関する教員側の体制作り」がなされていること等を指摘できる。
- 各校の取り組みは様々であるが、生徒は学校内外での様々な活動を通じて自信・自己肯定感を高められていると考えられ、また、そのことが、質問紙調査で示された基礎的・汎用的能力の指標の伸びにつながっているのではないかと推察された。

＜調査結果をふまえた考察・提言＞

- 特に3年生の時期にインターンシップに参加した生徒で、基礎的・汎用的能力の伸びが大きかったことは、①普通科高校の生徒にとってもインターンシップの参加により得られるものは大きいこと、また、②実際に進路を選択する時期に近いタイミングでの参加がより効果的である可能性があること、等を示唆している。ヒアリング調査の対象とした学校からは、狭義の「勉強」だけでなく、学校内外の活動に積極的に取り組むことが重要であるとの話が聞かれた。インターンシップの参加は、高校生が自己理解や自己肯定感を高め、諸能力の高まりを認識できるようになる上で一定の効果があるものと考えられる。
- 「キャリアプラン等の作成」が生徒の基礎的・汎用的能力の変化にプラスの影響を及ぼしている可能性があることや、インターンシップに関して、「事前の調べ学習」を実施している場合にプラスの変化がより大きくなることから、生徒が何かを「体験する・参加する」だけでなく、生徒の視野を広げ、認識力を高めるための諸実践を併せて提供することが生徒の能力・意識の向上を図る上では重要であると言えよう。また、ヒアリング調査では、キャリア教育は様々なことの積み重ねにより、総合的に取り組むことが重要であるとの見解も聞かれた。キャリア教育の成果を高めるためには、インターンシップ等の実施の有無のみならず、実施のタイミングや、事前・事後指導を含めた系統的な実践の在り方など、「どのように実施するか」ということに関する各学校の創意工夫が重要だと考える。

1. 調査の概要

(1) 本調査研究の全体像

既述のとおり、本調査研究は、我が国の高等学校普通科におけるキャリア教育の実践が生徒に及ぼす影響について把握・分析することを目的とするものである。

平成 24 年度に実施した調査では、全国 217 の普通科を有する高等学校を抽出し（図表 1-1）、当該高等学校の普通科第 1 学年に在籍する生徒全員を対象にして年度内に 2 回、全く同じ内容の質問紙調査を実施し、その変化の状況を把握した。

平成 25 年度には、平成 24 年度と同一の高等学校の普通科第 2 学年に在籍する生徒全員を対象として、今年度平成 26 年度には、同一の高等学校の普通科第 3 学年に在籍する生徒全員を対象として、追跡的に調査を実施した（図表 1-2）。

なお、生徒を対象とした質問紙調査とは別に、調査対象となった学校のキャリア教育に関する取り組みの実施状況に関する調査（学校向け質問紙調査）を行い、生徒に対する質問紙調査の結果と併せて分析することにより、生徒の変容とキャリア教育に関する取り組みとの関連性について把握した（図表 1-3）。このほか、今年度においては、いくつかの学校についてヒアリング調査を実施し、各校で取り組まれているキャリア教育の特徴等の把握を試みた。

図表 1-1 地域ブロック・都道府県別の調査対象校数

地域区分	都道府県	学校数	地域区分	都道府県	学校数	地域区分	都道府県	学校数
A	北海道	13	D	三重県	8	A	札幌市	1
	青森県	3		滋賀県	1		B	仙台市
	岩手県	2		京都府	5	C		横浜市
	宮城県	5		大阪府	5		D	名古屋市
	秋田県	6		兵庫県	8	E		京都市
	山形県	2		奈良県	3		F	神戸市
	福島県	3		和歌山県	4	広島市		1
B	茨城県	4	E	鳥取県	1	A 合計	36	
	栃木県	1		島根県	3	B 合計	36	
	群馬県	3		岡山県	2	C 合計	36	
	埼玉県	6		広島県	8	D 合計	37	
	千葉県	6		山口県	8	E 合計	36	
	東京都	7		徳島県	3	F 合計	36	
	神奈川県	8		香川県	2	全体合計	217	
C	新潟県	6	F	愛媛県	4	※D 地域についても当初 36 校（全体合計 216 校）での抽出を行ったが、住所の異なる 2 つの校舎を有する学校が対象として抽出され、この学校についてはそれぞれの校舎からの回答を別々の学校によるものと扱ったため、D 地区の学校数は 37 校（全体合計 217 校）となった。		
	富山県	3		高知県	4			
	石川県	4		福岡県	3			
	福井県	1		佐賀県	4			
	山梨県	2		長崎県	7			
	長野県	3		熊本県	3			
	岐阜県	3		大分県	5			
	静岡県	5		宮崎県	4			
愛知県	6	鹿児島県	4					
				沖縄県	6			

図表 1-2 生徒向け質問紙調査の実施状況

実施年度	通算回数	本報告書内での表記	調査実施時期	回収された調査票数
平成 24 年度	1	1 年生前半調査	平成 24 年 6 月	44,912 票
	2	1 年生後半調査	平成 24 年 11 月～12 月	44,515 票
平成 25 年度	3	2 年生前半調査	平成 25 年 7 月～9 月	43,444 票
	4	2 年生後半調査	平成 25 年 11 月～12 月	43,529 票
平成 26 年度	5	3 年生前半調査	平成 26 年 6 月～7 月	42,937 票
	6	3 年生後半調査	平成 26 年 10 月～12 月	42,022 票

※いずれの回も、調査対象とした 217 校全ての学校から協力が得られた。

図表 1-3 学校向け質問紙調査の実施状況

実施年度	本報告書内での表記	調査実施時期	回収された調査票数
平成 24 年度	1 年時調査	平成 24 年 11 月～12 月	217 票
平成 25 年度	2 年時調査	平成 25 年 11 月～12 月	217 票
平成 26 年度	3 年時調査	平成 26 年 10 月～12 月	217 票

※いずれの調査も、生徒向け質問紙調査の「後半調査」とあわせて実施した。

(2) 今年度調査の概要

① 生徒向け質問紙調査

【調査の対象】

平成 24 年度、平成 25 年度に実施した調査に引き続き、全国から抽出した普通科を有する公立高等学校 217 校の全日制普通科第 3 学年に在籍する生徒全員を対象に「学校生活と将来展望に関する調査」と題する質問紙調査を実施した。

調査対象校については、平成 24 年度の調査（1 年生前半調査）の時点で、地域的な偏りが出ないよう留意しつつ、キャリア教育に関する学校設定科目を設定している学校や、就業体験（インターンシップ）のプログラムを有する学校、過去に文部科学大臣表彰を受けた学校などを含め、都道府県教育委員会などの協力も得て幅広く抽出している。

【調査の方法】

調査は全問選択式とし、マークシート方式で実施した。（巻末の＜資料集＞（1）参照）

調査票は、各学校にまとめて送付し、各学校においてホームルーム等の時間を活用して実施、記入された調査票を学校単位でまとめて調査機関に対して返送を依頼した。

【主な質問項目】

調査は、性別や進路希望、インターンシップへの参加経験の有無のほか、「生活の充実度」「意欲・態度」「学ぶことについての意義・意味づけ」「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」「職業観・勤労観」に関する質問項目を設定した（図表 1-4）。

なお、これらについては、それぞれ、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の 4 つの選択肢による回答を得た。

図表 1-4 生徒向け質問紙調査における主な調査内容・質問項目

内容	具体的な質問項目
「生活の充実度」に関する項目	「学校生活は充実している」 「学校での友人関係に満足している」 「自分の将来が楽しみだ」
「意欲・態度」に関する項目	「授業を熱心に受けている」 「家での学習に積極的に取り組んでいる」 「学校行事に積極的に参加している」 「授業や学校行事以外の学校での活動に積極的に取り組んでいる」
「学ぶことについての意識・意味づけ」に関する項目	「学校でたくさんのことを学びたいと思う／これからもっとたくさんを学びたいと思う」 「学校での勉強は普段の生活を送るうえで役に立つと思う」 「学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれると思う」 「学校での勉強は将来の生活を豊かにすると思う」
「人間関係形成・社会形成能力」に関する項目	「相手の気持ちを考えて話をするようにしている」 「自分とはちがう考えを持つ人のことも受けとめようとしている」 「意見はわかりやすく伝えるように意識している」 「ほかの人と一緒に何かをするときには、自分ができることは何かを考えて行動するようにしている」 「ほかの人と一緒に何かをするときには、周りの人と力を合わせるということを意識している」 「必要ときには、自分の意見をはっきり言うことができる」
「自己理解・自己管理能力」に関する項目	「自分にはよいところがあると思っている」 「自分が何に興味や関心があるのかわかっている」 「身の回りのことは、できるだけ自分でしている」 「必要ときには、苦手なことにもがんばって取り組むようにしている」 「やるべきことがわかっているときには、ほかの人から指示される前に取り組むことができる」 「気持ちが沈んでいるときなどであっても、しなければならぬことにはきちんと取り組むことができる」
「課題対応能力」に関する項目	「わからないことがあったときには、自分からすすんで情報を集めることができる」 「何か問題がおきたときには、なぜそうなったかを考えるようにしている」 「何か問題がおきたときには、どのようにしたらその問題が解決できるかを考えるようにしている」 「何か問題がおきたときには、次に同じようなことがおきないよう工夫をするようにしている」 「何かに取り組むときには、計画を立てて取り組むようにしている」 「何かに取り組むときには、進め方や考え方がまちがっていないか、ふり返って考えるようにしている」
「キャリアプランニング能力」に関する項目	「勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている」 「仕事をする意味について自分なりの考えを持っている」 「世の中には、さまざまな働き方や生き方があることを理解している」 「職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」 「将来の夢や目標が具体的にになっている」 「将来の夢や目標に向かって努力している」
「職業観・勤労観」に関する項目	「自分の能力をいかせる仕事がしたい」 「人の役に立つ仕事がしたい」 「責任を伴う仕事はできるだけ避けたい」 「努力や訓練が必要な仕事はやりたくない」

②学校向け質問紙調査

【調査の対象】

生徒向け質問紙調査の実施対象校の教務主任を対象に、「キャリア教育の取り組み・推進状況に関する調査」と題する質問紙調査を実施した¹。

【調査の方法】

調査は選択肢方式と記入式を併用した調査票により行った。(巻末の<資料集>(1)参照)

③ヒアリング調査

【調査の対象】

質問紙調査の対象とした217の高校のうち、生徒の変容が比較的大きく見られた6つの高校を抽出し、各学校の管理職(校長・副校長・教頭など)ならびにキャリア教育の推進の中核を担っている教員に対するヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査は、各学校でキャリア教育に関連する取り組みが具体的にどのように行われているのかを把握し、また、学校での実践と生徒の変容との関連性についての理解を深めることを目的として実施した。

【調査の実施時期】

6校の調査対象に対して、それぞれ、平成26年9月～10月の時期に調査を実施した。

【調査の方法】

調査の趣旨説明・調査依頼の連絡をし、日程調整をした上で、各学校に浜銀総合研究所の研究員が訪問し、2時間程度の聞き取りを行った。主な調査内容は以下の通りである

ヒアリング対象	主なヒアリング内容
校長・副校長・教頭 (いずれかの方)	○キャリア教育に関連する教育実践の背景・位置づけ(取り組み実施の経緯、実施の狙い等) ○成果・効果(目標等の設定と達成状況等、成果・効果として実感されている点・理由等) ○今後の展望(今後についての考え方、想定される課題等)
調査対象校でキャリア教育の中核を担っている先生 (あるいは教務主任、進路指導担当の先生等)	○キャリア教育に関連する教育実践の状況(実施している内容、役割分担等) ○苦勞・工夫等(苦勞している点、工夫している点等) ○成果・効果(成果・効果として実感されている点・理由等) ○今後の展望(今後についての考え方、想定される課題等)

¹ 調査依頼の際には各学校の教務主任の先生に回答いただくよう案内をしたが、実際には、各学校の状況に応じて、教務主任のほか、教頭や学年主任、進路指導担当の先生などから回答をいただいている。

2. 生徒向け調査から把握される3年間の変容

(1) 調査項目ごとの回答結果の変化

まず、生徒を対象として実施した計6回の質問紙調査について、調査項目ごとの回答結果について概観し、3年間の生徒の変容について把握する。

なお、以下の集計では、いずれの回の調査においても回答がなされており、クラス番号・出席番号、ならびに性別に関する回答から、計6回の調査について対応関係が確認できた生徒で、かつ、全ての項目に回答が得られたもの（無回答ではなかったもの、23,840件）について集計を行う。

各回の調査について、回答が得られた全員を対象とした集計結果は、巻末の〈資料集〉に示した。

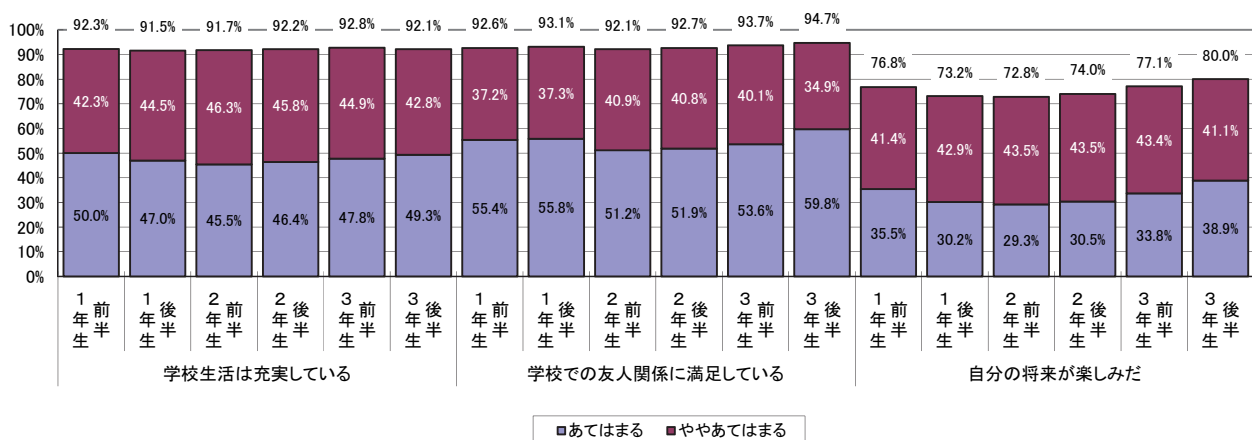
①生活の充実度

「生活の充実度」を把握することを目的に、現在の学校生活、学校での友人関係、将来の生活への展望、に関する質問を行った。

これらのうち、「学校生活は充実している」ならびに「学校での友人関係に満足している」という設問に対する「あてはまる」と「ややあてはまる」の回答の合計（以下、『あてはまる』の合計」と表記）は、1年生前半から3年生後半にかけて、毎回9割を超える水準での推移が続いており、一定程度の充実感を持ちながら生活している生徒が多いことがうかがえる。なお、これらについて、「あてはまる」のみの回答割合に着目すると、2年生の前半では低くなっているが、その後上昇するという特徴が見られる。

他方、「自分の将来が楽しみだ」の設問における『あてはまる』の合計は、7割～8割の水準での推移となっている。2年生の前半には72.8%まで減少したが、その後上昇傾向に転じ、3年生の後半には80.0%となった。このことから、高校入学後、将来に対しての不安は一度高まるものの、進路の展望がより明確になる3年生の時期になると、将来について「楽しみ」と感じる生徒が増えるということがわかる。

図表 2-1 「生活の充実度」に関する設問の集計結果



②意欲・態度

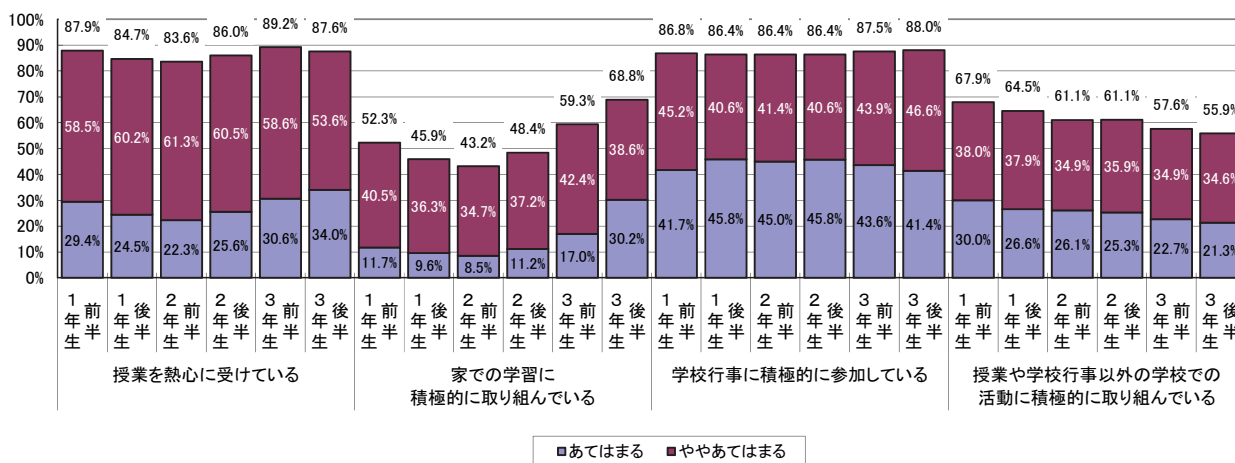
「意欲・態度」に関する状況を把握することを目的として、学校内外での学習面、ならびに学校での活動参加への積極性という観点から4つの質問を行った。

まず、授業中あるいは家庭での学習面での意欲・態度についてみると、「授業を熱心に受けている」については『あてはまる』の合計が8割を超えているが、「家での学習に積極的に取り組んでいる」については、その割合は相対的に低い水準での推移となっている。

また、いずれも2年生前半までは、『あてはまる』の合計の値が減少しており、その後上昇に転じている点が共通している。特に「家での学習に積極的に取り組んでいる」については、3年生になってから回答割合が急激に増加しており、受験が近づくことによって、家での学習量が増える生徒が多いのではないかと推察される。

他方、学校での活動に対する積極性についてみると、「学校行事に積極的に参加している」に関しては『あてはまる』の合計が8割以上であるが、「授業や学校行事以外の学校での活動に積極的に取り組んでいる」についてはその割合が5~6割となっている。推移をみると、「学校行事に積極的に参加している」についてはほぼ横ばいとなっているが、「授業や学校行事以外の学校での活動に積極的に取り組んでいる」については、一貫して減少傾向にあり、学校内での活動の積極性は1年生の時期が最も高いということがうかがえる。

図表 2-2 「意欲・態度」に関する設問の集計結果



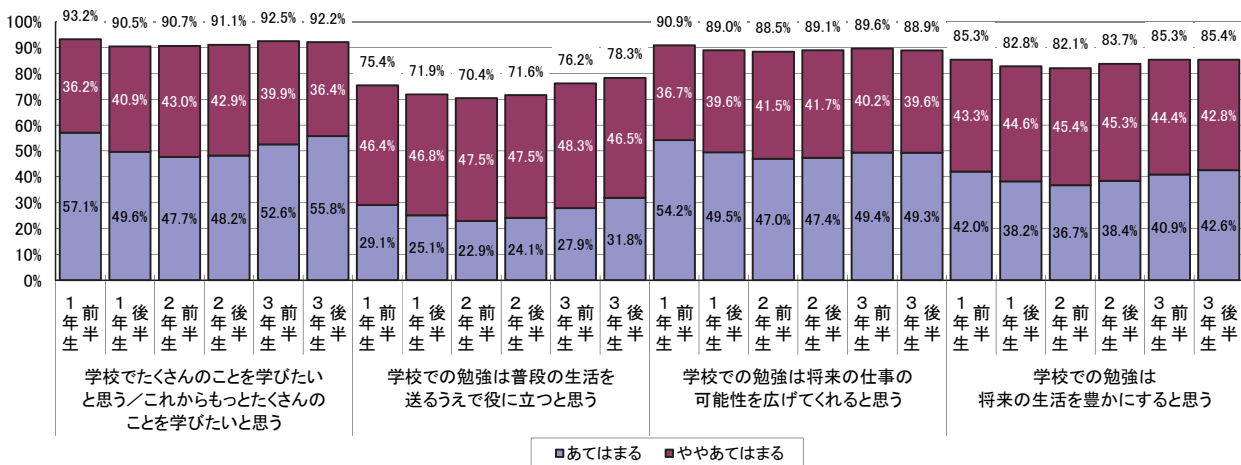
③学ぶことについての意識・意味づけ

「学ぶことについての意識・意味づけ」に関する状況を確認することを目的として、4つの質問を行った。なお、1年生の時期の調査では「学校でたくさんのことを学びたいと思う」としていた設問にかえて、2年生・3年生の時期の調査では、「これからもっとたくさんことを学びたいと思う」との設問とした。

これらの質問のうち、「学校での勉強は普段の生活を送るうえで役に立つと思う」については、『あてはまる』の合計が約7割と、他の3つの質問に比べてやや低い水準で推移している。「これからもっとたくさんことを学びたいと思う」や「学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれると思う」における『あてはまる』の合計の値は9割前後での推移となっている。

なお、各項目とも、入学後しばらくは肯定的な回答割合が減少傾向にあるが、2年生後半から3年生の時期には、それが上昇傾向となる。「学ぶことについての意識・意味づけ」についても、将来の展望がより明確になり、また、受験等の時期が近づくにつれて、高まる傾向にあることがわかる。

図表 2-3 「学ぶことについての意識・意味づけ」に関する設問の集計結果



④人間関係形成・社会形成能力

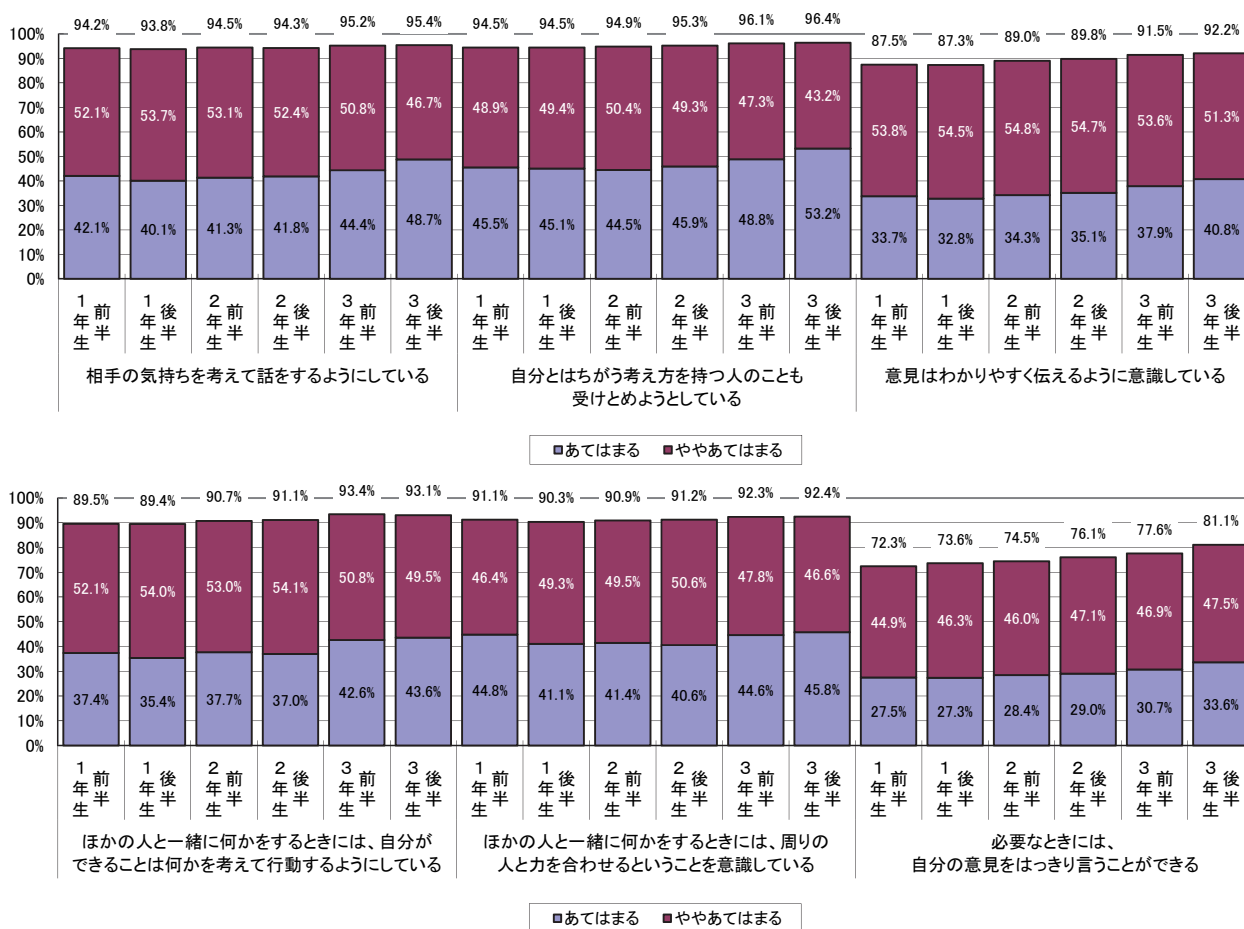
「基礎的・汎用的能力」のうちの「人間関係形成・社会形成能力」に関連すると想定して6つの質問を設けた。

そのうち、「必要などときには、自分の意見をはっきり言うことができる」については『あてはまる』の合計が7～8割と相対的に低い水準で推移しているものの、そのほかの設問における『あてはまる』の合計は、9割前後での推移となっている。

なお、多くの質問で、1年生前半の時点で『あてはまる』の合計が9割以上となっているため、さほど大きな変化がないようにも見えるが、各質問について「あてはまる」のみの回答割合に着目すると、2年生から3年生の時期にかけて上昇傾向にあることがわかる。また、相対的に低い水準での回答となっていた「必要などときには、自分の意見をはっきり言うことができる」については、1年生前半の時点では『あてはまる』の合計の値が72.3%であったものが、その後継続的に上昇し、3年生後半では81.1%となっている。

これらのことから、全体として、高校生活の3年の間で、徐々に「人間関係形成・社会形成能力」についての自信が高まっている様子が見えてくる。

図表 2-4 「人間関係形成・社会形成能力」に関する設問の集計結果



⑤自己理解・自己管理能力

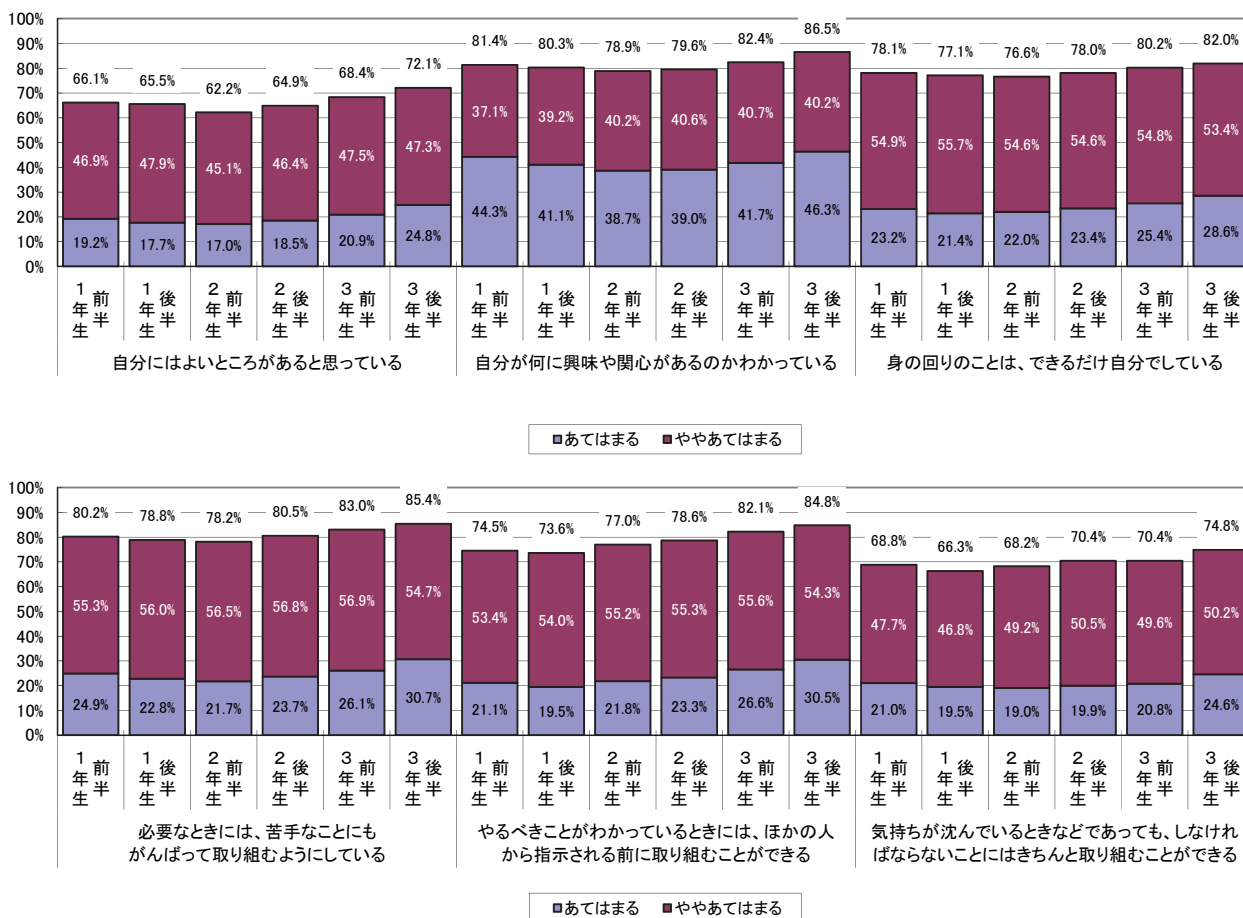
「基礎的・汎用的能力」のうちの「自己理解・自己管理能力」に関連すると想定して6つの質問を設けた。

それぞれの質問に対する『あてはまる』の合計の値をみると、「自分にはよいところがあると思っている」「気持ちが悪んでいるときなどであっても、しなければならないことにはきちんと取り組むことができる」では6~7割と相対的に低い水準で推移している。それ以外の質問では8割前後での推移となっている。

変化の状況についてみると、いずれの質問でも、1年生前半から1年生後半あるいは2年生前半にかけて『あてはまる』の合計値が減少するものの、その後は上昇に転じるという点が共通している。特に、「やるべきことがわかっているときには、ほかの人から指示される前に取り組むことができる」という質問については、1年生前半から、3年生後半にかけて、『あてはまる』の値が10ポイント以上上昇している。

このように、「自己理解・自己管理能力」に関する質問については、「自分の将来が楽しみだ」という質問や、「学ぶことについての意識・意味づけ」に関する質問と同様に、1年生から2年生の時期に一度値が減少し、その後上昇するという特徴が見られる。

図表 2-5 「自己理解・自己管理能力」に関する設問の集計結果



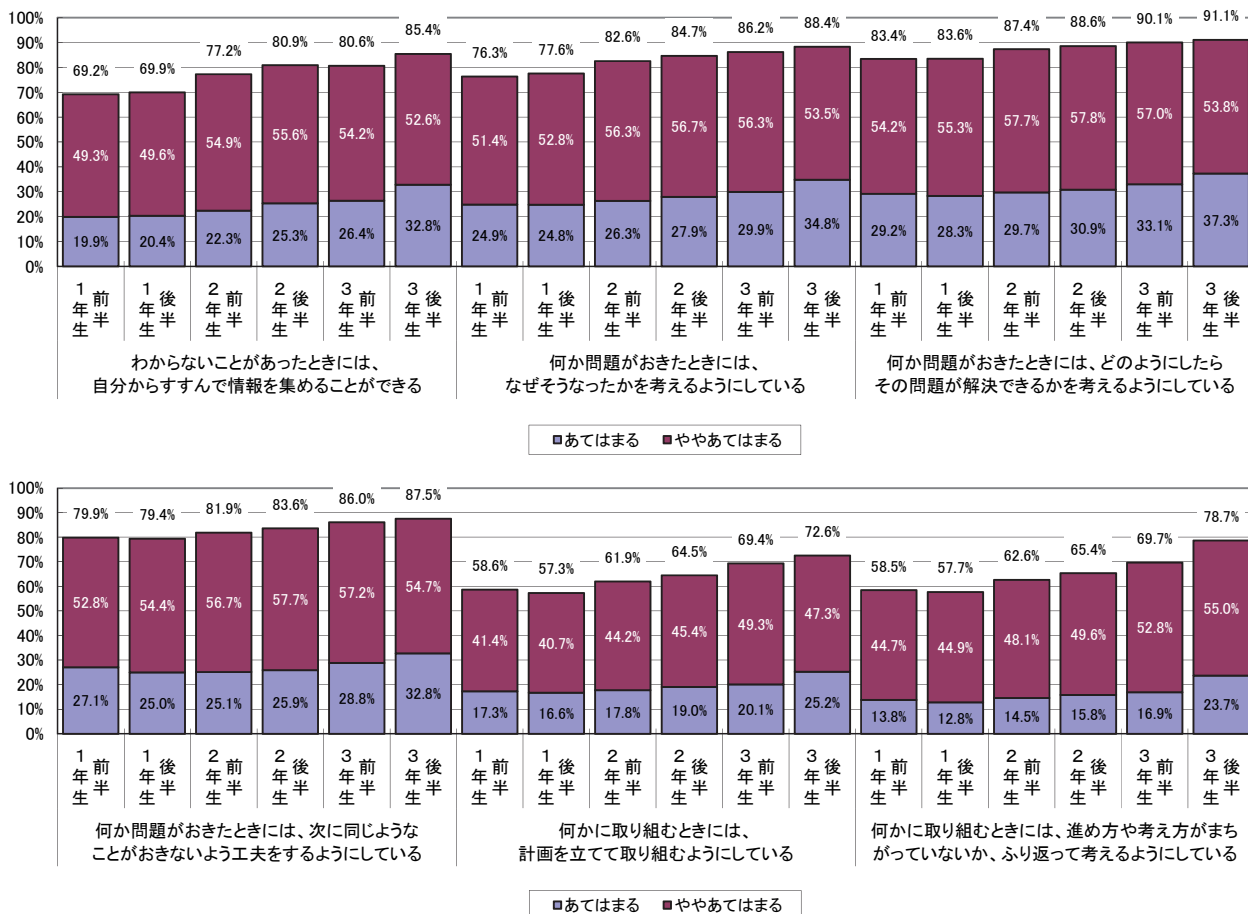
⑥課題対応能力

「基礎的・汎用的能力」のうちの「課題対応能力」に関連すると想定して6つの質問を設けた。

それぞれの質問に対する回答結果をみると、「何かに取り組むときには、計画を立てて取り組むようにしている」や「何かに取り組むときには、進め方や考え方がまちがっていないか、ふり返って考えるようにしている」については、『あてはまる』の合計の値が、1年生前半の時点では6割前後と若干低くなっているが、その後、7～8割の水準まで上昇している。それ以外の質問についても、1年生前半の時点での『あてはまる』の合計値は7～8割の水準であったが、3年生の後半の時点では、いずれも9割前後にまで値が上昇している。

なお、変化の仕方についてみると、「何か問題がおきたときには、次に同じようなことがおきないよう工夫をするようにしている」「何かに取り組む時には、計画を立てて取り組むようにしている」「何かに取り組む時には、進め方や考え方がまちがっていないか、ふり返って考えるようにしている」の3質問においては、1年生前半から1年生後半にかけて一度減少した後上昇に転じているのに対し、他の3質問設問については一貫して上昇しているという若干の違いがあることが確認できる。

図表 2-6 「課題対応能力」に関する設問の集計結果



⑦キャリアプランニング能力

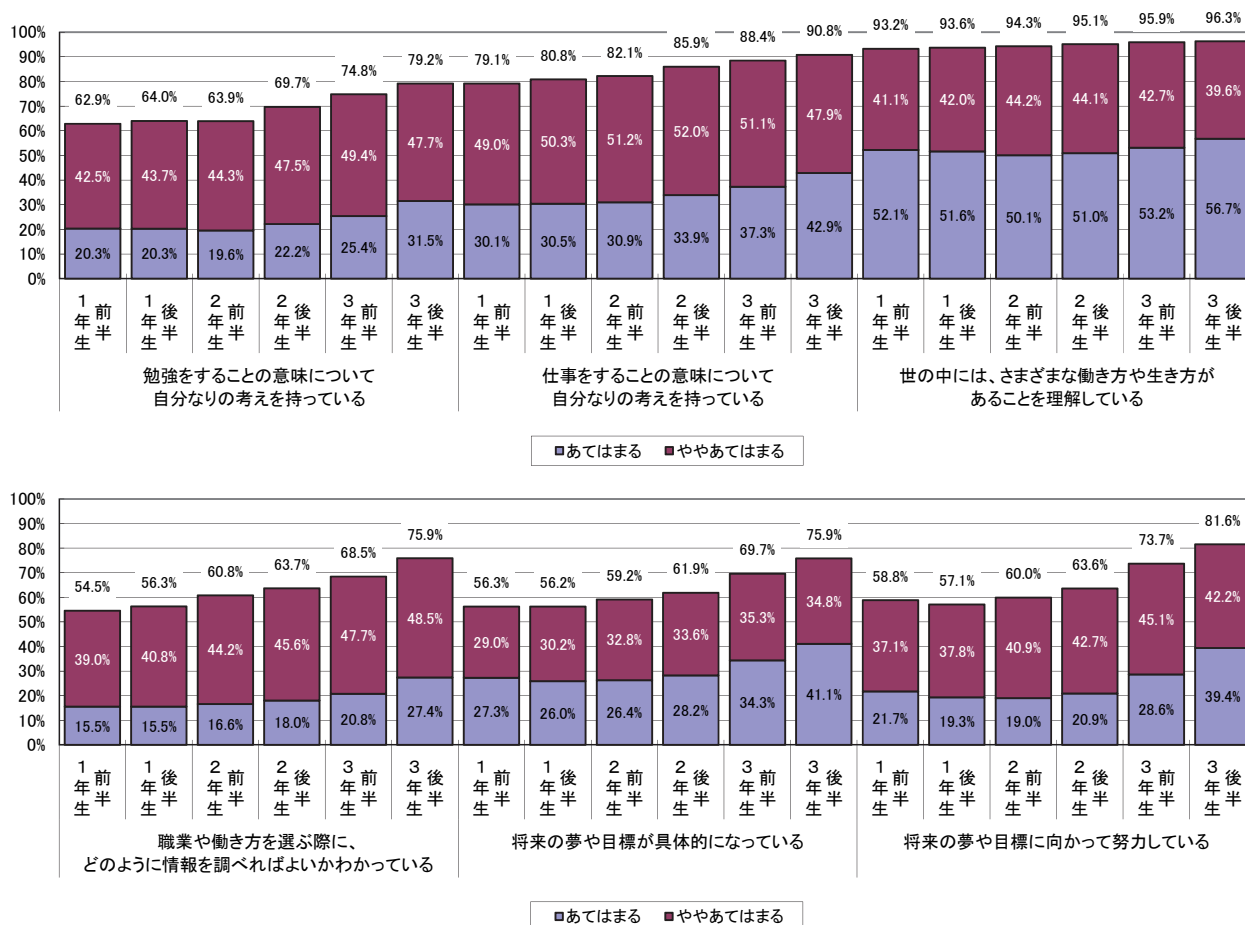
「基礎的・汎用的能力」のうちの「キャリアプランニング能力」に関連すると想定して6つの質問を設けた。

それぞれの質問に対する『あてはまる』の合計の値をみると、質問項目のうち、「勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている」「職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」「将来の夢や目標が具体的になっている」「将来の夢や目標に向かって努力している」の4質問については、1年生前半の時点では5～6割の水準であったものが、いずれも3年生後半の時点では7～8割の水準まで上昇している。また、これらの質問においては、2年生後半から3年生の時期にかけての上昇幅が特に大きくなっており、この時期に進路の展望がより明確になる生徒が多いことがうかがえる。

他方、「仕事をするということの意味について自分なりの考えを持っている」「世の中には、さまざまな働き方や生き方があることを理解している」の2質問についても、上昇の幅は相対的に小さいが、一貫して『あてはまる』の値は上昇傾向にある。

これら、「キャリアプランニング能力」に関する質問の回答結果の変化から、高校生活の3年間を通じて、自身の進路についての考え方や職業に対する考え方が高まった生徒が多いのではないかと推察する。

図表 2-7 「キャリアプランニング能力」に関する設問の集計結果



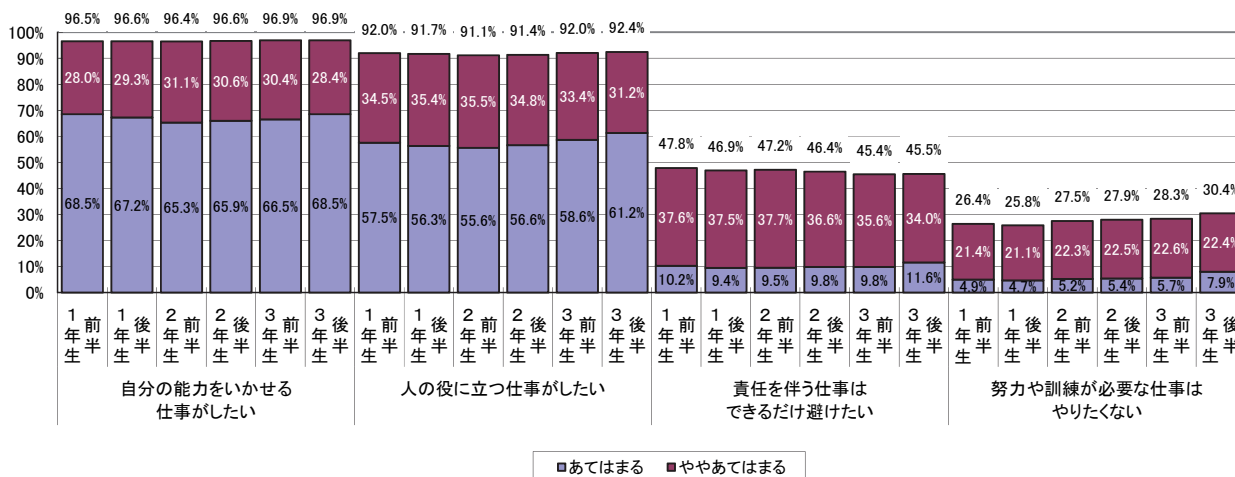
⑧職業観・勤労観

「職業観・勤労観」に関する状況を把握することを目的として、4つの質問を行った。

このうち、「自分の能力をいかせる仕事がしたい」や「人の役に立つ仕事がしたい」ということについては『あてはまる』の合計が9割を超えて推移している。一方で、「責任を伴う仕事はできるだけ避けたい」ということについては『あてはまる』の合計が約5割、「努力や訓練が必要な仕事はやりたくない」については『あてはまる』の合計が3割弱となっており、責任を伴う仕事や努力・訓練を伴う仕事は避けたいとの意識を有する者も一定程度存在していることがわかる。

1年生前半から3年生後半にかけての変化をみると、いずれもほぼ横ばいでの推移となっており、変化の幅は小さい。そのなかで、若干ではあるが、「人の役に立つ仕事がしたい」「努力や訓練が必要な仕事はやりたくない」については、3年生の時期にその値が若干上昇しているように見てとれる²。

図表 2-8 「職業観・勤労観」に関する設問の集計結果



² 「人の役に立つ仕事がしたい」との回答割合が高まる一方で「努力や訓練が必要な仕事はやりたくない」との回答割合もたかまっていること背景として、「努力や訓練が必要な仕事」として想起される内容が回答者により異なっていた可能性があり、場合によっては忍耐が必要な、より「きつい」仕事のことを想定して回答された可能性があるのではないかと推察される。

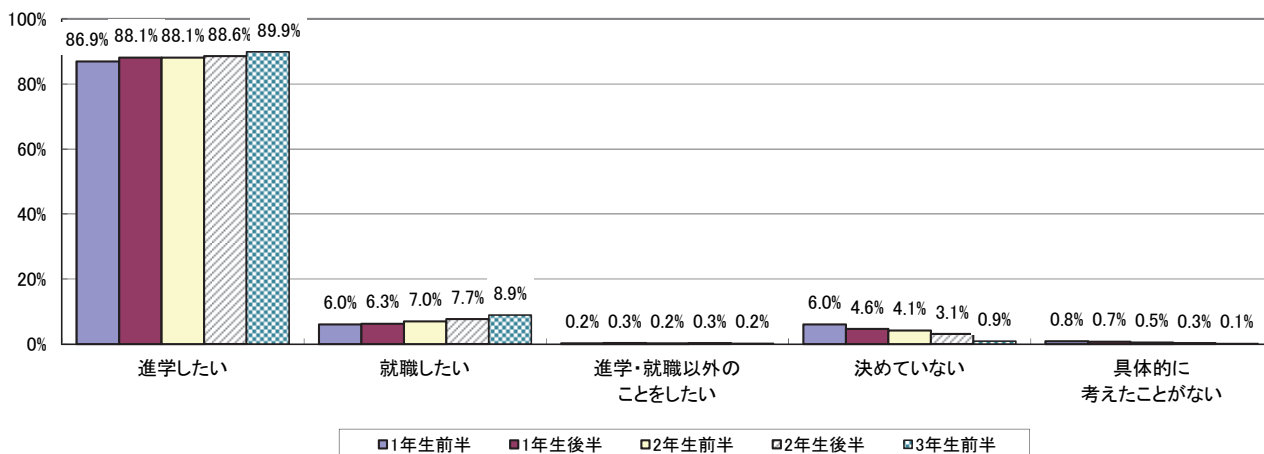
⑨卒業後の進路希望

卒業後の進路希望についてみると、いずれの調査時点においても、8割以上が「進学したい」としており、「就職したい」は1割未満、「決めていない」も1割未満となっている。また、「進学したい」者について進学したい学校の種類をたずねたところ、「大学」との回答が7割以上、「短期大学」が1割未満、「専門大学」が1割強となっている。

変化の状況に着目すると、進路希望については「決めていない」や「具体的に考えたことがない」の割合が減少傾向を見せ、他方で「進学したい」「就職したい」の割合が若干増加していることがわかる。また、進学したい学校の種類に関しては、「決めていない」の割合が減り、進路希望が次第に明確になっていく様子が見て取れる。

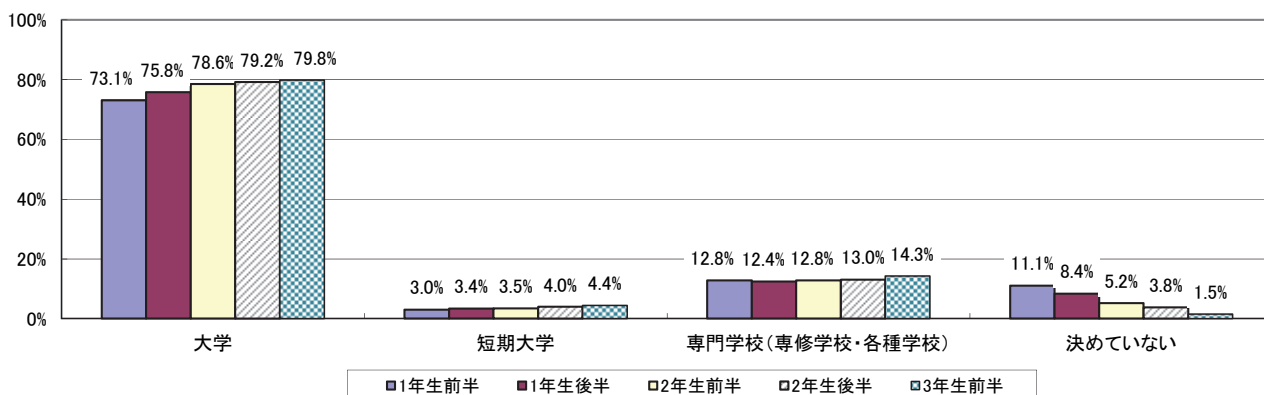
ただ、3年生前半の時期においても、「決めていない」「具体的に考えたことがない」との回答は一定割合見られる。

図表 2-9 卒業後の進路希望



※3年生後半調査では既に進路が決まっている者もいるため、このグラフには3年生後半調査の情報は掲載していない。

図表 2-10 進学したい学校の種類



※3年生後半調査では既に進路が決まっている者もいるため、このグラフには3年生後半調査の情報は掲載していない。

(2) 基礎的・汎用的能力に関する合成指標の作成と3年間の変化の把握

つづいて、「基礎的・汎用的能力」として設定した24の質問について、「あてはまる」を4点、「ややあてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点として点数化したものを6項目ずつ加算して指標化し、それぞれの指標により3年間の変化の様相を確認する。

①作成した合成指標と質問項目との対応関係

「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」のそれぞれについて、以下の図表 2-11 に整理した各質問項目により指標を作成した。それぞれ、最小値は6、最大値は24である。

図表 2-11 合成指標の作成に用いた質問項目の再整理

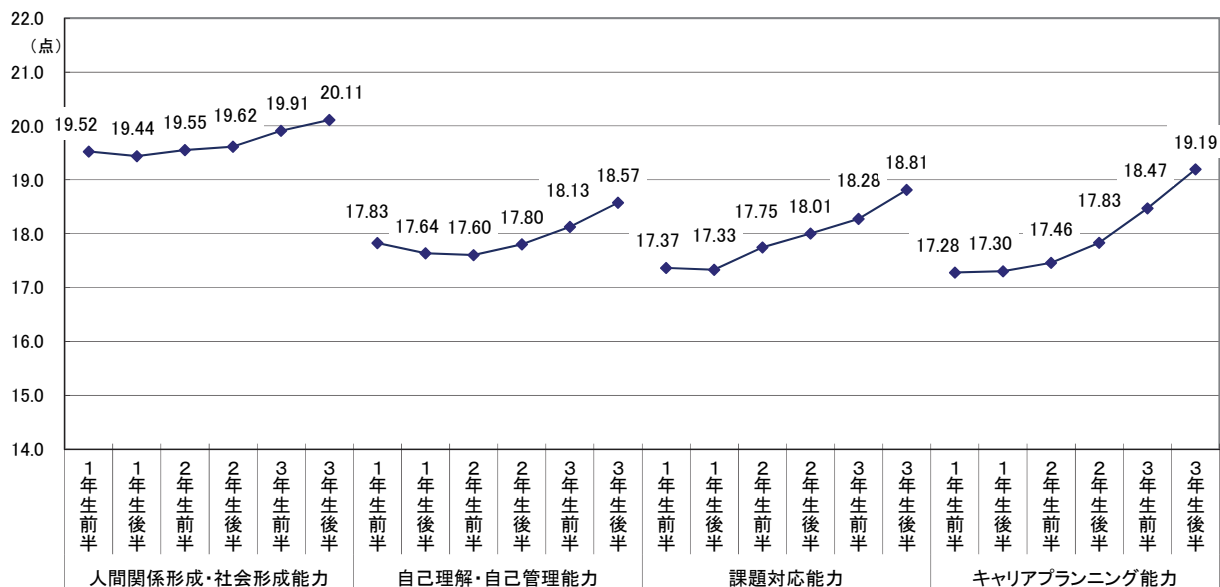
人間関係形成・社会形成能力	<p>「相手の気持ちを考えて話をするようにしている」</p> <p>「自分とはちがう考え方を持つ人のことも受けとめようとしている」</p> <p>「意見はわかりやすく伝えるように意識している」</p> <p>「ほかの人と一緒に何かをするときには、自分ができることは何かを考えて行動するようにしている」</p> <p>「ほかの人と一緒に何かをするときには、周りの人と力を合わせるということを意識している」</p> <p>「必要などときには、自分の意見をはっきり言うことができる」</p>
自己理解・自己管理能力	<p>「自分にはよいところがあると思っている」</p> <p>「自分が何に興味や関心があるのかわかっている」</p> <p>「身の回りのことは、できるだけ自分でしている」</p> <p>「必要などときには、苦手なことにもがんばって取り組むようにしている」</p> <p>「やるべきことがわかっているときには、ほかの人から指示される前に取り組むことができる」</p> <p>「気持ちが沈んでいるときなどであっても、しなければならぬことにはきちんと取り組むことができる」</p>
課題対応能力	<p>「わからないことがあったときには、自分からすすんで情報を集めることができる」</p> <p>「何か問題がおきたときには、なぜそうなったかを考えるようにしている」</p> <p>「何か問題がおきたときには、どのようにしたらその問題が解決できるかを考えるようにしている」</p> <p>「何か問題がおきたときには、次に同じようなことがおきないよう工夫をするようにしている」</p> <p>「何かに取り組むときには、計画を立てて取り組むようにしている」</p> <p>「何かに取り組むときには、進め方や考え方がまちがっていないか、ふり返って考えるようにしている」</p>
キャリアプランニング能力	<p>「勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている」</p> <p>「仕事をする意味について自分なりの考えを持っている」</p> <p>「世の中には、さまざまな働き方や生き方があることを理解している」</p> <p>「職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」</p> <p>「将来の夢や目標が具体的になっている」</p> <p>「将来の夢や目標に向かって努力している」</p>

②作成した指標から把握される変化

図表 2-12 から、作成した指標の変化の状況について確認すると、各指標とも 3 年生後半に向けて増加傾向にあることがわかる。このうち、「人間関係形成・社会形成能力」は、初回の水準が高いことが見て取れ、また、このことから、他の指標と比較すると、増加幅が相対的に小さいことがわかる。「自己理解・自己管理能力」については、2 年生前半まで減少するものの、その後上昇に転じるという特徴があることを確認することができる。

このほか、いずれの指標についても、1 年生の時期だけを取り出してみると、値の上昇がほとんど見られず、むしろ減少傾向にあることがわかる。このことについては、高校入学後、生徒が様々な経験をしながら、良い面・悪い面も含めていろいろな現実が見えてくることにより、ある種の「揺らぎ」を経験していることの表れなのではないかと考えられる。

図表 2-12 基礎的・汎用的能力に関する各指標から把握される 3 年間の変化



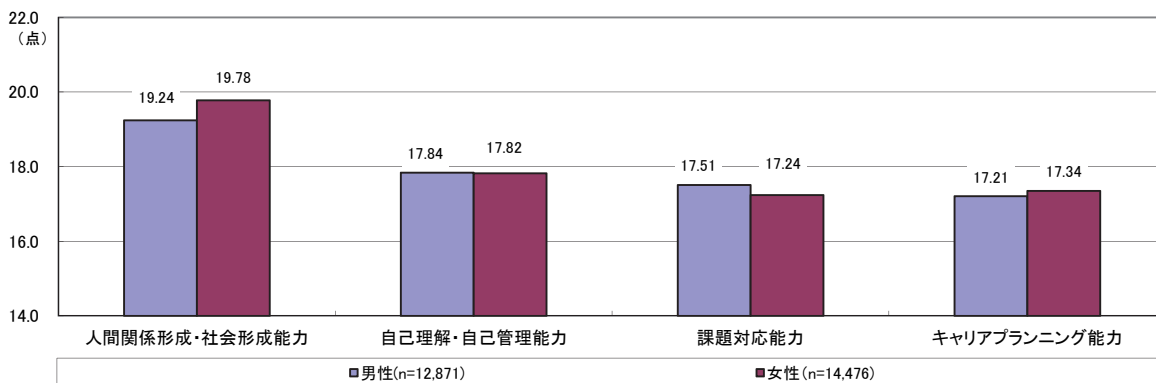
※各回・各調査項目に全て回答のあった 27,347 件を集計対象とした

③1 年生前半の時期における属性等と能力・意識水準との関係性

A) 性別との関係

作成した各指標について、性別による違いをみると、1年生の前半の時点では、「人間関係形成・社会形成能力」については男性よりも女性のほうが能力・意識の水準が高くなっている。一方で、「課題対応能力」は男性のほうが高く、各能力・意識の水準には性別による違いが見られることがわかる。

図表 2-13 基礎的・汎用的能力に関する各指標に関する性別の違い



※性別の、1 年生前半調査の基礎的・汎用的能力に関する各指標の水準

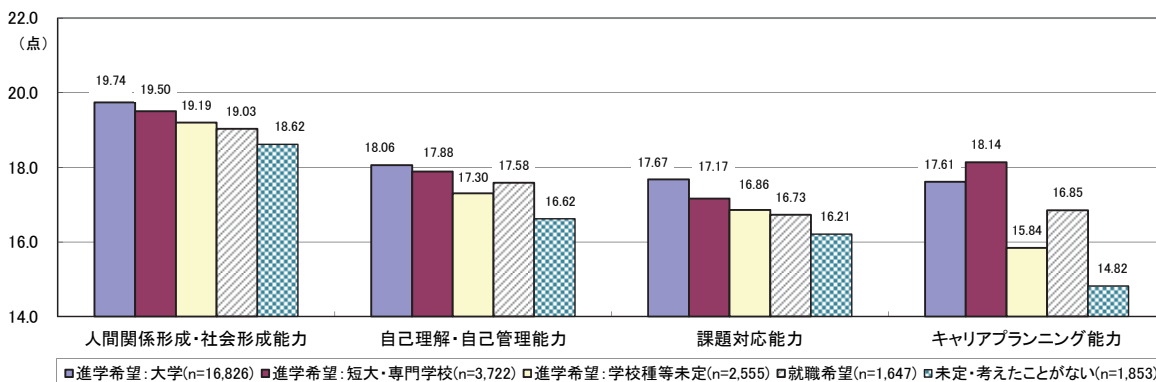
B) 進路希望との関係

1 年生前半の時点での進路希望と各指標の水準との関係性についてみると、進路希望について「決めていない」または「考えたことがない」と回答した生徒の場合、各指標ともに水準が低いことがわかる。

また、「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」については、就職希望者よりも大学等進学希望者において意識が高い傾向が見られるが、このことから、これらの能力・意識については一定程度「学力」との関連性があるのではないかと推察される。

他方で、「自己理解・自己管理能力」「キャリアプランニング能力」については、必ずしもそのような関係性は見られず、進学希望であっても具体的な学校種等が決まっていない生徒では水準が低くなっている。

図表 2-14 基礎的・汎用的能力に関する各指標と進路希望との関係性



※1 年生前半調査の進路希望別の、1 年生前半調査の時点の基礎的・汎用的能力に関する各指標の水準

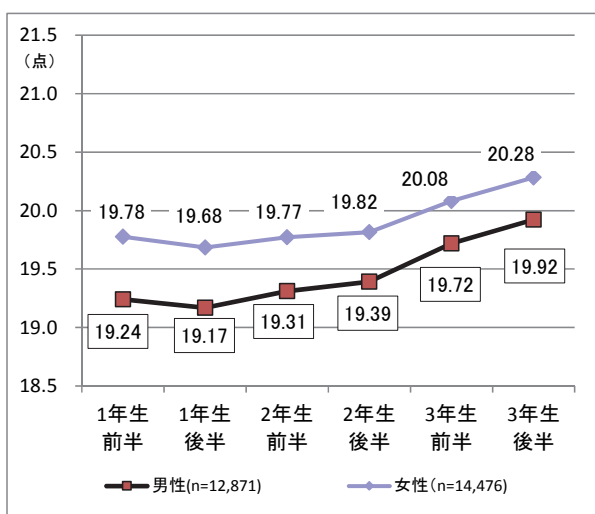
※「進学・就職以外のことをしたい」と回答した者と無回答であったものは集計対象外とした

④属性等と能力・意識の推移との関係性

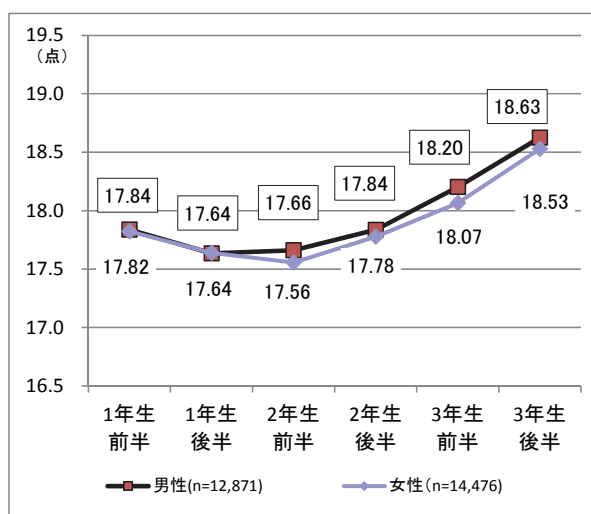
A) 性別との関係

性別による、各指標の推移の違いについてみると、図表 2-13 に示した「人間関係形成・社会形成能力」については女性で、「課題対応能力」については男性で高いということは、そのまま水準の違いとして3年間を通じて維持されていることがわかる（図表 2-15、図表 2-17）。また、比較的差は小さいが、「自己理解・自己管理能力」については女性よりも男性が高い状態のまま、「キャリアプランニング能力」は男性よりも女性が高い状態のまま推移していることも確認できる（図表 2-16、図表 2-18）。

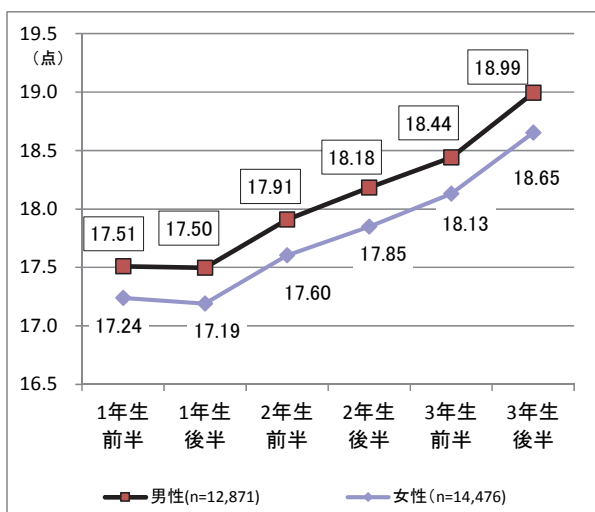
図表 2-15 性別と人間関係形成・社会形成能力



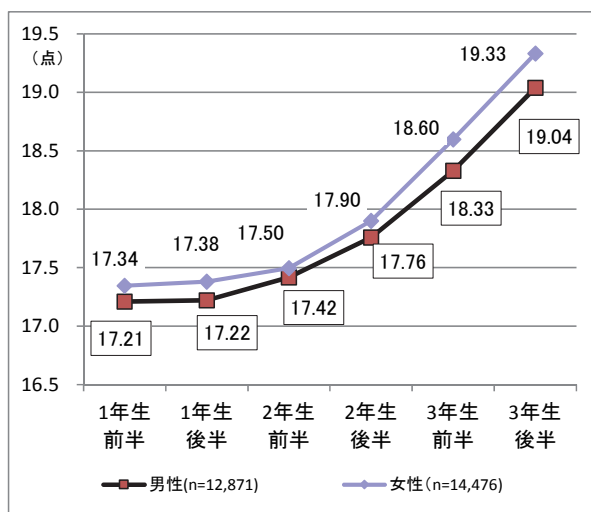
図表 2-16 性別と自己理解・自己管理能力



図表 2-17 性別と課題対応能力



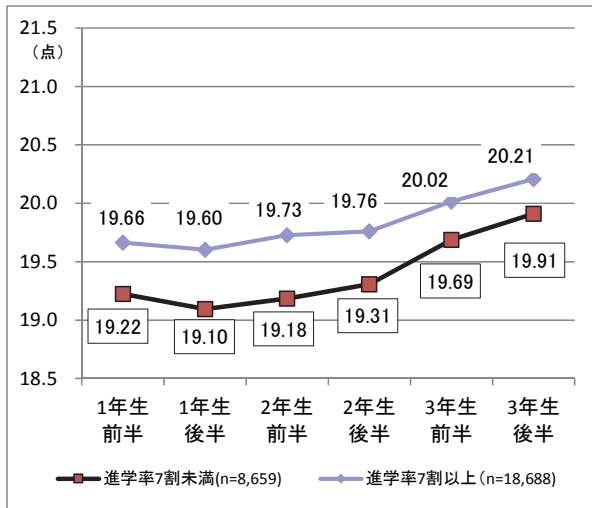
図表 2-18 性別とキャリアプランニング能力



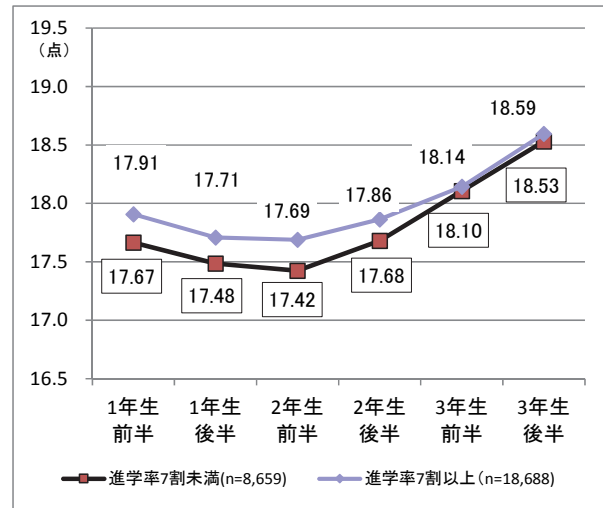
B) 学校の大学・短期大学進学率との関係

指標の推移について、各学校の大学・短期大学進学率別にみると³、まず、それぞれ、1 年前半の調査時点で、進学率が相対的に低い学校の生徒のほうが値が低くなっていることがわかる（図表 2-19～図表 2-22）。推移の状況についてみると、「人間関係形成・社会形成能力」と「自己理解・自己管理能力」については 3 年間の中で両者の差が小さくなっているものの、「キャリアプランニング能力」については、差が広がっていることがわかる。

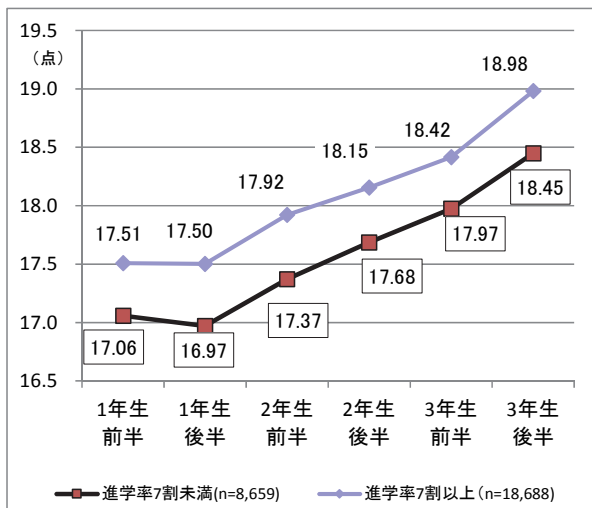
図表 2-19 進学率と人間関係形成・社会形成能力



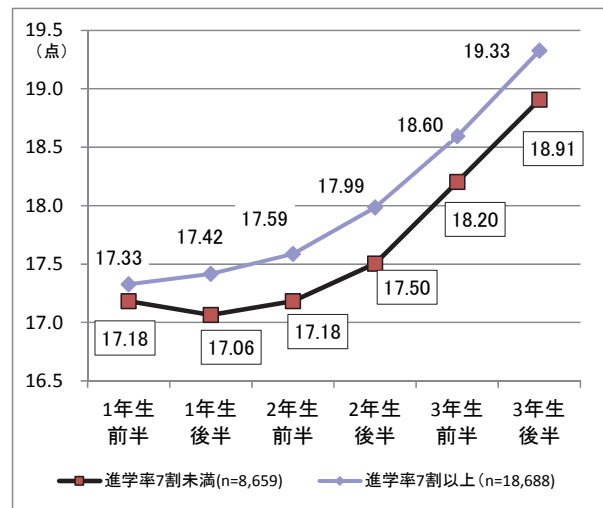
図表 2-20 進学率と自己理解・自己管理能力



図表 2-21 進学率と課題対応能力



図表 2-22 進学率とキャリアプランニング能力



³ 個々人の進路希望は調査回ごとに変化していることが考えられたことから、図表 2-14 に対応するものとして、大学・短期大学進学率別の推移を把握した。

3. キャリア教育に関する取り組みと生徒の変容との関連性の把握

次に、学校におけるキャリア教育への取り組み状況の違いによって、生徒向け調査の回答結果にどのような違いが見られるのか（あるいは、見られないのか）について、検討・分析を行う。

(1) 分析の枠組み

①分析で着目した点

本章の分析では、生徒向け調査の質問項目を6項目ずつ加算して作成した「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の各指標の変化の度合い（「変化量」）に着目した⁴。これらの変化量に対して、各学校で行われているキャリア教育に関する様々な取り組みや、個々人の就業体験（インターンシップ）経験の有無などが、どのように影響しているのかについて分析を行った。

なお、影響の度合いについて把握するために、分析方法としては回帰分析（単回帰分析・重回帰分析）を実施し、キャリア教育に関する取り組み等が、各指標の変化量に対して有意な関連性を有しているかどうかにより判断した。また、各指標の変化量については、調査回ごとの変化量と、1年生前半（最初の調査）と、3年生後半（最終回の調査）との間の変化量について、それぞれ分析を行った。調査回ごとの変化量については、例えば、表で「1年生前半～1年生後半」と示している部分があるが、これは、その間の変化について分析を行っていることを示している。

②変容の度合いに影響しうる要因として着目した点

基礎的・汎用的能力の変容に影響を与えうる要因として、以下の点に着目した分析を行った。

これらのうち、「キャリア教育に関する計画等の整備状況」「キャリア教育に関する目標設定の仕方」「教職員に対する研修実施の有無」、または「総合的な学習の時間やホームルーム活動でのキャリア教育に関する時間の多寡」については、各学校として、キャリア教育にどの程度力を入れて、体系的に取り組んでいるかを判断する指標として解釈した。

他方、「キャリア教育に関する実施プログラムの内容」「インターンシップ経験の有無」「インターンシップに関する事前・事後指導の実施状況」については、具体的なキャリア教育の内容であり、それらへの取り組みの有無が、生徒の能力・意識にどのように作用するのかについて分析を行った。

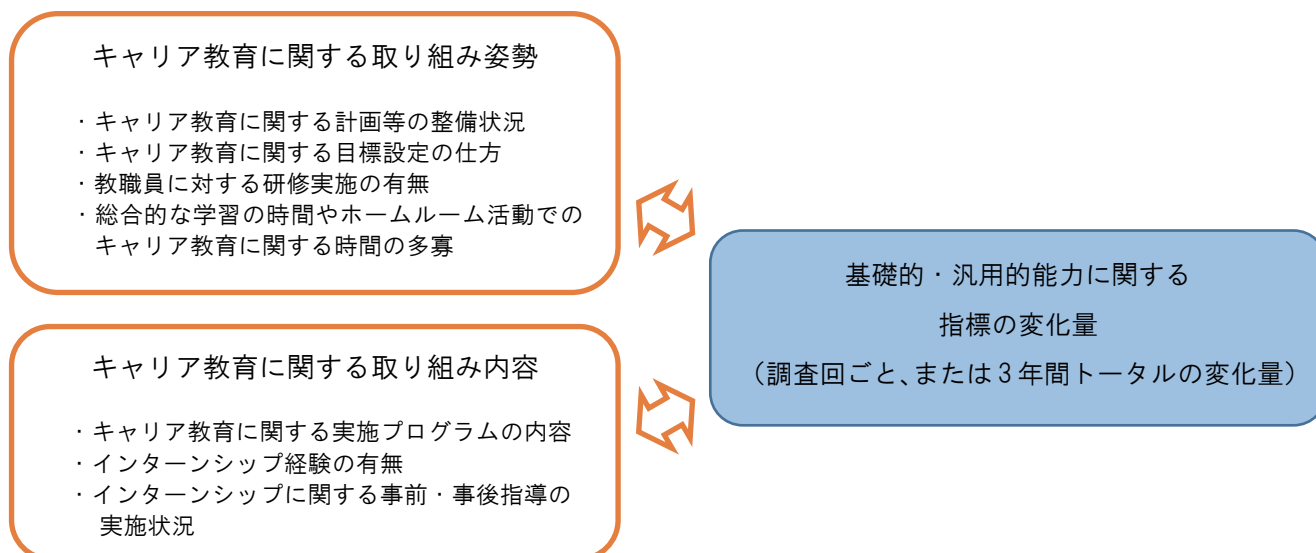
なお、「インターンシップ経験の有無」は、生徒に対して実施した調査から情報を得ており、それ以外の点については、学校向けに実施した質問紙調査から情報を得た。

<キャリア教育に関する取り組みと生徒の変容との関連性を把握する上で着目した点>

- キャリア教育に関する計画等の整備状況
- キャリア教育に関する目標設定の仕方
- 教職員に対する研修実施の有無
- 総合的な学習の時間やホームルーム活動でのキャリア教育に関する時間の多寡
- キャリア教育に関する実施プログラムの内容
- インターンシップ経験の有無
- インターンシップに関する事前・事後指導の実施状況

⁴ 基礎的・汎用的能力に関する24の項目全てに対して、各回の調査ともに回答があった27,347件を集計対象とした。

<分析枠組みのイメージ図>



③各指標・観点と質問紙調査の質問項目との対応関係

分析で着目した各観点について、質問紙調査の質問項目との対応関係は、次のように整理される。

<分析で着目した観点と質問紙調査の質問項目との対応関係>

指標・観点	質問紙調査の質問項目、比較の考え方
キャリア教育に関する計画等の整備状況	○学校調査より、「キャリア教育の目標を設定している」、「キャリア教育の全体計画を作成している」、「キャリア教育の年間指導計画を作成している」の3点について該当する学校と、そうではない学校とで比較した
キャリア教育に関する目標設定の仕方	○キャリア教育の目標の設定の仕方について、学年別に目標を設定しているかや、身に付けさせたい能力や態度まで設定しているかどうかについて把握し、それぞれ該当する学校と、そうではない学校とで比較した
教職員に対する研修実施の有無	○キャリア教育の教職員を対象とした校内研修会を実施している学校と実施していない学校とを比較した
総合的な学習の時間やホームルーム活動でのキャリア教育に関する時間の多寡	○「総合的な学習の時間」または「ホームルーム活動（ロングホームルーム）」で、キャリア教育に関する内容に年間でどれくらい時間をかけているかの時間の多寡で比較した
キャリア教育に関する実施プログラムの内容	○「キャリアプラン等の作成」「キャリア・ポートフォリオの作成・活用」、「上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会」、「卒業生（大学生や若手社会人など）による講演・体験発表会・懇談会」、「上級学校のオープンキャンパス等への参加」、「職場見学・ジョブシャドウイング」、「職業体験（インターンシップ）」のそれぞれについて、実施している学校と、そうではない学校とで比較した
インターンシップ経験の有無（個人単位）	○生徒調査の結果から、1年生・2年生・3年生の各時期にインターンシップに参加した経験のある生徒とそうではない生徒とを比較した
インターンシップに関する事前・事後指導の実施状況	○各学校に関し、インターンシップの実施に際し実施している事前・事後指導の内容によって比較した

④結果の示し方、解釈の仕方

キャリア教育に関する取り組み等が、各指標の変化量に対して影響を持ちうるかどうかについては、回帰分析の結果により判断をした。

回帰分析は、 $y=bx+a$ の式により、 y と x の関係性をみる分析の方法である。ここでは、 y を「基礎的・汎用的能力に関する指標の変化量」、 x を「キャリア教育に関する取り組みの内容・有無」とし、 b の値（回帰係数）がプラスかマイナスかという点に着目している。例えば、「1 年生前半から後半にかけての人間関係形成の変化量」が、「キャリア教育に関する目標を設定している」学校の生徒のほうが高ければ b の係数はプラスとなり、逆に低ければ係数はマイナスとなる。

また、統計的にその関係性が見られるということの確からしさに関する情報もふまえ、分析結果については、図表中に「△」または「▼」の記号により示した。「△」は、回帰分析の結果、着目した要因・変数（ x ）の基礎的・汎用的能力に関する指標の変化量（ y ）に対する係数（ b ）がプラスの関係にあることを意味し、記号の数はその関係性の確からしさの度合いを表している。

記号の見方として具体的には、「△」が 10%水準、「△△」が 5%水準、「△△△」が 1%水準で統計的に有意であったことを意味し、記号の数が多きほど（有意性の水準の値が小さいほど）、明確な関連性が見られる可能性が高いものとする。同様に、「▼」については、有意にマイナスの関係にあることを意味している。なお、図表の中で「△」「▼」のいずれの記号も記載していない箇所は、 y と x の関係性について、統計的に明確な関係性があるとはいえなかったことを意味している。

着目する要因・変数（ x ）がひとつの場合は、上記の $y=bx+a$ の関係式による単回帰分析、複数の要因・変数の関係性について同時に検討する場合には重回帰分析を行っている。重回帰分析は、例えば、「キャリアプラン等の作成」や「キャリア・ポートフォリオの作成・活用」「上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会」など、複数の取り組みが実施されている場合に、これら複数の要因間の関係性を考慮した上で、どの要因が指標の変化量に対して関連性を持ちうるかを判断する上で役に立つ⁵。

⁵ なお、重回帰分析の結果の見方・解釈として、「▼」の記号がついた場合に、そのことがすなわち、「ある取り組みを実施するとマイナスの影響が出る」ということを意味するわけではないということには留意が必要である。上記の例で考えると、仮に「キャリアプラン等の作成」や「キャリア・ポートフォリオの作成・活用」を実施している学校がある程度重複して見られる場合等には、どちらかには「△」の関連性が見られ、他方の取り組みについて「▼」という結果が見られることもありうるが、このような場合には、「▼」がついた取り組みを実施しないほうがよいということも必ずしも意味しないのではないかと考えられる。

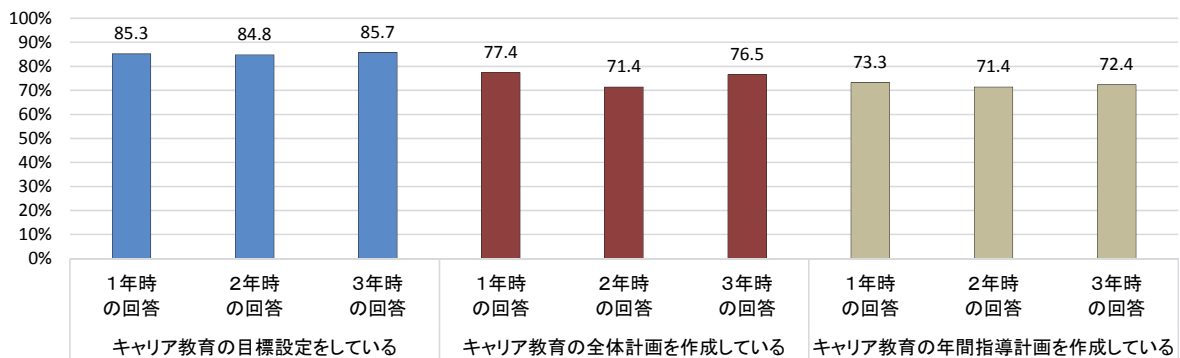
(2) 分析結果

①目標設定・計画の作成の状況との関係について

「キャリア教育の目標を設定しているか」「キャリア教育の全体計画を作成しているか」「キャリア教育の年間指導計画を作成しているか」の3点について、回答年度によって若干値の変動があるものの、調査対象とした学校の7割以上が「設定／作成している」と回答している(図表3-1-1)。

これらについて、それぞれ、いずれの年度についても「設定／作成している」と回答している学校と、それ以外の学校とに分類し、目標設定をしているか、または計画作成をしているか否かと、各指標の変化量との関係について分析を行った。その結果、目標設定・計画の作成をしている学校の生徒では、基礎的・汎用的能力に関する各指標のいずれについても、1年生後半から2年前半の時期にかけての変化について、プラスの方向性での変化の度合いが大きくなっていることが確認された(図表3-1-2)。ただし、それ以降の変化量については必ずしもそのような傾向は見られず、また、1年前半から3年生後半にかけてのトータルの変化についても、目標設定・計画の作成をしている学校の生徒とそれ以外の学校の生徒との間に、変化量の違いはほとんど見られない。

図表 3-1-1 キャリア教育に関する目標設定・計画作成の状況



※集計対象度数はいずれも 217 である。ここに示した割合は「設定／作成している」と回答した学校の、集計対象度数に対する割合である。

図表 3-1-2 キャリア教育に関する目標設定・計画作成の状況と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

	人間関係形成・社会形成能力変化量						自己理解・自己管理能力変化量					
	1年生後半	1年前半	2年生後半	2年前半	3年生後半	3年前半	1年生後半	1年前半	2年生後半	2年前半	3年生後半	3年前半
キャリア教育目標あり		△△△	▼					△△△				△
全体計画作成あり						▼						
年間指導計画作成あり								△△△			▼▼	
	課題対応能力変化量						キャリアプランニング能力変化量					
	1年生後半	1年前半	2年生後半	2年前半	3年生後半	3年前半	1年生後半	1年前半	2年生後半	2年前半	3年生後半	3年前半
キャリア教育目標あり		△△△	▼▼▼					△△△	▼▼▼			▼
全体計画作成あり		△△		▼▼				△△				▼
年間指導計画作成あり		△△△	▼▼		▼▼			△△△	▼▼	▼▼	▼▼	▼

※△は、単回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。
 ※目標設定・計画作成の有無はそれぞれ関連性が強いことが予想されたことから、単回帰分析により状況の把握を行った。
 ※各質問項目に無回答であった学校は、ここでは「設定／作成していない」として集計した。

図表 3-1-3 は、これら、キャリア教育に関する目標の設定、全体計画の作成、年間指導計画の作成の3点について、各学校の取り組みの状況を見たものである。1年時から3年時にかけての3年間で毎年、「目標設定」「全体計画作成」「年間指導計画作成」の全てを「している」と回答した場合には回答項目数9として、また、3年間いずれも行っていない場合には回答項目数0として、それぞれの学校がどの程度、目標の設定や計画の作成等に取り組んでいるのかを整理した。

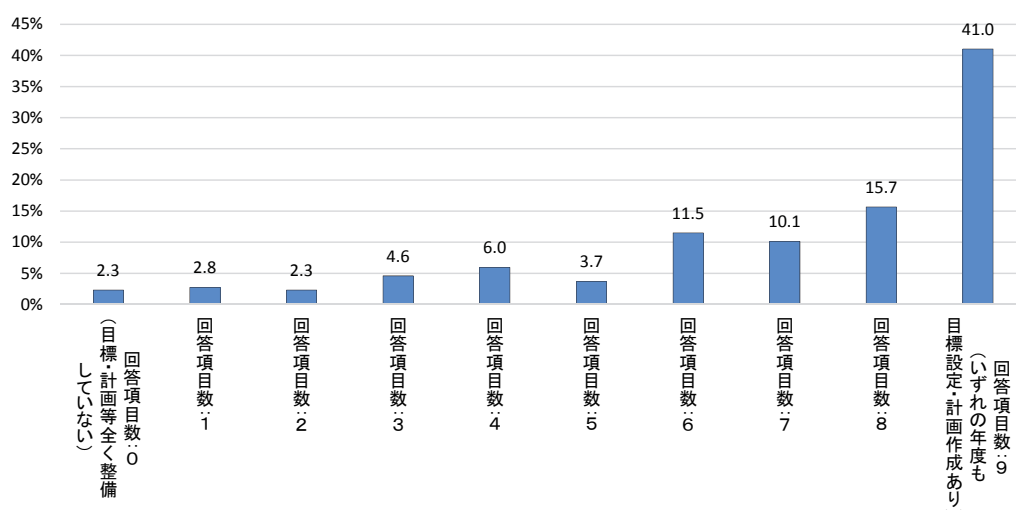
このような整理の結果、毎年、「目標設定」「全体計画作成」「年間指導計画作成」の3点ともに「している」と回答したのは全体の学校の41.0%であり、他方で、3年間これらを全く行っていない学校は2.3%であった。

また、このような回答状況にあることをふまえ、目標の設定や計画の作成にあまり取り組んでいない学校（回答項目数が0～3の学校⁶）の生徒と、比較的良好に取り組んでいる学校（回答項目数が4～9の学校）の生徒とに分類し、基礎的・汎用的能力に関する各指標の推移について比較を行ったのが図表 3-1-4～図表 3-1-7 である。

これらから、やはり、キャリア教育に関する目標の設定や計画等の整備が比較的確り合いと行われている学校の生徒では、1年生前半から2年生後半にかけての能力・意識のプラスの変化の度合いが比較的大きいことがわかる。それに対して、キャリア教育に関する目標設定や計画等の作成があまりなされていない学校の生徒では、2年生後半の時期になって、自身の能力についての意識が高まる生徒が多いことがうかがえる。

また、「自己理解・自己管理能力」については、1年生前半から3年生後半にかけてのトータルの変化量について、目標設定や全体計画・年間指導計画の作成が比較的確り合いとなされている学校の生徒のほうがプラスの変化の度合いが大きくなっていることも確認できる（図表 3-1-8）。

図表 3-1-3 平成24年度から平成26年度にかけてのキャリア教育に関する目標設定・計画作成の状況



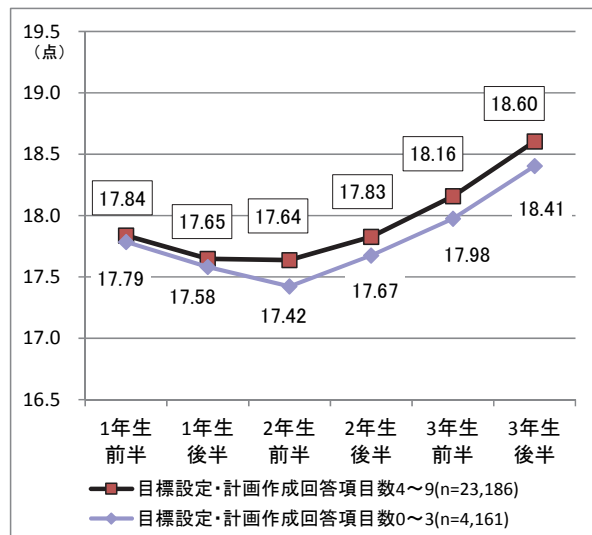
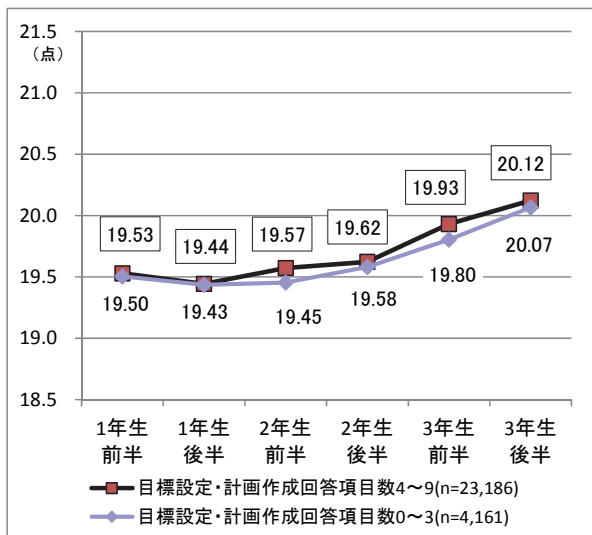
※集計対象度数は217である。

※「キャリア教育の目標を設定しているか」「キャリア教育の全体計画を作成しているか」「キャリア教育の年間指導計画を作成しているか」の3点について、平成24年度～平成26年度（1年時～3年時）のそれぞれ「している」と回答された項目の数をカウントした。

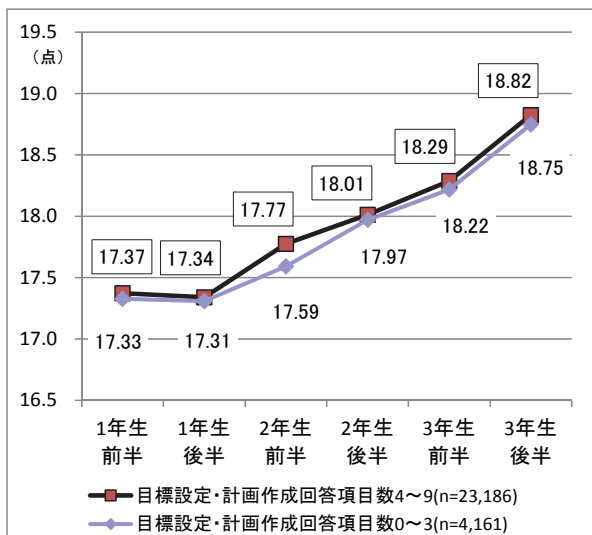
※回答項目数が0の場合には、いずれの年度の回答についても、目標の設定ならびに全体計画・年間指導計画の作成ともに、全く実施されていないことを意味する。回答項目数が9の場合には、毎年度、3点すべてについて実施しているとの回答が得られていることを意味する。

⁶ キャリア教育に関する目標設定や全体計画・年間指導計画の作成について全くしていないか、目標設定や計画作成をしても、いずれか1つのみである学校が想定され、全体の10%強の学校が該当する。

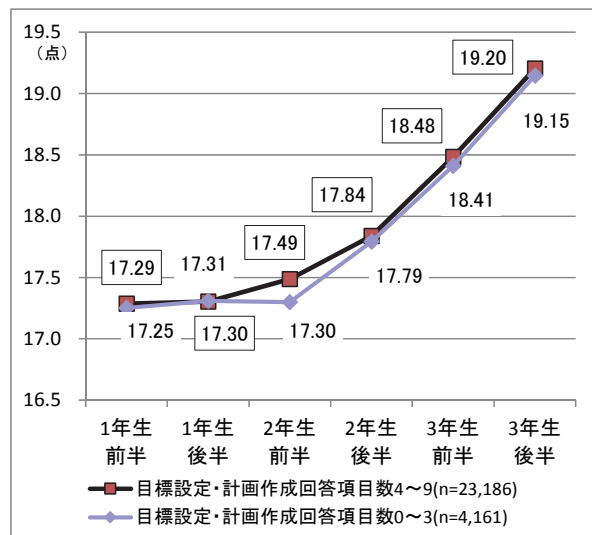
図表 3-1-4 目標設定等の状況と人間関係形成・社会形成能力 図表 3-1-5 目標設定等の状況と自己理解・自己管理能力



図表 3-1-6 目標設定等の状況と課題対応能力



図表 3-1-7 目標設定等の状況とキャリアプランニング能力



図表 3-1-8 キャリア教育に関する目標設定・計画作成の状況と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

(平成 24 年度から平成 26 年度の計 3 回の調査で、「キャリア教育の目標を設定している」「キャリア教育の全体計画を作成している」「キャリア教育の年間指導計画を作成している」の 3 点についての回答項目数が 4~9 と比較的多かった学校の生徒と、項目数が 0~3 と比較的低かった学校の生徒との比較)

	1年生 前半	1年生 後半	2年生 前半	2年生 後半	3年生 前半	3年生 後半
目標設定、全体計画・年間指導計画に関する回答項目数：4~9						
人間関係形成・社会形成能力の変化量		△△△	▼▼	△△	▼	
自己理解・自己管理能力の変化量		△△△				△△△
課題対応能力の変化量		△△△	▼▼▼			
キャリアプランニング能力の変化量		△△△	▼▼▼			

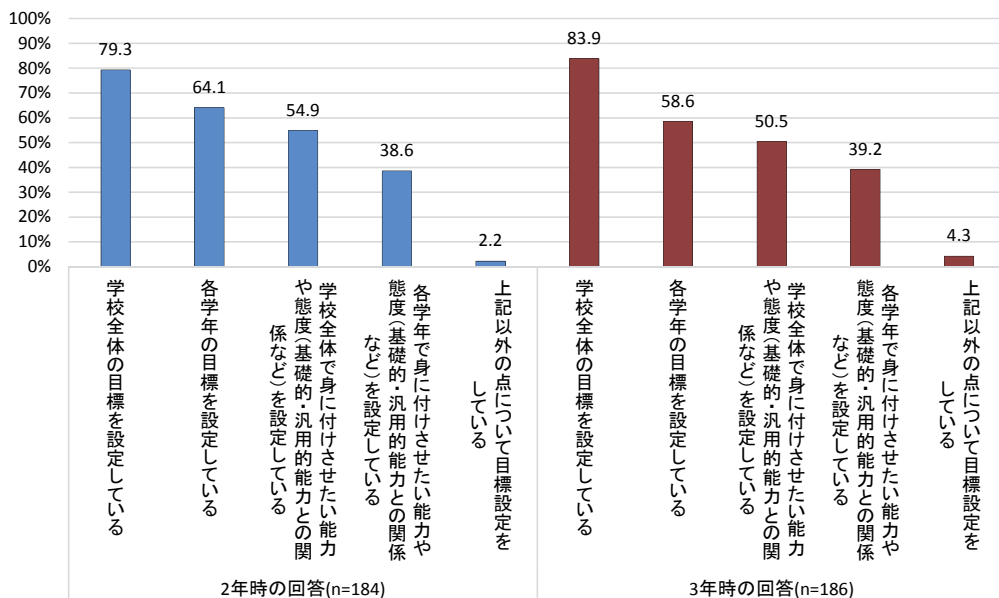
※△は、単回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が 10%水準、△△が 5%水準、△△△が 1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

②目標設定の仕方との関係について

「キャリア教育の目標を設定している」と回答があった学校について、どのような目標を設定しているかをたずねた。回答年度によって若干値の変動があるが、目標設定をしている学校の約8割は学校全体の目標を設定していることを確認することができる（図表3-2-1）。他方で、各学年の目標を設定している学校や、身に付けさせたい能力や態度（基礎的・汎用的能力との関係など）に関する目標を設定している学校は相対的に少ないことがわかる。（なお、当該質問は1年時の調査では行っていない。）

これらについて、2年時調査、3年時調査のいずれについても回答がみられたものから目標設定の状況を把握し、各指標の変化量との関係について重回帰分析を行った（図表3-2-2）。分析結果からは、必ずしも身に付けさせたい能力や態度まで設定している学校の生徒で変化量のプラスの度合いが大きいわけではないことがわかるが、「各学年の目標を設定している」学校の場合、指標の変化量についてプラスの影響が大きくなっている点が多いことも見て取れる。

図表 3-2-1 キャリア教育に関する目標設定の内容



※各年度の調査で「キャリア教育に関する目標を設定している」と回答した学校が集計の対象である。

図表 3-2-2 キャリア教育に関する目標設定・計画作成の状況と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

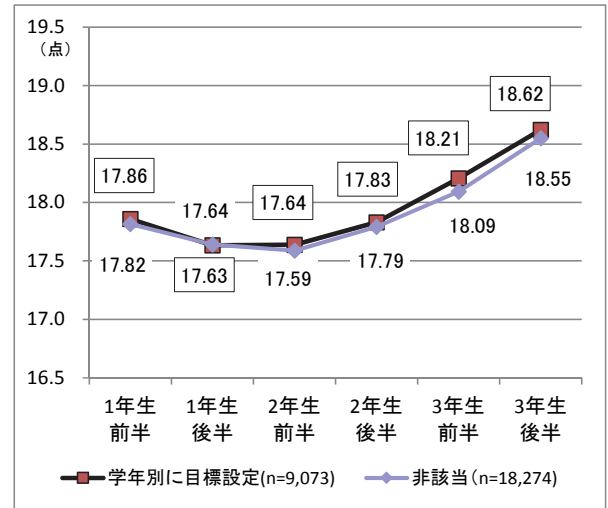
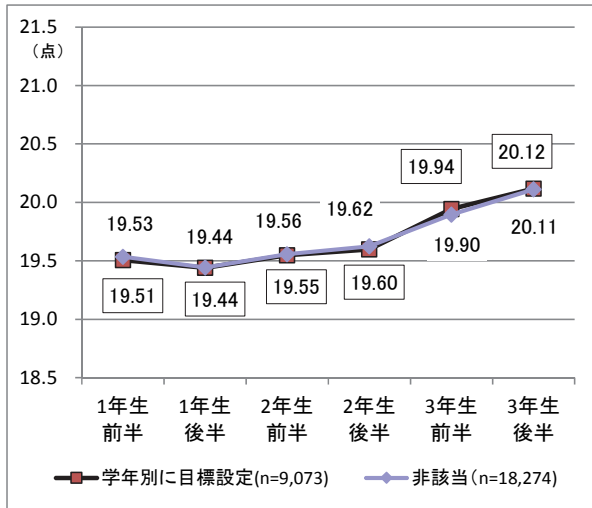
	人間関係形成・社会形成能力変化量						自己理解・自己管理能力変化量									
	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 前半	1 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 前半	2 年生 後半	3 年生 後半	3 年生 前半	1 年生 前半	2 年生 前半	1 年生 後半	2 年生 後半	3 年生 後半	3 年生 前半	1 年生 後半
学校全体の目標を設定			△	▼	▼							▼▼				
各学年の目標を設定					△△		△		△△△			△△			△△△	
学校全体で身に付けさせたい能力等設定								△△				▼▼				
各学年で身に付けさせたい能力等設定		▼▼▼		△△				▼▼	▼▼					▼▼	▼▼▼	
その他の目標設定																
	課題対応能力変化量						キャリアプランニング能力変化量									
	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 前半	1 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 前半	2 年生 後半	3 年生 後半	3 年生 前半	1 年生 前半	2 年生 前半	1 年生 後半	2 年生 後半	3 年生 後半	3 年生 前半	1 年生 後半
学校全体の目標を設定		△△△	▼▼	▼▼▼	△△				△	▼▼▼			△△			
各学年の目標を設定		△△△	▼▼▼	△△△	▼▼				△△△	▼▼▼					△△	
学校全体で身に付けさせたい能力等設定				▼▼	△△△			△△△	▼							
各学年で身に付けさせたい能力等設定		▼▼	△		▼▼		▼▼		▼▼▼	△△△				▼▼▼	▼▼▼	
その他の目標設定	▼	△△△	▼▼									▼				

※△は、重回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。
 ※比較の対象群にはキャリア教育に関する目標を設定していない学校も含まれる。

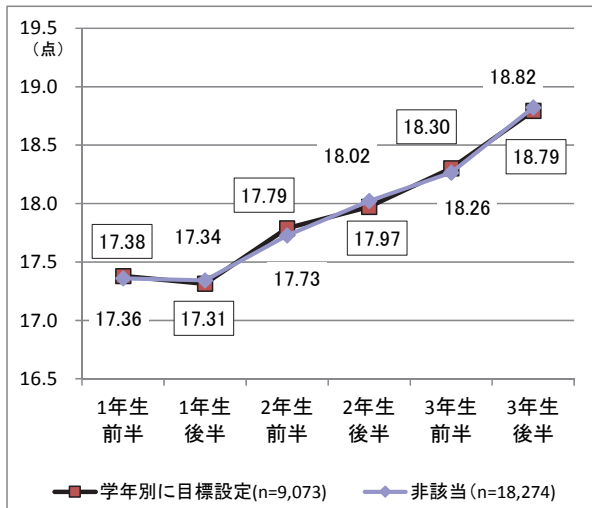
上記の結果をふまえ、「各学年の目標を設定している」学校の生徒の場合とそれ以外の学校の生徒との違いについて、あらためて、各指標の推移について把握し（図表 3-2-3～図表 3-2-6）、回帰分析により変化量の差について検定を行った（図表 3-2-7）。

検定の結果をみると、1年生前半から3年生後半のトータルの変化量については、各指標ともに有意な差が見られなかった。ただし、1年生後半から2年生前半、または2年生後半から3年生前半と、学年が変わるタイミングでは、学年別の目標を設定している学校の生徒における能力・意識についてプラスの変化が比較的大きくなっていることがうかがえる。

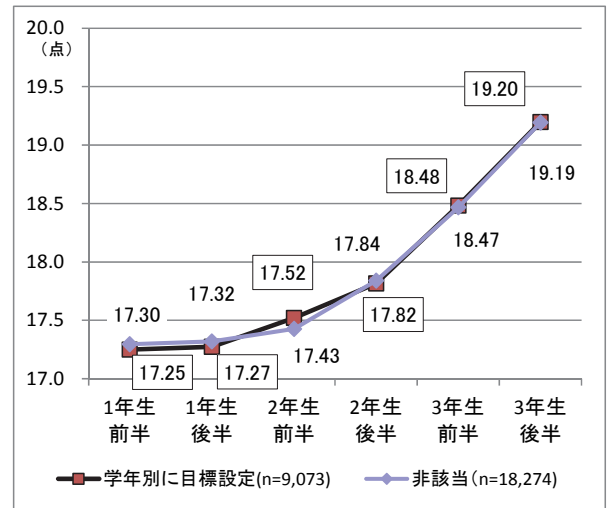
図表 3-2-3 学年別の目標設定と人間関係形成・社会形成能力 図表 3-2-4 学年別の目標設定と自己理解・自己管理能力



図表 3-2-5 学年別の目標設定と課題対応能力



図表 3-2-6 学年別の目標設定とキャリアプランニング能力



図表 3-2-7 キャリア教育に関する目標設定の仕方と基礎的・汎用的能力の変化量との関係
(目標設定について「各学年別の目標を設定している」と回答した学校の生徒とそれ以外の学校の生徒との比較)

		1年生前半 1年生後半	1年生後半 2年生前半	2年生前半 2年生後半	2年生後半 3年生前半	3年生前半 3年生後半	1年生前半 3年生後半
各学年の目標を設定している	人間関係形成・社会形成能力の変化量				△△		
	自己理解・自己管理能力の変化量		△		△△		
	課題対応能力の変化量		△△	▼▼▼	△△	▼	
	キャリアプランニング能力の変化量		△△△	▼▼▼			

※△は、単回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

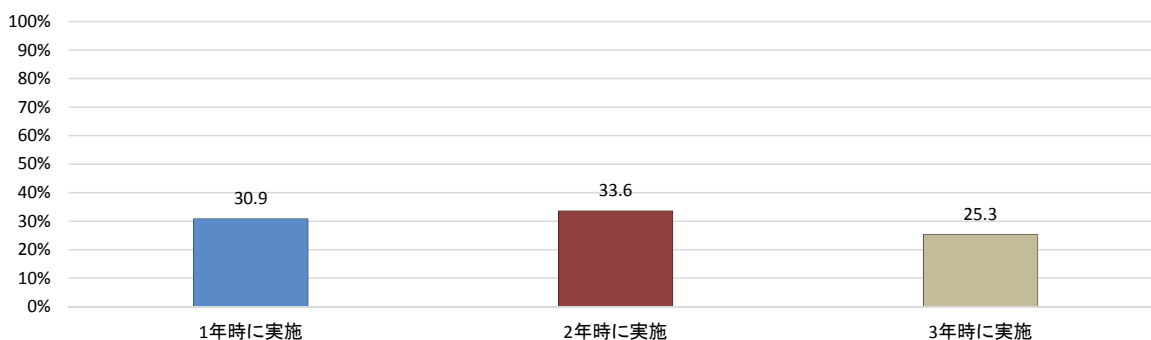
③教職員向け校内研修会の実施との関係について

「キャリア教育について教職員を対象とした校内研修会を実施したか」についての回答をみると、各調査時について、3割前後の学校で「実施している」との回答があった（図表 3-3-1）。（ただし、1年時の実施状況は、2年時の調査で回顧的にたずねたものである。）

それぞれの年度別に「実施している」か否かと、基礎的・汎用的能力に関する各指標の変化量との関係についてみると、1年時に校内研修会を実施した学校の生徒では、1年生前半から1年生後半にかけての変化の度合いがプラスに大きくなっている（図表 3-3-2）。

また、2年時に研修会を実施した学校の生徒では、1年生後半から2年生前半の時期における変化量がプラスに大きくなっている。このほか、3年時に研修会を実施した学校の生徒では、各指標ともに、1年生前半から3年生後半にかけてのトータルの変化量が有意に大きくなっている。

図表 3-3-1 キャリア教育について教職員を対象とした校内研修会の実施の状況



※集計対象度数はいずれも 217 である。

※ここに示した割合は「実施している」と回答した学校の集計対象度数に対するものである。

図表 3-3-2 教職員を対象とした校内研修会の実施の状況と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

	人間関係形成・社会形成能力変化量						自己理解・自己管理能力変化量							
	1年生後半	1年生前半	2年生前半	1年生後半	2年生前半	3年生前半	2年生後半	3年生後半	3年生前半	1年生後半	2年生前半	3年生前半	2年生後半	3年生後半
平成 24 年度（1 年時）に実施	△△	▼▼▼					▼▼	△				▼▼▼		▼▼
平成 25 年度（2 年時）に実施		△△						△						
平成 26 年度（3 年時）に実施		△△△	▼			△△	△△△					△△		△△
	課題対応能力変化量						キャリアプランニング能力変化量							
	1年生後半	1年生前半	2年生前半	1年生後半	2年生前半	3年生前半	2年生後半	3年生後半	3年生前半	1年生後半	2年生前半	3年生前半	2年生後半	3年生後半
平成 24 年度（1 年時）に実施		▼▼			▼▼		▼▼▼	△△△	▼		▼▼▼	△		
平成 25 年度（2 年時）に実施		△△△							△△	▼▼	△			
平成 26 年度（3 年時）に実施			▼		△		△△	▼▼	△△△	▼▼	△△△			△△△

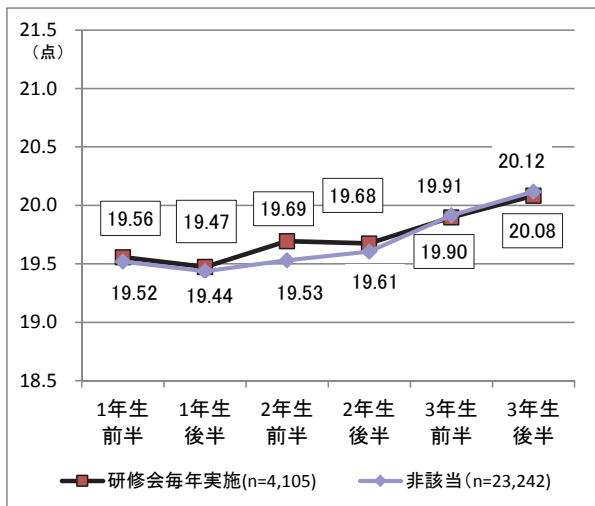
※△は、重回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が 10%水準、△△が 5%水準、△△△が 1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。※各質問項目に無回答であった学校は、ここでは「実施していない」として集計した。

上記の結果をふまえ、「教職員を対象とした校内研修会」について、毎年実施した学校の生徒と、それ以外の学校の生徒とを区別して、基礎的・汎用的能力の各指標の推移について把握し（図表 3-3-3～図表 3-3-6）、変化量の差について検定を行った（図表 3-3-7）。

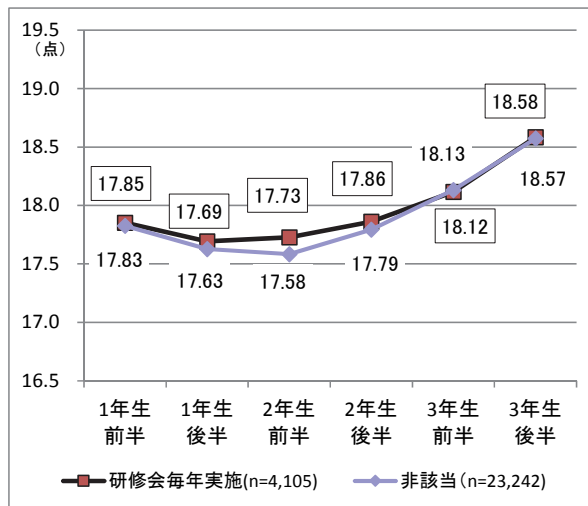
これらから、教職員を対象とした研修会等が毎年実施されている学校の生徒では、特に 1 年生後半から 2 年生前半の時期にかけての能力・意識のプラスの変化の度合いが大きいことがわかる。他方で、研修会等が実施されていない、あるいは実施されてはいるが毎年実施されていたわけではない学校の生徒については、2 年生から 3 年生前半にかけての時期に、自身の能力について意識を高める生徒が多くなっているものと考えられる。

なお、3 年間のトータルでは、各指標の変化量の度合いに両群で有意な違いは見られなかった。

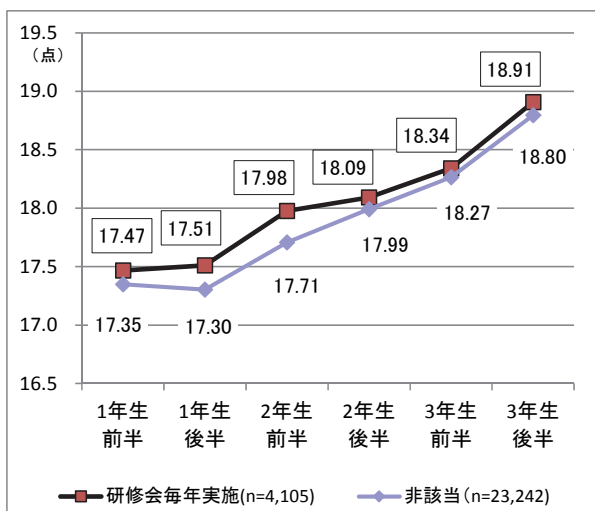
図表 3-3-3 研修会の実施と人間関係形成・社会形成能力



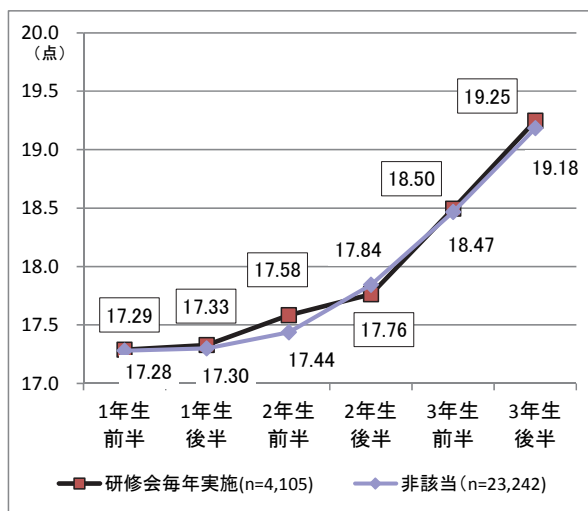
図表 3-3-4 研修会の実施と自己理解・自己管理能力



図表 3-3-5 研修会の実施と課題対応能力



図表 3-3-6 研修会の実施とキャリアプランニング能力



図表 3-3-7 教職員を対象とした校内研修会の実施の状況と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

(1年時・2年時・3年時の毎年、「キャリア教育について教職員を対象とした校内研修会を実施した」と回答した学校の生徒と、それ以外の学校の生徒とを比較)

		1年生後半 1年生前半	1年生後半 2年生前半	2年生後半 2年生前半	2年生後半 3年生前半	3年生後半 3年生前半	1年生後半 3年生前半
キャリア教育について教職員を対象とした校内研修会を毎年実施	人間関係形成・社会形成能力の変化量		△△△	▼▼	▼▼		
	自己理解・自己管理能力の変化量		△	▼	▼		
	課題対応能力の変化量	△		▼▼▼			
	キャリアプランニング能力の変化量		△△	▼▼▼	△△		

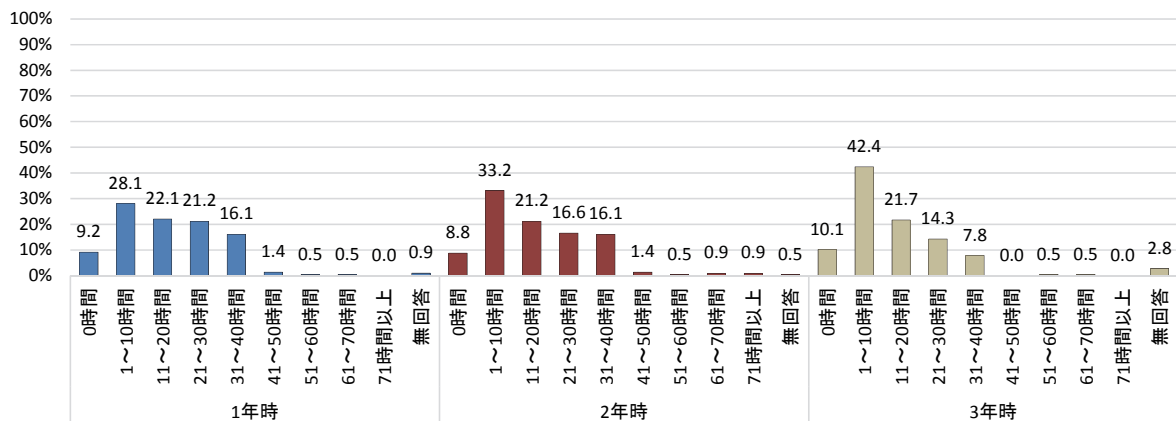
※△は、単回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

④総合的な学習の時間やホームルーム活動でのキャリア教育に関する時間の多寡との関係

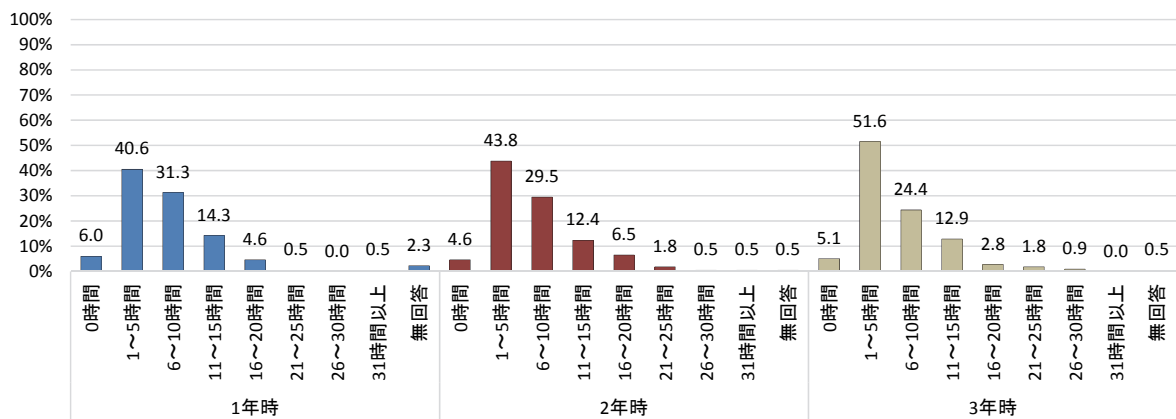
1年生から3年生の各時期に、『総合的な学習の時間』で、自己の在り方・生き方を考えさせる等、キャリア教育に関する内容に年間どれくらい時間をあてているか」、また、『ホームルーム活動(ロングホームルーム)』で、自己の在り方・生き方を考えさせる等、キャリア教育に関する内容に年間どれくらい時間をあてているか」についてたずねた回答をみると、総合的な学習の時間については各学年ともに「1～10時間」との回答が最も多く、ホームルーム活動については「1～5時間」との回答が最も多くなっている(図表3-4-1、図表3-4-2)。なお、それぞれ、「0時間」の学校もあることが確認される。

キャリア教育に関する内容にかけられている時間の多寡について、総合的な学習の時間とホームルーム活動に関する回答結果の組み合わせにより、学年年別に、かけられている時間が相対的に多い学校と少ない学校とに区分し⁷、分析を行った。その結果、特に2年生の時期に、キャリア教育に関する内容に比較的多くの時間がかけられている学校の生徒では、1年生後半から2年生前半にかけて「自己理解・自己管理能力」や「キャリアプランニング能力」についてプラスの変化が大きくなっており、さらに1年生前半から3年生の後半にかけてのトータルの変化についても違いが見られることがわかった(図表3-4-3)。

図表 3-4-1 総合的な学習の時間でキャリア教育に関する内容に年間であてている時間数



図表 3-4-2 ホームルーム活動の時間でキャリア教育に関する内容に年間であてている時間数



⁷ 平成24年度の報告書に掲載した分析方法と同様に、回答の組み合わせにより判断し、キャリア教育に関する内容にかけられている時間が概ね25時間を超える学校と、25時間以下の学校とに区分した。なお、時間の多寡について区分の仕方を変更することで、本報告書で行った分析とは異なる傾向の分析結果が得られる可能性があることも考えられる。

図表 3-4-3 総合的な学習の時間・ホームルーム活動の時間と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

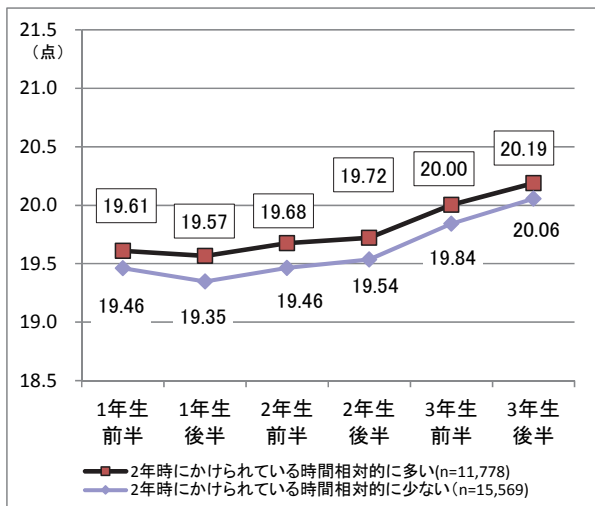
	人間関係形成・社会形成能力変化量						自己理解・自己管理能力変化量								
	1年生後半	1年生前半	2年生前半	1年生後半	2年生前半	3年生前半	2年生後半	3年生前半	3年生後半	1年生後半	1年生前半	2年生前半	2年生後半	3年生前半	3年生後半
キャリア教育に関する時間数が多い：1年生	△△										▼▼				
キャリア教育に関する時間数が多い：2年生											△△△				△△△
キャリア教育に関する時間数が多い：3年生			▼▼						▼		▼▼▼				▼▼▼
	課題対応能力変化量						キャリアプランニング能力変化量								
	1年生後半	1年生前半	2年生前半	1年生後半	2年生前半	3年生前半	2年生後半	3年生前半	3年生後半	1年生後半	1年生前半	2年生前半	2年生後半	3年生前半	3年生後半
キャリア教育に関する時間数が多い：1年生												▼▼	△△		▼
キャリア教育に関する時間数が多い：2年生	△△			▼				△		△△△	▼▼	▼			△
キャリア教育に関する時間数が多い：3年生			▼					▼▼	△△	▼▼▼					

※△は、重回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

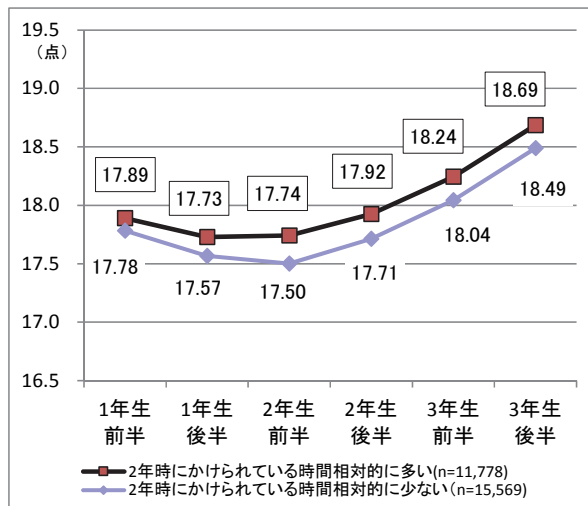
上記の結果をふまえ、あらためて、2年生の時期に総合的な学習の時間とホームルーム活動でキャリア教育に関する内容にかけられている時間数が相対的に多い学校と、相対的に少ない学校の生徒の基礎的・汎用的能力の各指標の推移について把握し（図表 3-4-4～図表 3-4-7）、変化量の差について検定を行った（図表 3-4-8）。

この結果から、2年生の時期に、総合的な学習の時間やホームルーム活動において、比較的多くの時間がキャリア教育に関する内容にあてられていた学校の生徒では、「自己理解・自己管理能力」をはじめ、特に1年生前半から2年生前半にかけての能力・意識のプラスの変化の度合いが大きいことがわかる。

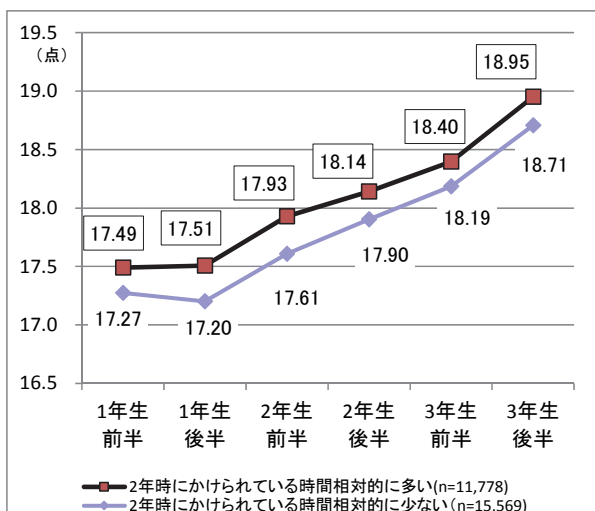
図表 3-4-4 時間の多寡と人間関係形成・社会形成能力



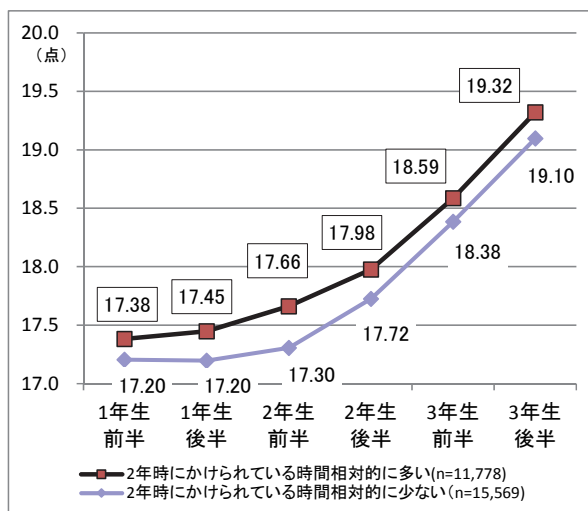
図表 3-4-5 時間の多寡と自己理解・自己管理能力



図表 3-4-6 時間の多寡と課題対応能力



図表 3-4-7 時間の多寡とキャリアプランニング能力



図表 3-4-8 キャリア教育に関する時間の多寡と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

(2年生の時期の総合的な学習の時間とホームルーム活動における時間でキャリア教育に関する内容にあてられていた時間が相対的に多い学校の生徒と、相対的に少ない学校の生徒を比較)

	1年生後半	1年生前半	2年生前半	2年生後半	3年生前半	3年生後半	1年生前半
2年生でキャリア教育に関する内容にあてられていた時間が多い	人間関係形成・社会形成能力の変化量	△△					
	自己理解・自己管理能力の変化量	△	△△				△△
	課題対応能力の変化量	△△		▼▼			
	キャリアプランニング能力の変化量	△△	△△△	▼▼▼			

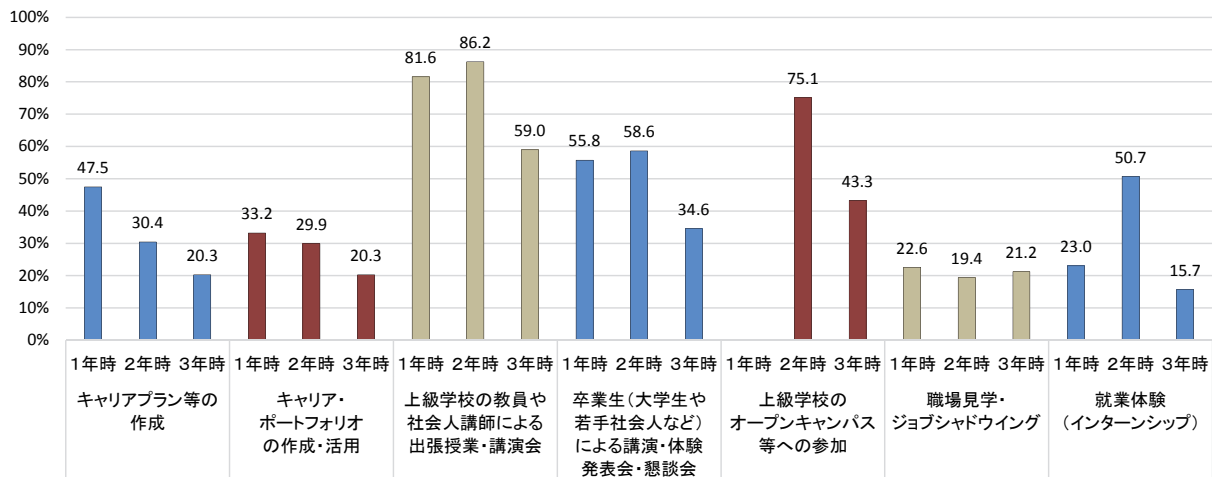
※△は、単回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

⑤キャリア教育に関する実践プログラムとの関係

1年生から3年生の各時期に、キャリア教育に関連する取り組みとして、「キャリアプラン等の作成」など、7つの点について、実施したかどうかをたずねた。内容別に実施の状況を見ると、多くの点について、3年生の時期には1年生・2年生の時期と比べると実施割合が低くなっていることが把握される（図表 3-5-1）。「上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会」については、特に1年生・2年生の時期に実施されている割合が高くなっており、また、「上級学校のオープンキャンパス等への参加」「就業体験（インターンシップ）」などについては、2年生の時期に実施されている割合が高い。（「上級学校のオープンキャンパス等への参加」は、2年時と3年時のみ調査を行っており、1年時の調査ではたずねていない。）

これらの取り組みの実施の有無と、生徒の各指標の変化量との関係についてみると、まず、「キャリアプラン等の作成」は、各指標の変化量についてプラスの変化の度合いが有意に大きくなっている場合が多い（図表 3-5-2）。また、「上級学校のオープンキャンパス等への参加」についても、2年生の時期に実施している学校の生徒では、3年生の時期の能力・意識のプラスの変化が大きくなっている。このほか、「就業体験（インターンシップ）」については、3年生の時期に実施している学校の生徒の場合に、4つの指標全てについてプラスの変化が大きくなっていることがわかる⁸。

図表 3-5-1 キャリア教育に関する取り組みの実施状況



※集計対象度数はいずれも 217 である。各質問項目に無回答であった学校は、ここでは「実施していない」ものとして集計した。

※「上級学校のオープンキャンパス等への参加」は、1年時の調査ではたずねていない。

⁸ ただし、職場見学・ジョブシャドウイングやインターンシップなどについては、各学校で実施している場合であっても、必ずしも全員が参加等しているわけではない可能性が高い点には留意が必要である。

図表 3-5-2 キャリア教育に関する取り組みの実施状況と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

	人間関係形成・社会形成能力変化量						自己理解・自己管理能力変化量						
	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 後半	3 年生 前半	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 後半	3 年生 前半	
キャリアプラン：1年生			▼▼▼			△			△△△			△△	△△
キャリアプラン：2年生	△△△	△△	△△△				△△	△△△		△			△△△
キャリアプラン：3年生								△△					
キャリア・ポートフォリオ：1年生	△		△△						△△			▼▼	△
キャリア・ポートフォリオ：2年生				▼▼					▼▼			△△	
キャリア・ポートフォリオ：3年生	▼▼											△	
教員や社会人講師の授業・講演：1年生			▼▼▼							▼▼▼			▼▼▼
教員や社会人講師の授業・講演：2年生		▼▼							▼▼				
教員や社会人講師の授業・講演：3年生		△△			△△	△	△△△				△△		△
卒業生による講演等：1年生		▼	△										▼
卒業生による講演等：2年生		△△△	▼▼▼				▼	▼	△△△	▼			
卒業生による講演等：3年生		▼	△△								▼		
オープンキャンパス：2年生								△△△				△△△	△△
オープンキャンパス：3年生			△△							△△			△
職場見学・ジョブシャドウ：1年生								△	▼▼▼				
職場見学・ジョブシャドウ：2年生					▼▼▼		▼▼▼				▼	▼▼	▼▼▼
職場見学・ジョブシャドウ：3年生			▼▼	△△					▼▼		△		
インターンシップ：1年生						▼▼	▼▼▼					▼▼▼	▼▼▼
インターンシップ：2年生	▼▼▼		△△	△△				▼▼			△△△		
インターンシップ：3年生	△				△		△△△		△△		△△△		△△△
	課題対応能力変化量						キャリアプランニング能力変化量						
	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 後半	3 年生 前半	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 後半	3 年生 前半	1 年生 後半
キャリアプラン：1年生			△△△	▼				▼	△△	▼▼▼	△	△△	
キャリアプラン：2年生	△△△						△△△	△△△					△△△
キャリアプラン：3年生	△△△				▼▼▼	△△	△△		△△△			△	△△
キャリア・ポートフォリオ：1年生									△△△				
キャリア・ポートフォリオ：2年生	▼▼					△		▼▼▼					▼▼▼
キャリア・ポートフォリオ：3年生													
教員や社会人講師の授業・講演：1年生	△△									▼▼			
教員や社会人講師の授業・講演：2年生		▼▼▼					▼▼	▼▼	△△	▼			
教員や社会人講師の授業・講演：3年生				▼▼▼				▼▼	△△	▼▼▼	△△△		
卒業生による講演等：1年生	▼				△△	▼▼▼	▼▼	△		△		▼▼	△
卒業生による講演等：2年生		△△△	▼▼			△△	△		△△				
卒業生による講演等：3年生			△	▼▼▼					△△		▼▼	△	△△△
オープンキャンパス：2年生							△△△					△△△	△△△
オープンキャンパス：3年生									▼▼▼	△△			
職場見学・ジョブシャドウ：1年生								△△△	▼▼▼	△△			△△
職場見学・ジョブシャドウ：2年生					▼	▼▼	▼▼▼						▼▼▼
職場見学・ジョブシャドウ：3年生		▼▼▼						▼	▼▼▼				▼▼▼
インターンシップ：1年生												▼	▼▼▼
インターンシップ：2年生	▼▼▼	▼▼	△△△	△△	▼	▼▼	▼▼	▼▼	▼▼	△	△		
インターンシップ：3年生			△△△		△△△	▼▼	△△△		△△△		△△△	▼▼▼	△△△

※△は、重回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

上記のような結果をふまえ、「キャリアプラン等の作成」を2年生対象に実施している学校の生徒とそれ以外の学校の生徒、「上級学校のオープンキャンパス等への参加」を2年生対象に実施している学校の生徒とそれ以外の学校の生徒、「就業体験（インターンシップ）」を3年生対象に実施している学校の生徒とそれ以外の学校の生徒とに分類し、それぞれ、基礎的・汎用的能力に関する各指標の推移の把握を行い、変化の度合いについて検定を行った（図表 3-5-3～図表 3-5-7、図表 3-5-8～図表 3-5-12、図表 3-5-13～図表 3-5-17）。

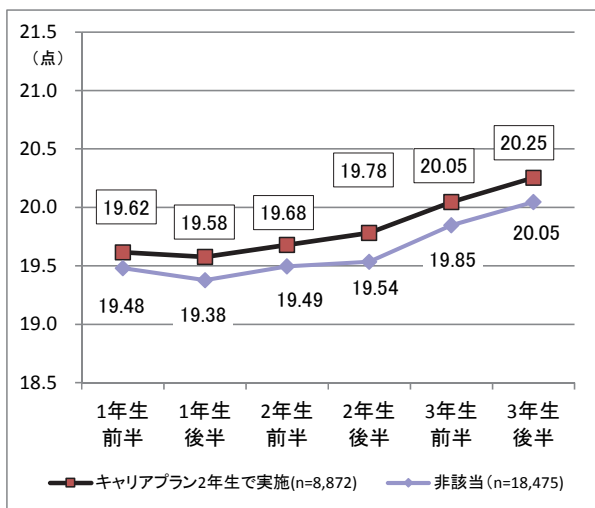
「キャリアプラン等の作成」に関しては、2年生の時期に実施している学校の生徒とそれ以外の学校の生徒とで、1年生前半から3年生後半にかけて、いずれの指標についても、徐々に両者の差が開いていっていることがわかる。ただし、1年生の時期も含めて差が拡大していることから、2年生を対象にした「キャリアプラン等の作成」実施の直接的な効果だけでなく、この取り組みを実施している学校で実施されている他の取り組み内容も含めた複合的な要因により差が拡大している可能性がある。なお、2年生でキャリアプラン等を作成している学校の生徒 8,872 人のうち、4,162 人（46.9%）は1年生の時期にもキャリアプラン等を作成しており、同様に、8,872 人のうち 2,754 人（31.0%）は3年生の時期にもキャリアプラン等を作成している。

「上級学校のオープンキャンパス等への参加」については、2年生を対象に実施した学校の生徒のほうが、いずれの指標についても、3年生の後半の時期の伸びが大きくなっていることを確認することができる。ただし、3年生後半の調査時期には既に進路が決まってしまう生徒もいるなど、この時期の意識等の持たれ方には、進学希望等の違いにより、そもそも違いがある可能性もあることも考えられることから、必ずしもオープンキャンパス等に参加することが生徒の能力・意識等を高めることに寄与しているかかどうかは厳密にはわからない。

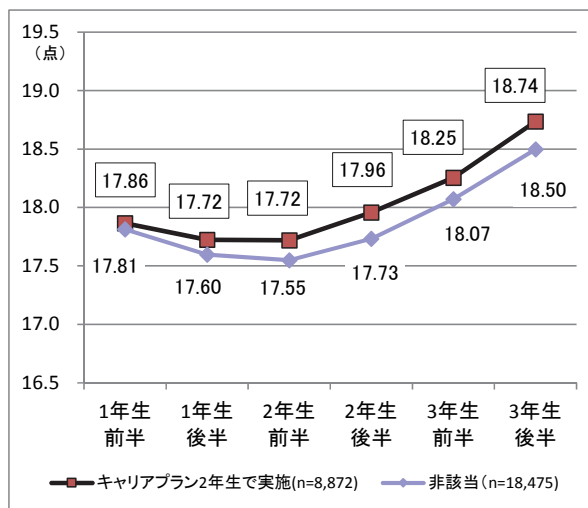
「就業体験（インターンシップ）」についても、3年生を対象に実施している学校の生徒では、各指標について、2年生後半から3年生前半の時期にプラスの変化が顕著に見られ、実際に進路を選択する時期におけるインターンシップの参加が生徒の能力・意識等を高める上で一定の効果があることがうかがえる。ただし、インターンシップに関しても、3年生の時期に参加することによる直接的な影響だけでなく、実施に至るまでの準備や事前学習の影響も含め、変化が見られているのではないかと推察される。

なお、今回作成した基礎的・汎用的能力の各指標の水準は、図表 2-14 や図表 2-19～図表 2-22 でも見られたように、一定程度生徒の進路希望や学校の進学率と関連性がある。図表 3-5-13～図表 3-5-17 からは、インターンシップを3年生を対象に実施している学校の生徒は、1年生・2年生の時期の能力・意識の水準が相対的に低いことも見てとれるが、これは、該当する学校において、就職等希望者が多いことの影響ではないかと推察する。

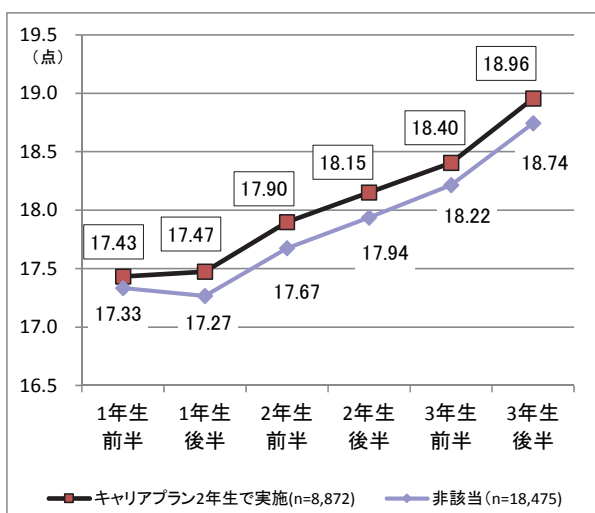
図表 3-5-3 キャリアプラン等の作成と人間関係形成・社会形成能力



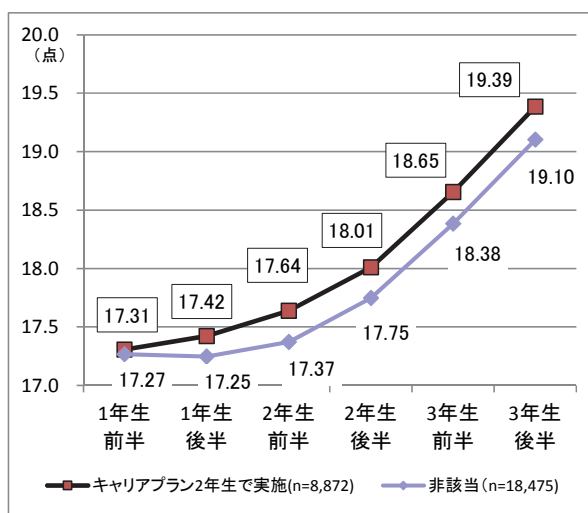
図表 3-5-4 キャリアプラン等の作成と自己理解・自己管理能力



図表 3-5-5 キャリアプラン等の作成と課題対応能力



図表 3-5-6 キャリアプラン等の作成とキャリアプランニング能力



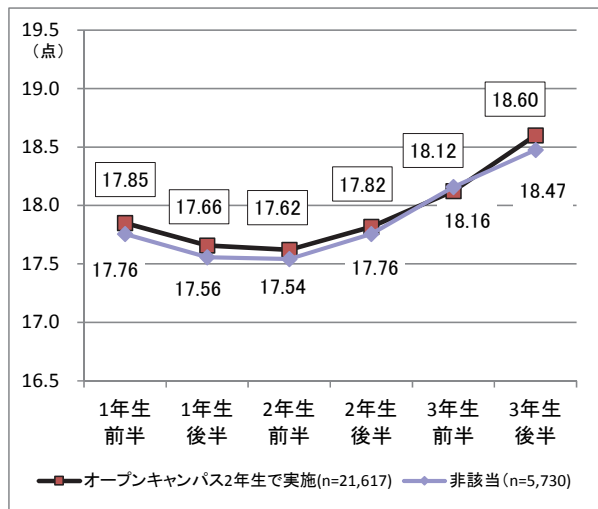
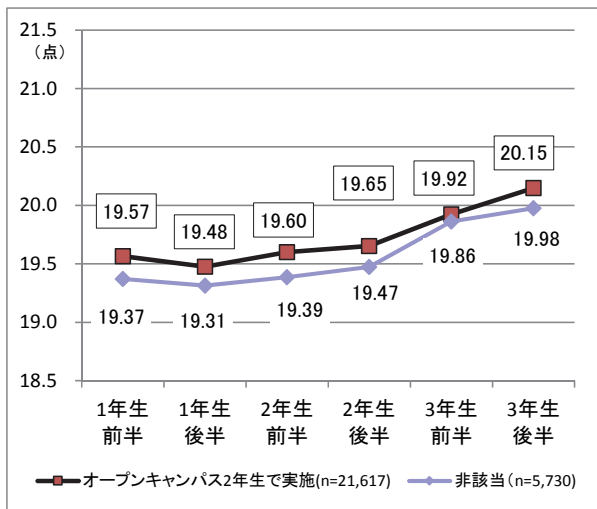
図表 3-5-7 キャリアプラン等の作成と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

(2年生を対象に「キャリアプラン等の作成」を実施している学校の生徒と、それ以外の学校の生徒とを比較)

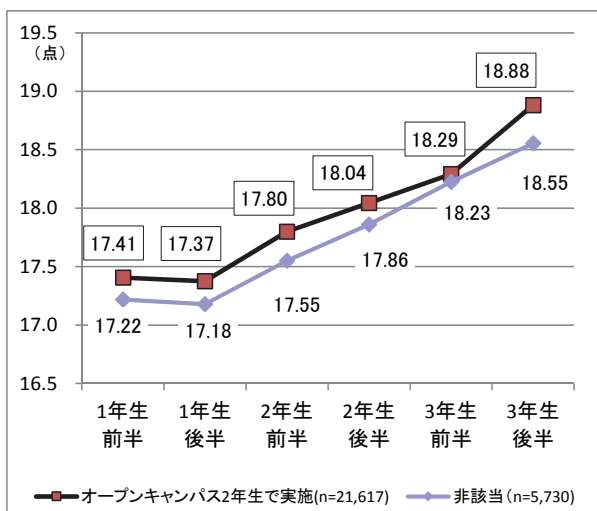
		1年生前半	1年生後半	2年生前半	2年生後半	3年生前半	3年生後半
2年生を対象に「キャリアプラン等の作成」を実施	人間関係形成・社会形成能力の変化量	△△		△△			△
	自己理解・自己管理能力の変化量	△△		△		△	△△△
	課題対応能力の変化量	△△△					△△
	キャリアプランニング能力の変化量	△△△	△△				△△△

※△は、単回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

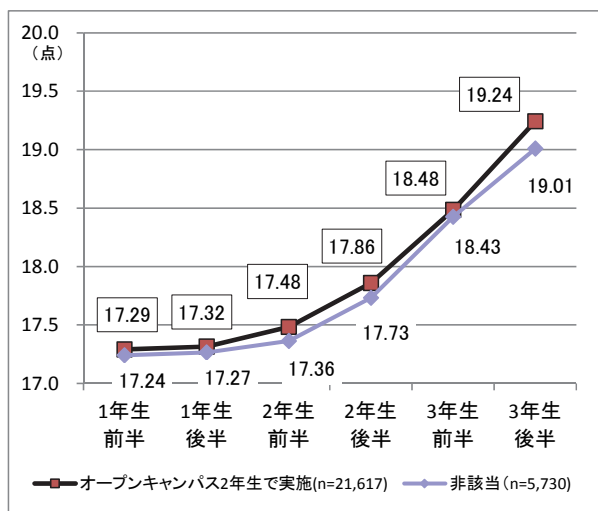
図表 3-5-8 オープンキャンパスへの参加と人間関係形成・社会形成能力 図表 3-5-9 オープンキャンパスへの参加と自己理解・自己管理能力



図表 3-5-10 オープンキャンパスへの参加と課題対応能力



図表 3-5-11 オープンキャンパスへの参加とキャリアプランニング能力



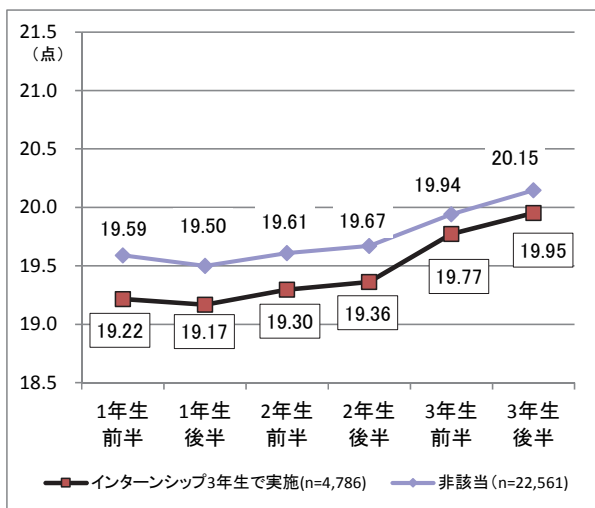
図表 3-5-12 オープンキャンパスへの参加と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

(2年生を対象に「上級学校のオープンキャンパス等への参加」を実施している学校の生徒と、それ以外の学校の生徒とを比較)

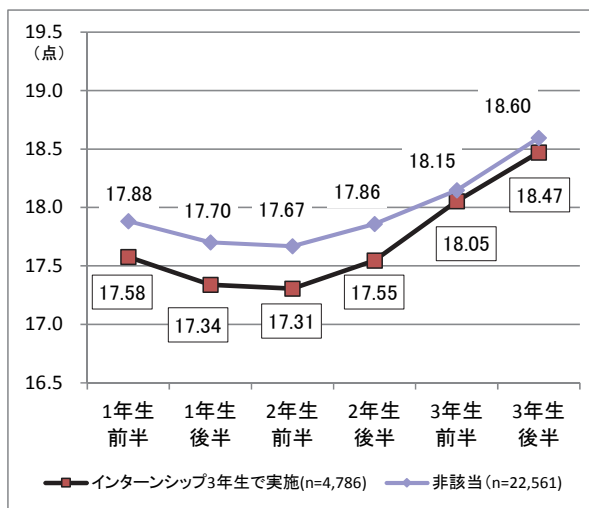
		1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半	1年生前半
2年生を対象に「上級学校のオープンキャンパス等への参加」を実施	人間関係形成・社会形成能力の変化量				▼▼▼	△△△		
	自己理解・自己管理能力の変化量				▼▼	△△△		
	課題対応能力の変化量			▼	▼▼▼	△△△	△△△	
	キャリアプランニング能力の変化量					△△△	△△△	

※△は、単回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

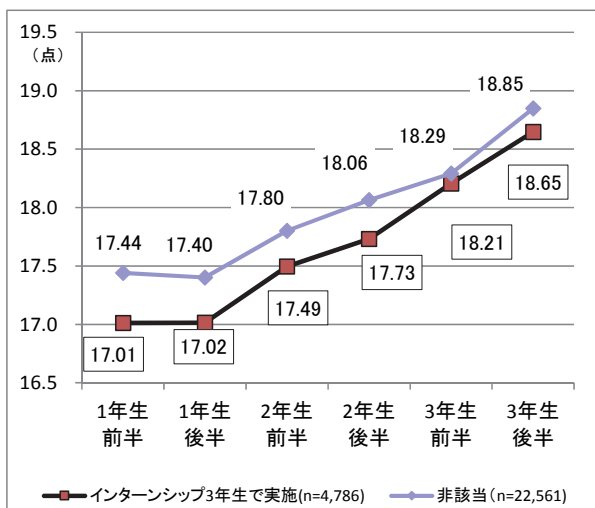
図表 3-5-13 インターンシップの実施と人間関係形成・社会形成能力



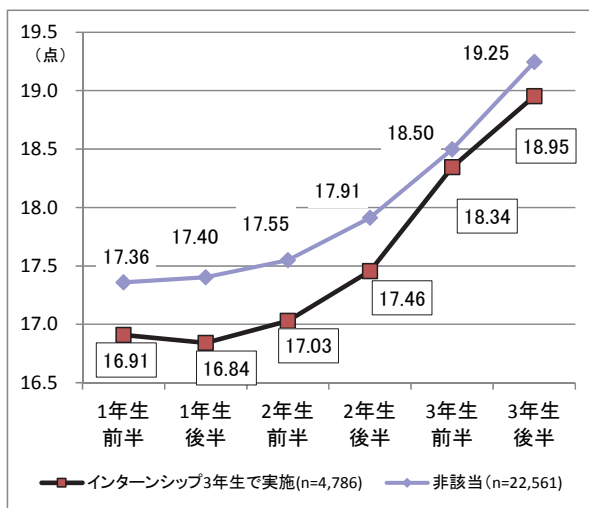
図表 3-5-14 インターンシップの実施と自己理解・自己管理能力



図表 3-5-15 インターンシップの実施と課題対応能力



図表 3-5-16 インターンシップの実施とキャリアプランニング能力



図表 3-5-17 インターンシップの実施と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

(3年生を対象に「就業体験(インターンシップ)」を実施している学校の生徒と、それ以外の学校の生徒とを比較)

	1年生後半	1年生前半	1年生後半	2年生後半	2年生前半	2年生後半	3年生前半	3年生後半	3年生前半	1年生前半
3年生を対象に「就業体験(インターンシップ)」を実施	人間関係形成・社会形成能力の変化量						△△△			△△△
	自己理解・自己管理能力の変化量						△△△			△△△
	課題対応能力の変化量			△			△△△	▼▼▼		△△△
	キャリアプランニング能力の変化量	▼▼					△△△	▼▼▼		△△△

※△は、単回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

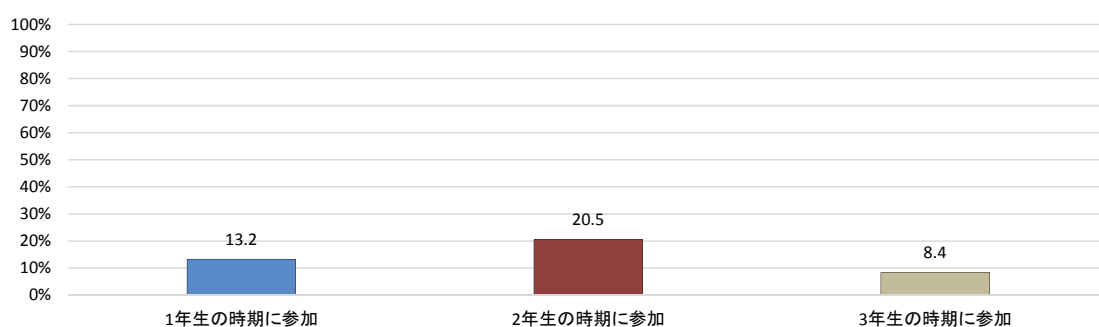
⑥インターンシップ経験の有無との関係

生徒調査の結果から、1年生から3年生の各時期におけるインターンシップへの参加状況をみると、2年生の時期に参加した生徒の割合が最も高いことがわかるが、その割合は約2割となっている（図表3-6-1）。図表3-5-1の結果とあわせて見ると、学校としてインターンシップを実施している割合と、実際に生徒個人が参加している割合とは違いがあることを把握することができる。

生徒個人のインターンシップ参加経験と、各指標の変化量との関係についてみると、特に3年生の時期にインターンシップに参加した生徒において、2年生後半から3年生前半の時期においてプラスの変化の度合いが大きくなっている（図表3-6-2）。また、インターンシップに2年生の時期に参加した生徒では、「自己理解・自己管理能力」について、1年生前半から3年生後半にかけてのトータルの変化量が大きいという関係性が見られる。

なお、3年生の時期にインターンシップに参加している場合に各指標の変化が大きく見られるという点は、図表3-5-2に示した、学校としてインターンシップを実施しているかについて行った分析結果と同様の結果となっている。

図表 3-6-1 生徒個人のインターンシップの参加経験



※集計対象度数はいずれも 27,347 である。

※ここに示した割合は「参加した」と回答した生徒の集計対象度数に対するものである。

図表 3-6-2 インターンシップへの参加経験の有無と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

	人間関係形成・社会形成能力変化量						自己理解・自己管理能力変化量					
	1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半	1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半
1年生で参加			▼									
2年生で参加	▼▼				△△			△△				△△△
3年生で参加					△△△		△△△				△△△	△△△
	課題対応能力変化量						キャリアプランニング能力変化量					
	1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半	1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半
1年生で参加					▼▼			△△			▼▼▼	▼
2年生で参加												
3年生で参加					△△△		△△△				△△△	△△△

※△は、重回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。
 ※各質問に無回答であった生徒は、ここでは「参加していない」ものとして集計した。

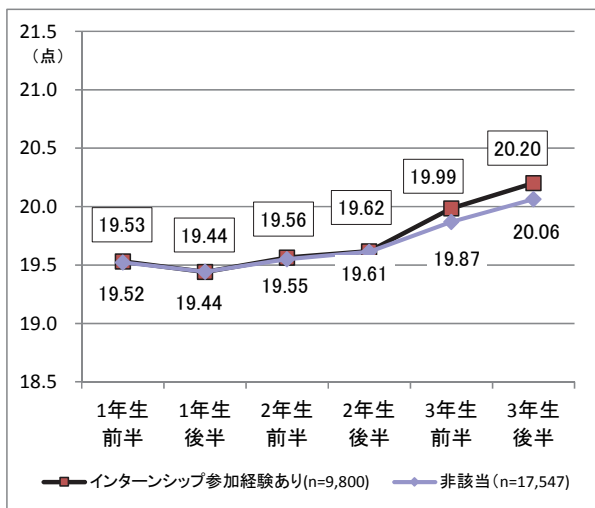
上記のような結果をふまえ、まず、1年生～3年生のいずれかの時期にインターンシップに参加した経験がある生徒と、それ以外の生徒とで、基礎的・汎用的能力に関する各指標の推移等の把握を行った（図表 3-6-3～図表 3-6-7）。つづいて、1年生、2年生、3年生の各時期にインターンシップに参加した生徒と、それぞれの時期には参加しなかった生徒とで、基礎的・汎用的能力に関する各指標の推移の違い等について把握した（1年生：図表 3-6-8～図表 3-6-12、2年生：図表 3-6-13～図表 3-6-17、3年生：図表 3-6-18～図表 3-6-22）。

まず、3年間のうちいずれかの時期でインターンシップ経験がある生徒と、経験がない生徒とを比較した場合については、1年生前半から3年生後半に掛けてのトータルの変化でみると、「人間関係形成・社会形成」「自己理解・自己管理能力」に関して、インターンシップ経験がある生徒のほうがプラスの変化が大きくなっている。

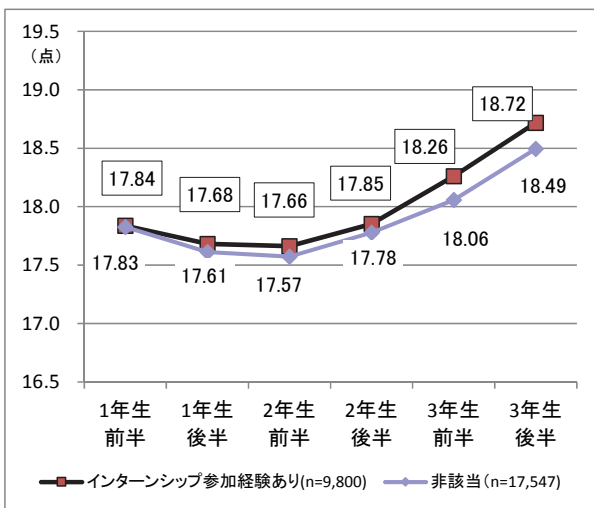
次に、学年ごとの違いについて、1年生の時期にインターンシップに参加した生徒に関しては、必ずしも全体としての変化の度合いが比較の対象群と比べて大きいわけではないことが確認できる。ただし、例えば、「キャリアプランニング能力」に関して、1年生前半の時点での値の水準が高くなっていることから、1年生前半調査を実施した時期において既に、インターンシップに参加することの影響が及んでいた可能性があることも考えられる。

2年生の時期でのインターンシップ経験に関しては、「人間関係形成・社会形成能力」と「自己理解・自己管理能力」の変化量について、プラスの影響が見られる。また、3年生の時期におけるインターンシップ経験については、基礎的・汎用的能力に関する各指標ともに2年生後半から3年生前半にかけての変化の度合いが特に大きいことをあらためて把握することができ、この時期にインターンシップに参加することが、生徒の能力・意識等を高める上で一定の効果があることがわかる。

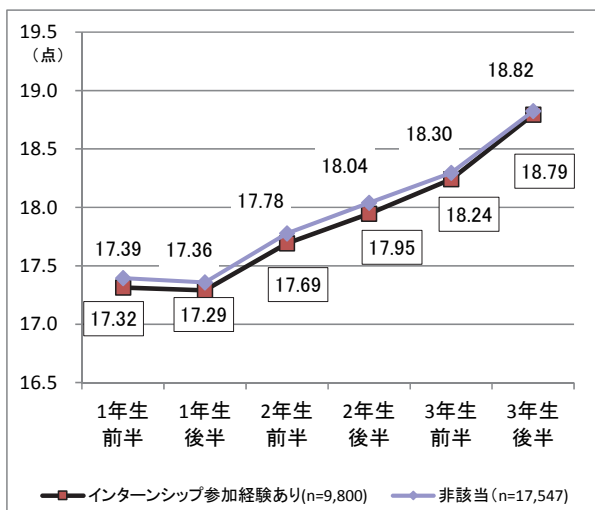
図表 3-6-3 インターンシップ経験の有無と人間関係形成・社会形成能力



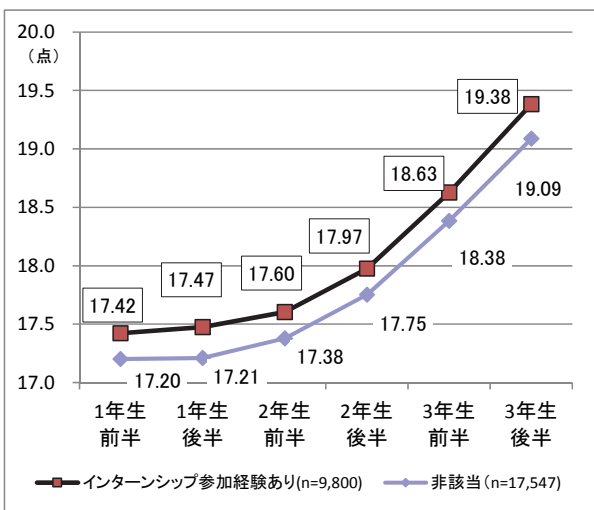
図表 3-6-4 インターンシップ経験の有無と自己理解・自己管理能力



図表 3-6-5 インターンシップ経験の有無と課題対応能力



図表 3-6-6 インターンシップ経験の有無とキャリアプランニング能力



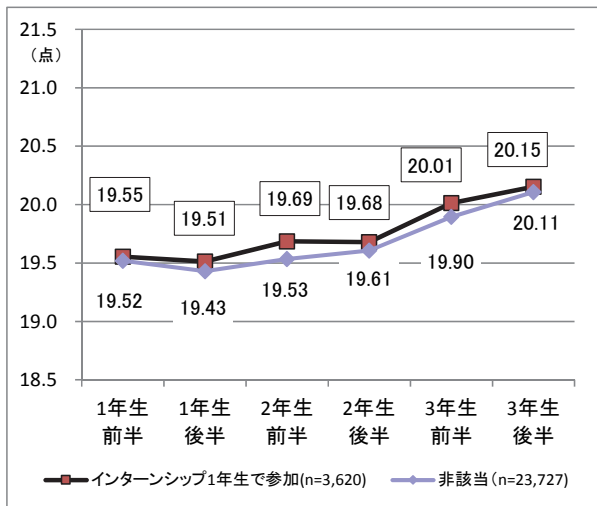
図表 3-6-7 インターンシップ経験の有無と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

(1年生～3年生のいずれかの時期に「就業体験(インターンシップ)」に参加した経験がある生徒と、インターンシップに参加した経験がない生徒とを比較)

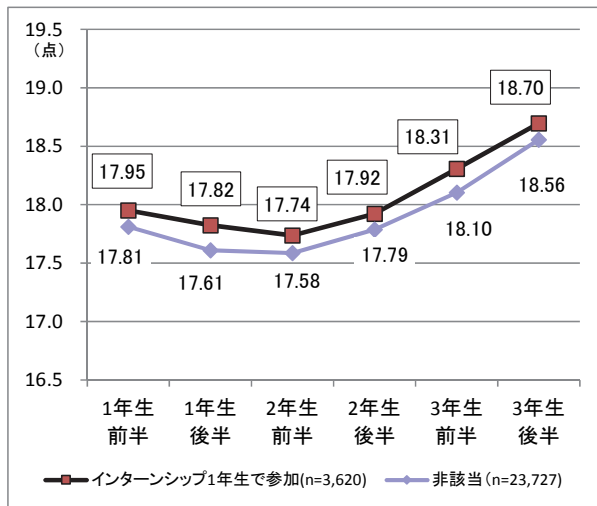
	1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半	1年生後半
1年生～3年生のいずれかの時期に「就業体験(インターンシップ)」に参加	人間関係形成・社会形成能力の変化量				△△△		△△△
	自己理解・自己管理能力の変化量	△			△△△		△△△
	課題対応能力の変化量						
	キャリアプランニング能力の変化量						

※△は、単回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

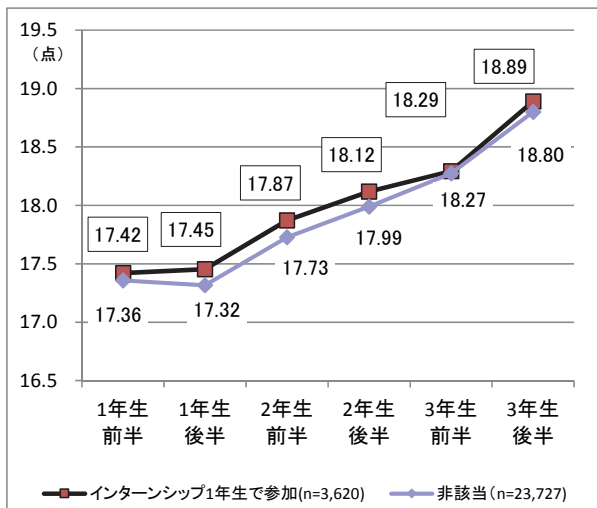
図表 3-6-8 1年生インターンシップ経験と人間関係形成・社会形成能力



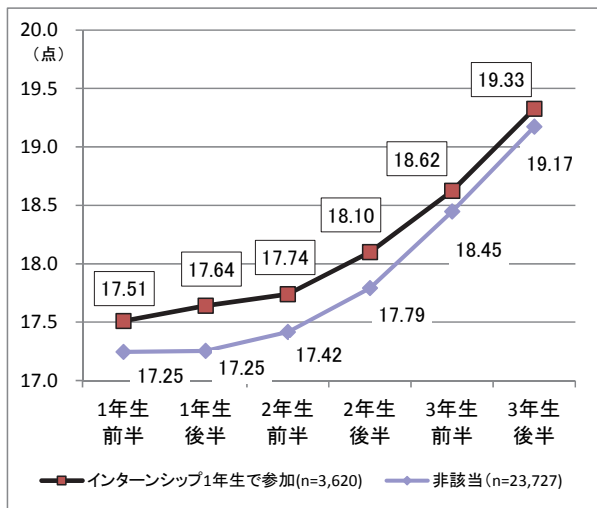
図表 3-6-9 1年生インターンシップ経験と自己理解・自己管理能力



図表 3-6-10 1年生インターンシップ経験と課題対応能力



図表 3-6-11 1年生インターンシップ経験とキャリアプランニング能力

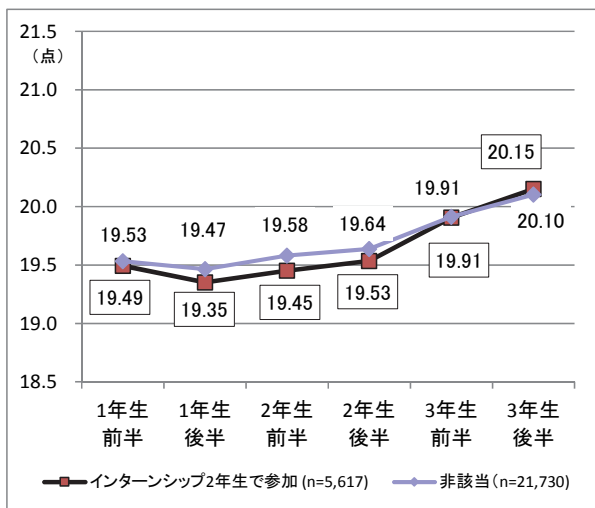


図表 3-6-12 1年生の時期のインターンシップ経験と基礎的・汎用的能力の変化量との関係
(1年生の時期に「就業体験(インターンシップ)」に参加した生徒と、それ以外の生徒とを比較)

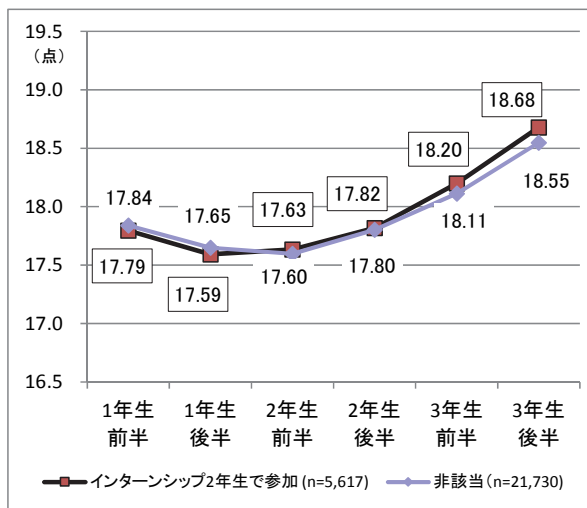
	1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半	1年生後半
1年生の時期に「就業体験(インターンシップ)」に参加	人間関係形成・社会形成能力の変化量			▼			
	自己理解・自己管理能力の変化量	△					
	課題対応能力の変化量					▼▼	
	キャリアプランニング能力の変化量	△△				▼▼▼	▼

※△は、単回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

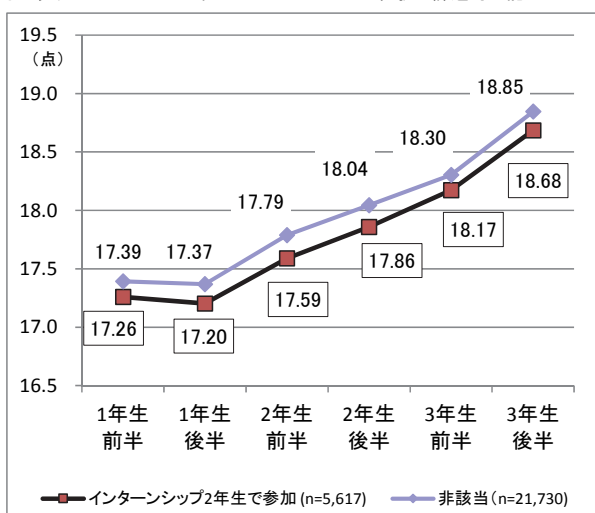
図表 3-6-13 2年生インターンシップ経験と人間関係形成・社会形成能力



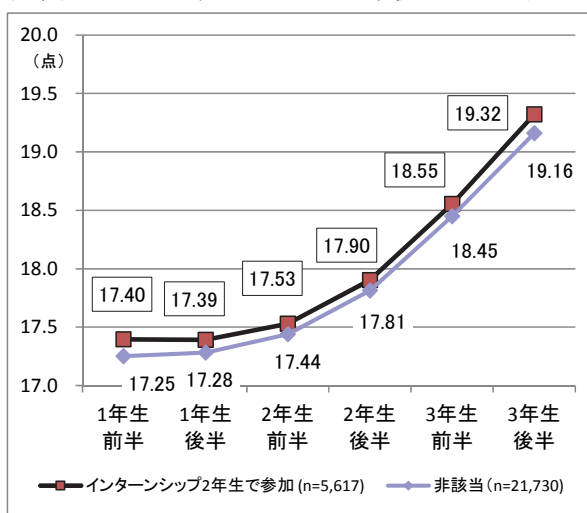
図表 3-6-14 2年生インターンシップ経験と自己理解・自己管理能力



図表 3-6-15 2年生インターンシップ経験と課題対応能力



図表 3-6-16 2年生インターンシップ経験とキャリアプランニング能力

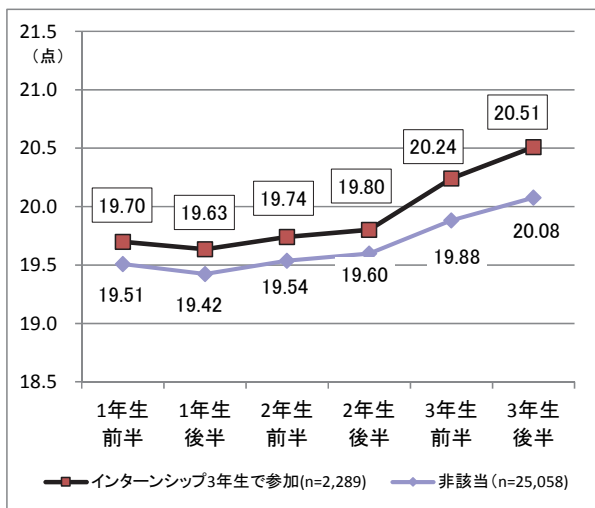


図表 3-6-17 2年生の時期のインターンシップ経験と基礎的・汎用的能力の変化量との関係
(2年生の時期に「就業体験(インターンシップ)」に参加した生徒と、それ以外の生徒とを比較)

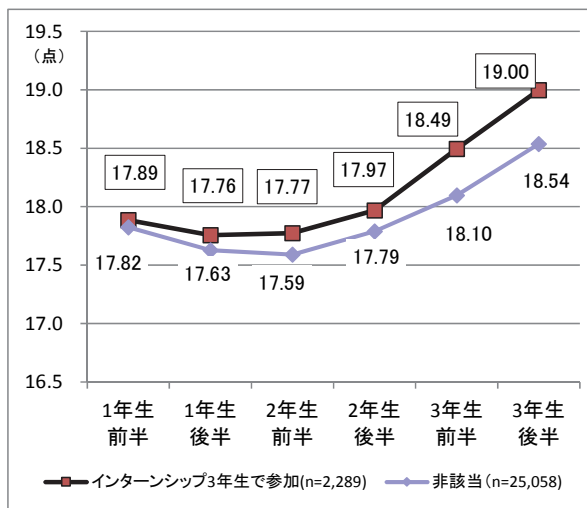
	1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半	1年生後半
2年生の時期に「就業体験(インターンシップ)」に参加							
人間関係形成・社会形成能力の変化量	▼▼				△△△		△△
自己理解・自己管理能力の変化量			△△		△		△△△
課題対応能力の変化量							
キャリアプランニング能力の変化量							

※△は、単回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

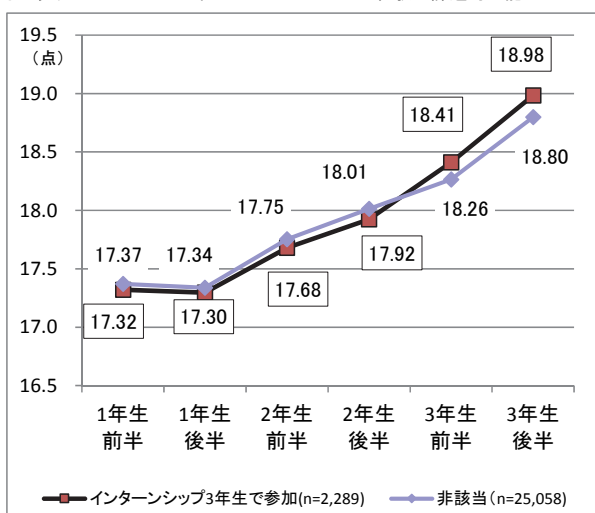
図表 3-6-18 3年生インターンシップ経験と人間関係形成・社会形成能力



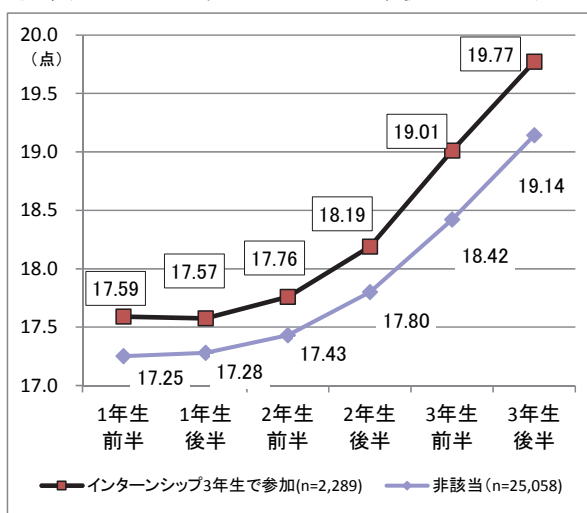
図表 3-6-19 3年生インターンシップ経験と自己理解・自己管理能力



図表 3-6-20 3年生インターンシップ経験と課題対応能力



図表 3-6-21 3年生インターンシップ経験とキャリアプランニング能力



図表 3-6-22 3年生の時期のインターンシップの経験と基礎的・汎用的能力の変化量との関係 (3年生の時期に「就業体験 (インターンシップ)」に参加した生徒と、それ以外の生徒とを比較)

	1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半	1年生後半
3年生の時期に「就業体験 (インターンシップ)」に参加	人間関係形成・社会形成能力の変化量				△△△		△△△
	自己理解・自己管理能力の変化量				△△△		△△△
	課題対応能力の変化量				△△△		△△△
	キャリアプランニング能力の変化量				△△△		△△△

※△は、単回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が 10%水準、△△が 5%水準、△△△が 1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

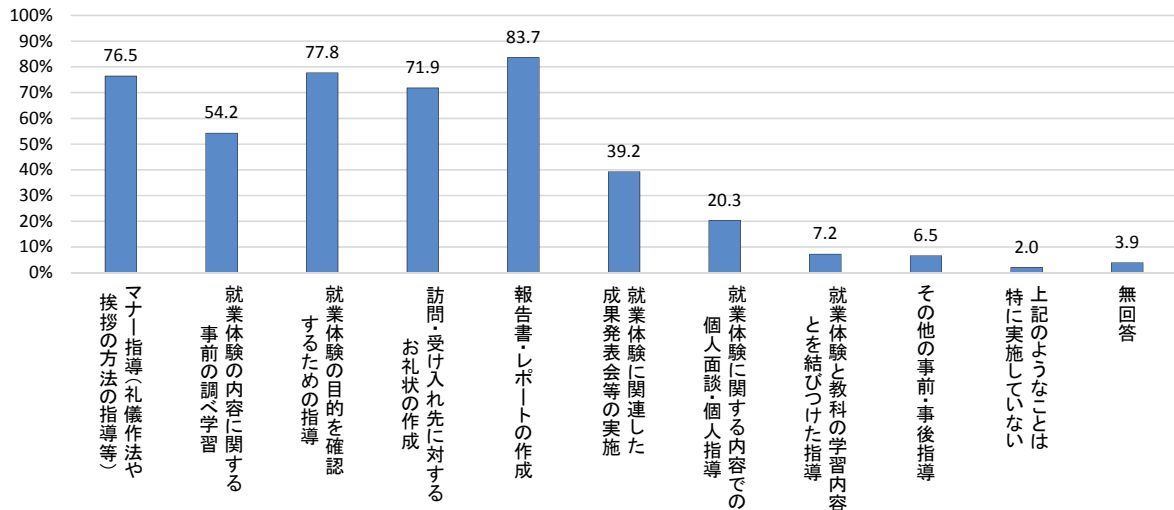
⑦事前・事後指導の実施状況との関係

インターンシップを実施している学校について、事前・事後指導としてどのようなことを実施しているかについてたずねた（図表 3-7-1）。ここから、「マナー指導（礼儀作法や挨拶の方法の指導等）」「就業体験の目的を確認するための指導」「訪問・受け入れ先に対するお礼状の作成」「報告書・レポートの作成」についてはインターンシップを実施している学校の 7 割以上で実施されている一方で、「就業体験の内容に関する事前の調べ学習」「就業体験に関連した成果発表回答の実施」「就業体験に関する内容での個人面談・個別指導」が実施されている割合は低いことがわかる。

このような、事前・事後指導の実施状況と、基礎的・汎用的能力に関する各指標の変化量との関係についてみると、特に「就業体験の内容に関する事前の調べ学習」を実施している学校において、各指標ともにプラスの変化の度合いが大きくなっていることがわかる（図表 3-7-2）。

なお、「就業体験に関する内容での個人面談・個人指導」を行っている場合には、「人間関係形成・社会形成能力」のプラスの変化がより大きくなるのではないとも考えられる。また、「その他の事前・事後指導」についても、各指標に関してプラスの変化が大きくなっているが、該当する学校の割合は低く、また、今回の調査からは、「その他」の内容についての詳細を把握することは難しかった。

図表 3-7-1 インターンシップに関する事前・事後指導の実施状況



※集計対象度数はいずれも、1年生から3年生のいずれかの学年でインターンシップを実施していると回答のあった153の学校である。

図表 3-7-2 インターンシップに関する事前・事後指導の実施と基礎的・汎用的能力の変化量との関係

	人間関係形成・社会形成能力変化量						自己理解・自己管理能力変化量					
	1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半	1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半
マナー指導（礼儀作法や挨拶の方法の指導等）		▼▼▼	△△△	▼▼▼				▼▼▼	△△△	▼▼		▼▼
就業体験の内容に関する事前の調べ学習	△△△			△	△	△△△	△△					△△△
就業体験の目的を確認するための指導	▼▼▼		△△				▼▼					
訪問・受け入れ先に対するお礼状の作成		△	▼▼▼					△△	▼▼▼	△△		
報告書・レポートの作成		△		△△△		△						▼▼
就業体験に関連した成果発表会等の実施										▼		▼▼
就業体験に関する内容での個人面談・個人指導				△△△		△△△	△△	▼▼		△△△		
就業体験と教科の学習内容とを結びつけた指導	▼▼						▼▼	△△				
その他の事前・事後指導		△				△△△	△△	△		△△	▼▼	△△△
	課題対応能力変化量						キャリアプランニング能力変化量					
	1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半	1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半
マナー指導（礼儀作法や挨拶の方法の指導等）		▼▼▼	△△	▼▼		▼▼▼	▼▼	▼▼▼	△△			▼▼▼
就業体験の内容に関する事前の調べ学習	△△			△△		△△△	△△					△△△
就業体験の目的を確認するための指導	▼▼▼		△△△									△
訪問・受け入れ先に対するお礼状の作成		△△	▼▼▼						▼▼			
報告書・レポートの作成				△△	▼▼		▼▼			△△△	▼▼	
就業体験に関連した成果発表会等の実施									▼▼			
就業体験に関する内容での個人面談・個人指導				△△					▼▼▼	△△△	▼▼	
就業体験と教科の学習内容とを結びつけた指導												
その他の事前・事後指導		△△△				△△		△△△				△△

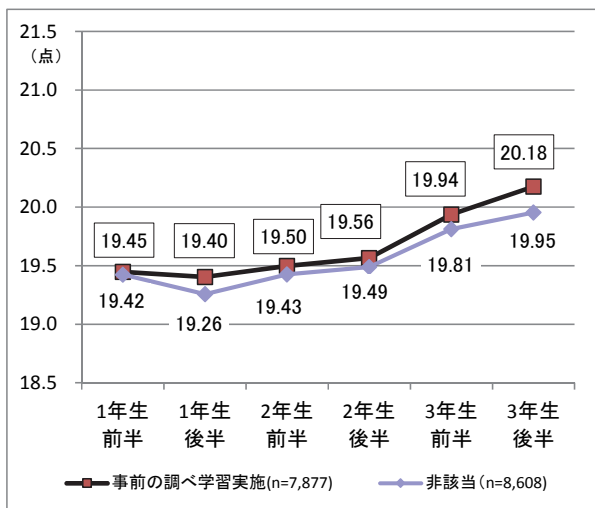
※△は、重回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。
 ※比較の対象には「上記のことは特に実施していない」「無回答」の学校、ならびに、インターンシップを実施していない学校である。

上記の結果をふまえ、インターンシップ実施の際の事前・事後指導に関し、「就業体験の内容に関する事前の調べ学習」を実施している学校の生徒と、実施していない学校（インターンシップは実施していても事前の調べ学習は実施していない学校）の生徒とで、各指標の変化の違いについて集計・分析を行った（図表 3-7-3～図表 3-7-7）⁹。

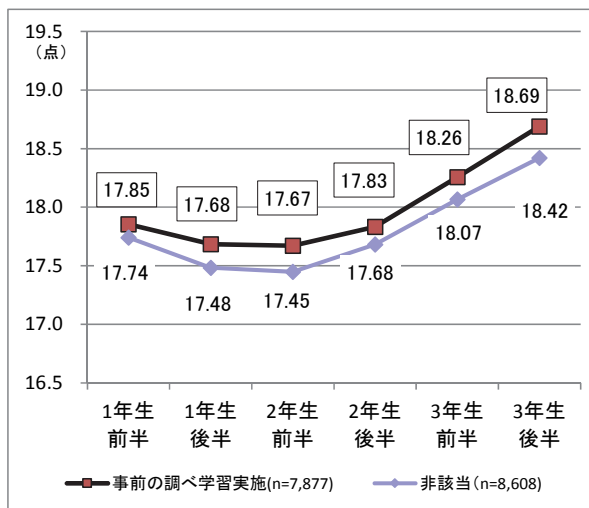
これらから、どの時期にインターンシップを実施しているか、また、どの程度の生徒が実際にインターンシップに参加しているか等を明確にしないままでの比較であるが、少なくとも、事前の調べ学習を実施した上でインターンシップを実施している学校のほうが、それ以外の方法で取り組んでいる学校に比べて、生徒の能力・意識の向上という点において、高い成果を挙げることができているのではないかと考えられる。

⁹ 比較の対象を明確にするため、ここではインターンシップを全く実施していない学校の生徒は集計の対象外とした。

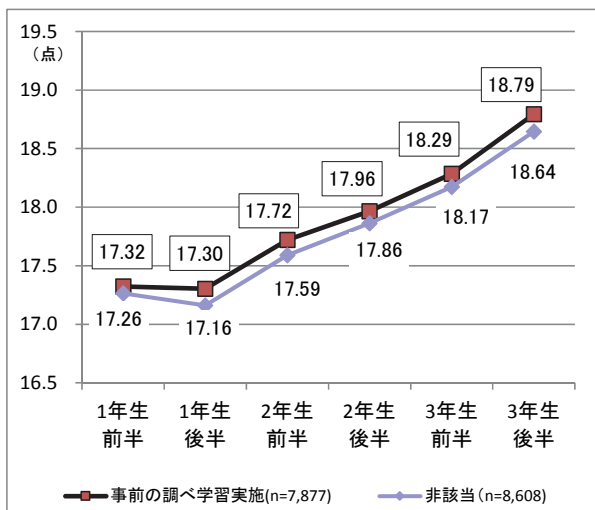
図表 3-7-3 事前の調べ学習実施と人間関係形成・社会形成能力



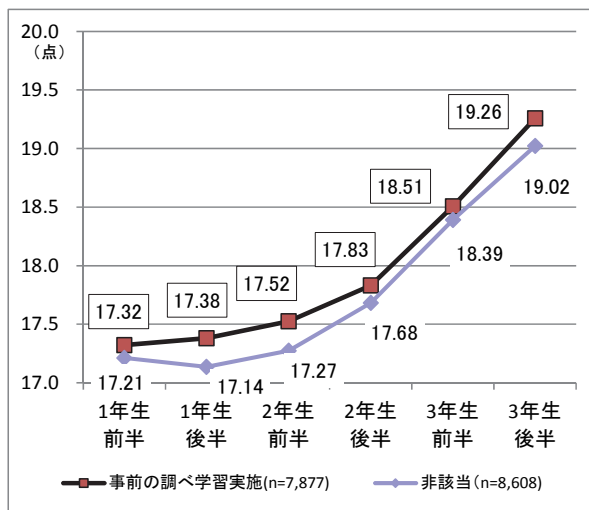
図表 3-7-4 事前の調べ学習実施と自己理解・自己管理能力



図表 3-7-5 事前の調べ学習実施と課題対応能力



図表 3-7-6 事前の調べ学習実施とキャリアプランニング能力



図表 3-7-7 インターンシップに関する事前の調べ学習の実施と基礎的・汎用的能力の変化量との関係
 (「就業体験(インターンシップ)」を実施している学校で「就業体験の内容に関する事前の調べ学習」を実施している学校の生徒と、実施していない学校の生徒とを比較)

		1年生後半	1年生前半	2年生後半	2年生前半	3年生後半	3年生前半	3年生後半	1年生前半
事前・事後指導として「就業体験の内容に関する事前の調べ学習」を実施	人間関係形成・社会形成能力の変化量	△△△	▼				△△	△△△	△△△
	自己理解・自己管理能力の変化量	△△		▼			△	△△△	△△△
	課題対応能力の変化量	△						△	△
	キャリアプランニング能力の変化量	△△△		▼▼			△△△	△△	△△

※△は、単回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

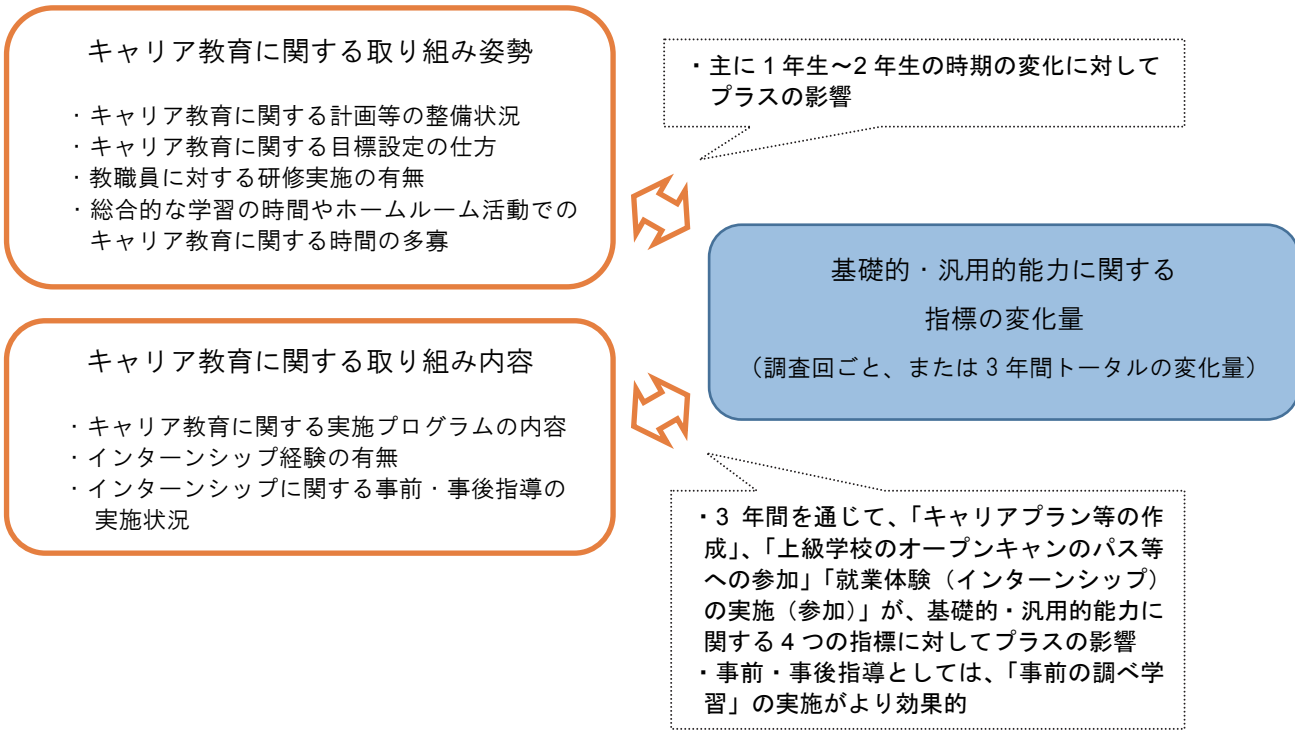
⑧各指標の変化に影響する要因についてのまとめ

基礎的・汎用的能力の変容に関して、主に各学校の「キャリア教育に関する取り組み姿勢」（「キャリア教育に関する計画等の整備状況」、「キャリア教育に関する目標設定の仕方」、「教職員に対する研修実施の有無」、「総合的な学習の時間やホームルーム活動でのキャリア教育に関する時間の多寡」との関係性を把握した分析の結果からは、主に1年生から2年生の時期にかけてプラスの変化が比較的大きくなっていることが明らかになった。このことは、学校としてキャリア教育に関する取り組み姿勢がしっかりと持てている学校では、この時期における生徒の「揺らぎ」の度合いが少なくなっているのではないかと推察される。

他方、「キャリア教育に関する取り組み内容」（「キャリア教育に関する実施プログラムの内容」、インターンシップ経験の有無、「インターンシップに関する事前・事後指導の実施状況」）に関して実施した分析からは、「キャリアプラン等の作成」、「上級学校のオープンキャンパス等への参加」、「就業体験（インターンシップ）」について、実施している学校の生徒における能力・意識のプラスの変化がより大きく見られることが明らかになった。

なお、インターンシップに関しては、「実施している学校」に着目した分析でも、「参加した生徒」に着目した分析でも、3年生の時期に実施・参加することが、特に影響が大きいことが明らかになった。また、インターンシップに関する事前・事後指導としては、「就業体験の内容に関する事前の調べ学習」を実施している学校のほうが、生徒の能力・意識についてよりプラスの変化の度合いが大きいということもわかった。

<分析結果に関するイメージ図>



上記の分析結果をふまえて、あらためて重回帰分析により、取り組みの実施による基礎的・汎用的能力の変容に対する影響について把握を行った（図表 3-8-1）。

ここから、キャリアプラン等の作成、オープンキャンパスへの参加、インターンシップへの参加について、それぞれ、各指標のプラスの変化と関連性があることをあらためて確認することができる¹⁰。なお、インターンシップについて、1年生の時期に参加している場合には、「キャリアプランニング能力」のプラスの変化の度合いが小さいという関係性も見られるが、これについては、図表 3-6-11 の結果に関しても述べたように、1年前半の時期で既に意識・能力の水準にインターンシップ参加の影響が及んでいた可能性がある。

図表 3-8-1 キャリア教育に関する各種の取り組みと基礎的・汎用的能力の変化量との関係

	人間関係形成・社会形成能力変化量						自己理解・自己管理能力変化量					
	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 後半	3 年生 前半	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 後半	3 年生 前半
目標設定、全体計画・年間指導計画に関する回答項目数：4～9		△△	▼	△△△	▼▼			△△				
教職員を対象とした校内研修会を毎年実施 キャリア教育に関する時間数が多い：2年生	△△		△△	▼	▼							
キャリアプラン：1年生			▼		△			△△△				
キャリアプラン：2年生	△		△△△			△△	△		△△△			△△△
キャリアプラン：3年生												
オープンキャンパス：2年生				▼▼▼	△△△					▼▼	△△△	
オープンキャンパス：3年生			△△			△△△		▼	△△△	△△		△△△
インターンシップ参加：1年生			▼▼									
インターンシップ参加：2年生	▼				△△	△						△△△
インターンシップ参加：3年生				△△		△△△				△△△		△△△
	課題対応能力変化量						キャリアプランニング能力変化量					
	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 後半	3 年生 前半	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 後半	3 年生 前半
目標設定、全体計画・年間指導計画に関する回答項目数：4～9		△△△	▼▼					△△△	▼			
教職員を対象とした校内研修会を毎年実施 キャリア教育に関する時間数が多い：2年生	△		▼	▼▼▼				△	▼	△△△		
キャリアプラン：1年生	▼	△			△		▼▼▼	△△	▼▼▼		△△	
キャリアプラン：2年生	△△					△△	△△△		△			△△△
キャリアプラン：3年生				▼▼▼	△△			△			△△	
オープンキャンパス：2年生				▼▼▼	△△△	△△				▼	△△△	△△△
オープンキャンパス：3年生							▼▼	▼		△		
インターンシップ参加：1年生				▼▼			△△	▼		▼▼		▼
インターンシップ参加：2年生											△	
インターンシップ参加：3年生				△△△		△△△				△△△		△△△

※△は、重回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

¹⁰ 図表 3-1-8、図表 3-4-8 では、キャリア教育に関する目標設定・計画作成をしている学校や、キャリア教育にかけている時間が相対的に多い学校の生徒では、「自己理解・自己管理能力」について1年前半から3年生後半にかけてのトータルのプラスの変化が大きいという結果が得られている。このことについて、図表 3-8-1 の結果をふまえると、目標設定・計画作成をしていたり、多くの時間をかけたりしている学校では、キャリア教育に関する各種の取り組みも充実しており、それらの活動を通じて生徒の変容が大きくなっているという関係性にあるのではないかと推察される。

(3) 属性・条件等別の分析結果

キャリア教育の取り組み等別の基礎的・汎用的能力に関する各指標の変化量の違いについて、属性・条件を変えてみた場合に同様の傾向が見られるかについて把握した。

なお、ここでは、各指標について、1年生前半から3年生後半にかけてのトータルの変化量に関して分析を行った。また、属性・条件等に関しては、「性別」「大学・短期大学進学率別」「当初の意識水準別」により生徒を分類し、分析を行った。なお、「当初の意識水準別」に関しては、1年生前半調査の回答結果に基づき、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に関連する項目を全て足し合わせた値が高い群と低い群との2群に分類した¹¹。

性別の分析結果からは、女性では3年生の時期にインターンシップ経験があることによる各指標のプラスの変化の度合いが大きいものに対して、男性ではそのような結果は見られないという違いがあることがわかった（図表 3-9-1）。

また、学校の大学・短期大学進学率別には、進学率が7割未満の学校群ではインターンシップの参加経験により各指標のプラスの変化が必ずしも大きくなっているわけではなく、オープンキャンパスに参加することによる影響についても、限定的であることがわかる（図表 3-9-2）。他方で、進学率が7割超の学校群では、オープンキャンパスに参加することや、3年生の時期にインターンシップに参加することで各指標のプラスの変化が大きくなっていることを確認することができる。

さらに、個々人の1年生前半の回答水準の違い別にみると、当初の意識水準が低かった生徒のほうが、3年生でのインターンシップ参加と基礎的・汎用的能力の各指標のプラスの変化との関連がより顕著に見られる（図表 3-9-3）。

図表 3-9-1 性別によるキャリア教育に関する各種の取り組みと基礎的・汎用的能力の変化量との関係性の違い

	男性				女性			
	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
目標設定、全体計画・年間指導計画に関する回答項目数：4～9				▼				
教職員を対象とした校内研修会を毎年実施							▼	
キャリア教育に関する時間数が多い：2年生								
キャリアプラン：1年生		△						
キャリアプラン：2年生	△	△	△△	△△△	△	△△△		△△△
キャリアプラン：3年生								
オープンキャンパス：2年生			△	△△			△	△△
オープンキャンパス：3年生	△△△	△△△						▼▼▼
インターンシップ参加：1年生								▼▼
インターンシップ参加：2年生		△△			△	△△		
インターンシップ参加：3年生					△△△	△△△	△△△	△△△

※△は、重回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

¹¹ 「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4指標を足し合わせた合計（最小値24、最大値96）について、概ね生徒が半分ずつ区分されるよう、71以下の生徒と、72以上の生徒とに分類した。

図表 3-9-2 学校の進学率によるキャリア教育に関する各種の取り組みと基礎的・汎用的能力の変化量との関係性の違い

	進学率：7割未満				進学率：7割以上			
	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・自己 管理能力	課題対応能力	キャリアアプラン ニング能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・自己 管理能力	課題対応能力	キャリアアプラン ニング能力
目標設定、全体計画・年間指導計画に関する回答項目数：4～9			▼	▼▼▼		△		
教職員を対象とした校内研修会を毎年実施					▼			
キャリア教育に関する時間数が多い：2年生						△		
キャリアアプラン：1年生				▼				
キャリアアプラン：2年生	△	△△△	△	△△△		△△△		△△△
キャリアアプラン：3年生								
オープンキャンパス：2年生			△△					△△
オープンキャンパス：3年生	▼		▼	▼	△△△	△△△	△	
インターンシップ参加：1年生	▼▼	▼▼▼		▼▼▼				
インターンシップ参加：2年生					△△	△		
インターンシップ参加：3年生		△△			△△	△△△	△△△	△△△

※△は、重回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

図表 3-9-3 1年生前半調査時点の意識水準別、キャリア教育に関する各種の取り組みと基礎的・汎用的能力の変化量との関係性の違い

	当初の意識水準：低い				当初の意識水準：高い			
	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・自己 管理能力	課題対応能力	キャリアアプラン ニング能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・自己管 理能力	課題対応能力	キャリアアプラン ニング能力
目標設定、全体計画・年間指導計画に関する回答項目数：4～9								
教職員を対象とした校内研修会を毎年実施		▼▼	▼	▼▼				
キャリア教育に関する時間数が多い：2年生								
キャリアアプラン：1年生								
キャリアアプラン：2年生	△△	△△△		△△△		△△△	△	△△△
キャリアアプラン：3年生					△			△
オープンキャンパス：2年生			△△	△△			△△	△△△
オープンキャンパス：3年生	△△	△		▼				
インターンシップ参加：1年生	△△							▼
インターンシップ参加：2年生					△△	△△		
インターンシップ参加：3年生	△△△	△△△	△△△	△△△	△	△△		△△

※△は、重回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

(4) 補論：勤労観・職業観の変化や進路希望未定者に関する分析

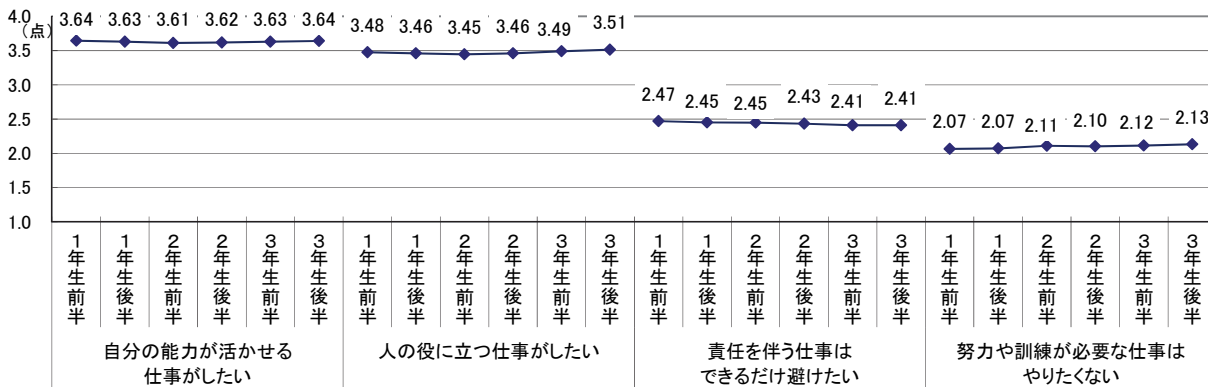
①勤労観・職業観の変化について

ここまでは、基礎的・汎用的能力に関する指標の変化に着目した分析を行ってきたが、さらに、「勤労観・職業観」に関して、「自分の能力をいかせる仕事がしたい」、「人の役に立つ仕事がしたい」、「責任を伴う仕事はできるだけ避けたい」、「努力や訓練が必要な仕事はやりたくない」の4つの質問項目に関する分析を追加的に行った。

これら4つの項目について、「あてはまる」を4点、「ややあてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点として点数化し、1年生前半から3年生後半にかけての変化の状況を見ると、いずれについても変化の度合いは大きくないが、例えば、「人の役に立つ仕事がしたい」については、3年生の時期に意識が高まっていることがわかる(図表3-10-1)。また、「責任を伴う仕事はできるだけ避けたい」という意識は次第に弱くなっていることから、責任を伴う仕事にも取り組んでいく姿勢を次第に持つようになってきていると想定される一方で、「努力や訓練が必要な仕事はやりたくない」という意識も高まっていることがわかる。

これら勤労観・職業観に関する項目の得点について、各回の変化量に対する重回帰分析を実施したところ、「キャリアプラン等の作成」「上級学校のオープンキャンパス等への参加」「インターンシップ参加」のそれぞれが、勤労観・職業観の各項目の変化と関連性があることがわかった(図表3-10-2)。なお、インターンシップに関しては、3年生の時期の参加のみならず、2年生の時期に参加した場合にも、意識の変化の度合いに対して有意となっている。

図表 3-10-1 勤労観・職業観に関する得点の推移の把握



※集計の対象度数は、各階の調査においていずれの項目についても回答があった(無回答ではなかった) 29,054 件である。

図表 3-10-2 キャリア教育に関する各種の取り組みと基礎的・汎用的能力の変化量との関係

	自分の能力をいかせる仕事をしたい						人の役に立つ仕事をしたい					
	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 後半	3 年生 前半	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 後半	3 年生 前半
目標設定、全体計画・年間指導計画に関する回答項目数：4～9												
教職員を対象とした校内研修会を毎年実施	▼▼	△△									△△	
キャリア教育に関する時間数が多い：2年生	△	▼▼▼					△△△					
キャリアプラン：1年生					△							
キャリアプラン：2年生			△△△		△△	△△△		△△				△△△
キャリアプラン：3年生							▼▼▼					
オープンキャンパス：2年生					△△							△
オープンキャンパス：3年生	△△		▼	△△		△△△				△△		△△△
インターンシップ参加：1年生						△△			▼			
インターンシップ参加：2年生		△△△				△△△	▼	△△△			△	△△
インターンシップ参加：3年生			△△△			△△△		△		△△△		△△△
	責任を伴う仕事はできるだけ避けたい						努力や訓練が必要な仕事はやりたくない					
	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 後半	3 年生 前半	1 年生 後半	1 年生 前半	2 年生 後半	2 年生 前半	3 年生 後半	3 年生 前半
目標設定、全体計画・年間指導計画に関する回答項目数：4～9												
教職員を対象とした校内研修会を毎年実施					△△△		△△				△△△	△△
キャリア教育に関する時間数が多い：2年生		△△					△		△△			△
キャリアプラン：1年生		▼		▼▼		▼▼▼		▼		▼▼		▼▼▼
キャリアプラン：2年生												
キャリアプラン：3年生				▼▼▼		▼▼▼				▼▼▼		▼▼▼
オープンキャンパス：2年生												
オープンキャンパス：3年生	▼▼					▼▼▼	▼▼					▼▼▼
インターンシップ参加：1年生					△△						△△	
インターンシップ参加：2年生	▼▼▼				▼	▼▼▼	▼▼▼				▼	▼▼▼
インターンシップ参加：3年生			▼▼▼			▼▼▼			▼▼▼			▼▼▼

※△は、重回帰分析の結果、変数が変化量に対して有意にプラスの関係にあることを意味し、△が10%水準、△△が5%水準、△△△が1%水準で有意であることを意味する。▼については、有意にマイナスの関係にあることを意味する。

②進路希望未定者に関する分析

最後に、進路希望をたずねた調査項目について、「決めていない」と回答した生徒に着目した分析を行った。

クラス番号・出席番号、ならびに性別に関する回答から、計6回の調査について対応関係が確認できた生徒で、3年生前半で、自身の進路希望について「決めていない」と回答した生徒は295人であった（集計可能な対象者数29,954人に対する割合1.0%）¹²。

これらの生徒について、1年生前半調査以降の回答結果から、件数が多かった回答パターンについて把握したところ、件数が最も多かったのは、2年生の後半までは継続的に「進学したい」と回答していた場合で55件あった（図表3-11-1）。このほか、パターンとして件数が多かったのは、1年生前半の時点で「決めていない」と回答しており、以後その回答が続いている場合、または1年生前半の時期には「進学したい」と回答していたが、その後「決めていない」と回答が変化した場合であった。

次に、3年生前半の時点で進路希望が「決めていない」と回答した生徒の、1年生前半から3年生前半にかけての基礎的・汎用的能力に関する指標の推移、ならびに、勤労観・職業観に関する回答結果の変化について確認した。基礎的・汎用的能力に関しては、まず、3年生前半の時期に「決めていない」と回答した生徒と、その他の生徒とでは、指標の値の水準の違いが大きいことが見て取れるほか、特に「自己理解・自己管理能力」や「キャリアプランニング能力」について、調査回が進むごとに値が減少する傾向にあることがわかる（図表3-11-2）。また、勤労観・職業観に関しては、「人の役に立つ仕事がしたい」との回答が減少傾向にあり、他方、「努力や訓練が必要な仕事はやりたくない」の回答は増えていることが見て取れる（図表3-11-3）。

さらに、3年生前半の時点で進路希望が「決めていない」であった生徒とそれ以外の生徒とで、「性別」「学校の大学・短期大学進学率」「キャリア教育に関する各種の取り組み状況」「個人としてのインターンシップ参加の有無」の状況の違いについて集計・分析を行った。これらの点に関し、性別についてはほとんど違いは見られない（図表3-11-4）が、進学率については、3年生前半の時点で進路希望について「決めていない」と回答した生徒は、所属する学校の進学率が相対的に低い割合が高いことがわかった（図表3-11-5）。

また、所属する学校でキャリア教育に関する各種の取り組みが提供されているかどうかの違いについてみると、必ずしも3年生前半の時点で進路希望について「決めていない」と回答した生徒について、所属する学校でキャリア教育に関するプログラムが提供されていないわけではないことがわかる（図表3-11-6）。所属している学校でインターンシップが実施されているかについては、むしろ、進路希望について「決めていない」と回答した生徒のほうが該当する割合は高くなっている。また、個人としてインターンシップ参加経験があるかについても、特に2年生の時期に関して、進路希望について「決めていない」と回答した生徒のほうがインターンシップに参加した割合が高くなっていることもわかる（図表3-11-7）。

図表3-11-1から見て取ることができたように、3年生前半の時期に進路希望について「決めていない」と回答した生徒については、当初の進学希望を「断念」した生徒も一定程度含まれるのではないかと想定され、迷い等が生じているのではないかと推察される。

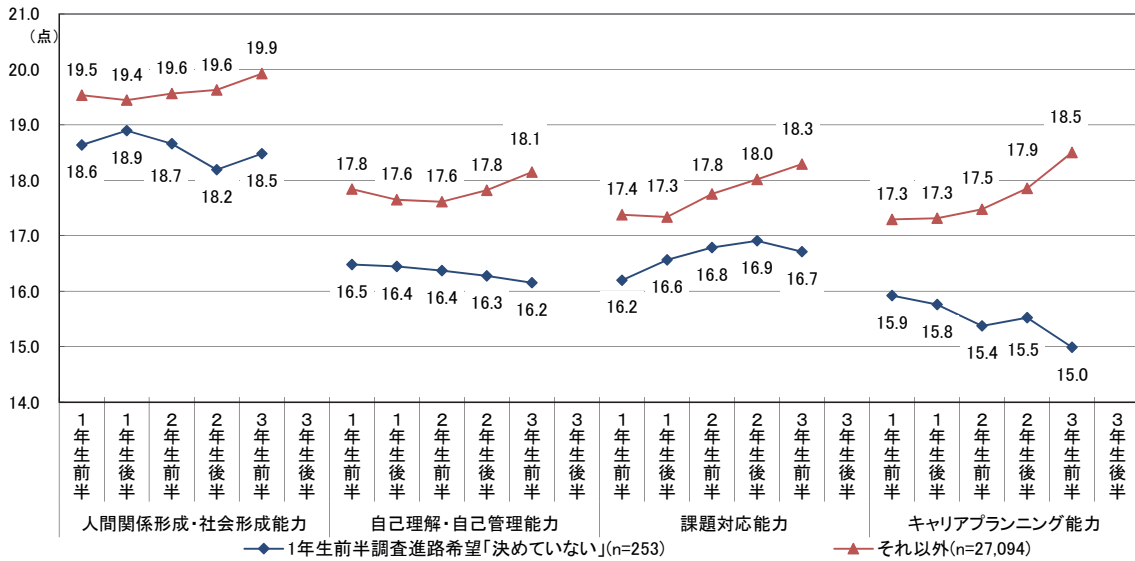
¹² なお、平成26年第1回調査の時点で「具体的に考えたことがない」との回答は32人（集計可能な対象者数に対する割合0.1%）であったが、「決めていない」状態とはまた異なっていると考えられ、また、度数が少ないこともあり、ここでは集計の対象とはしなかった。

図表 3-11-1 3年生前半の時点で進路希望「決めていない」の生徒の進路希望の回答パターン（件数上位5パターン）

1年生 前半調査	1年生 後半調査	2年生 前半調査	2年生 後半調査	3年生 前半調査	件数
進学したい	進学したい	進学したい	進学したい	決めていない	55件
決めていない	決めていない	決めていない	決めていない	決めていない	18件
進学したい	進学したい	決めていない	決めていない	決めていない	16件
進学したい	進学したい	進学したい	決めていない	決めていない	15件
進学したい	決めていない	決めていない	決めていない	決めていない	14件

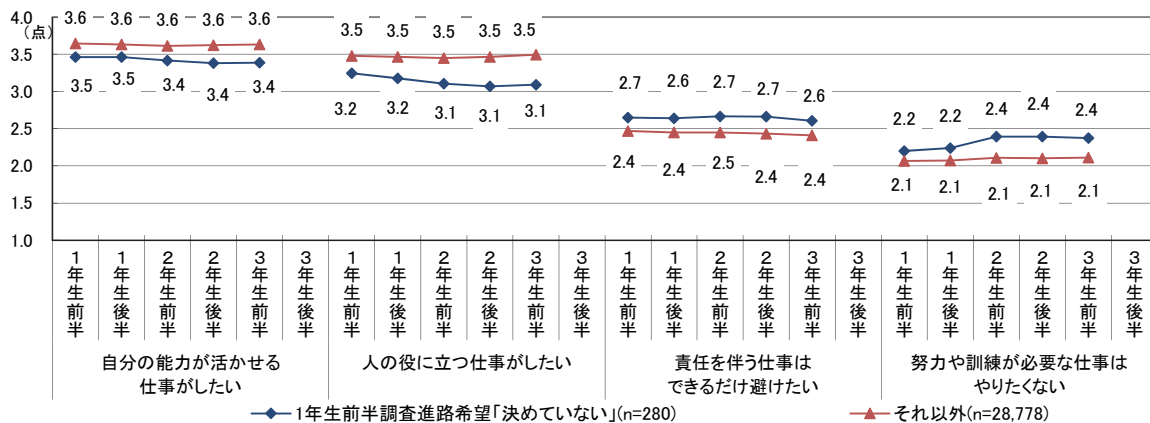
※回答の状況をより明確にするため、「決めていない」の場合に網掛けした。

図表 3-11-2 3年生前半の時点で進路希望「決めていない」の生徒とそれ以外の生徒の基礎的・汎用的能力に関する指標の推移



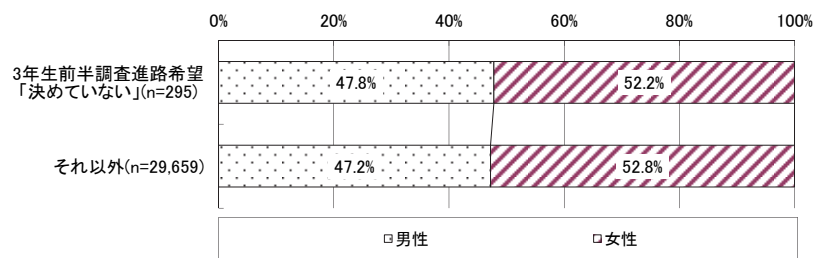
※集計対象度数は、各階の調査で基礎的・汎用的能力に関する各項目に回答があった（無回答ではなかった）ものである。

図表 3-11-3 3年生前半の時点で進路希望「決めていない」の生徒とそれ以外の生徒の勤労観・職業観に関する回答の変化

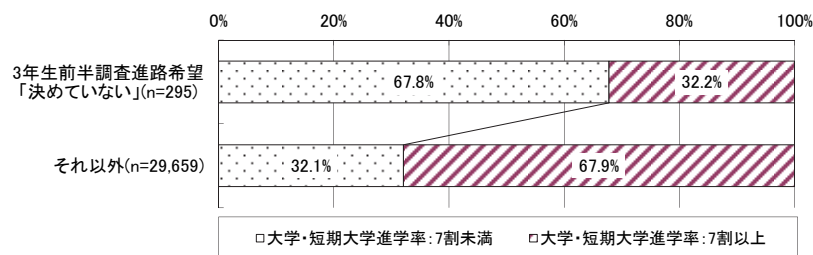


※集計対象度数は、各階の調査で勤労観・職業観に関する各項目に回答があった（無回答ではなかった）ものである。

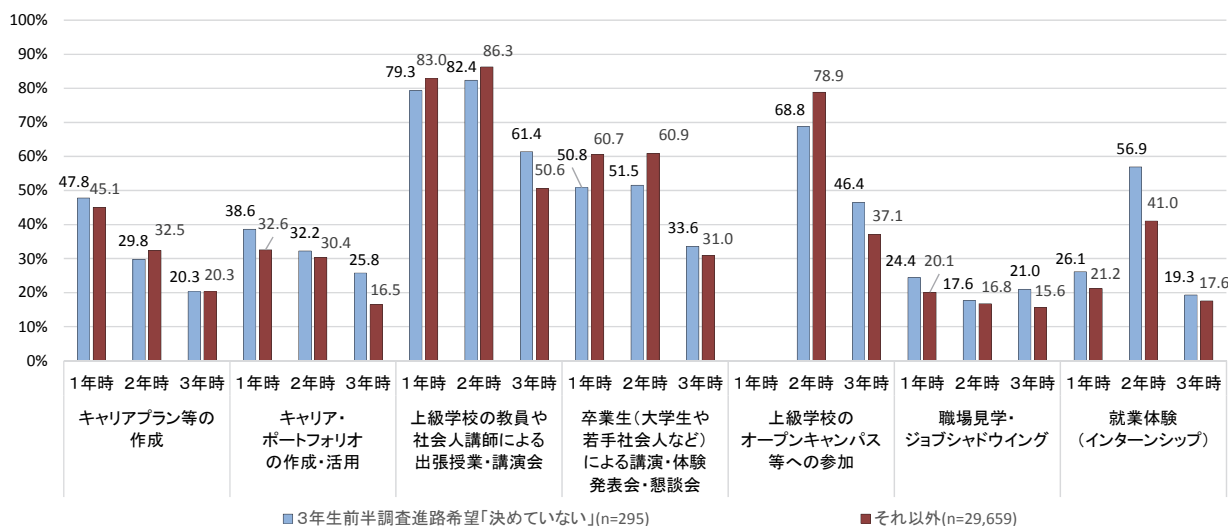
図表 3-11-4 3年生前半調査の時点で進路希望「決めていない」の生徒とそれ以外の生徒の間の性別の違い



図表 3-11-5 3年生前半調査の時点で進路希望「決めていない」の生徒とそれ以外の生徒の間の所属する学校の進学率の違い

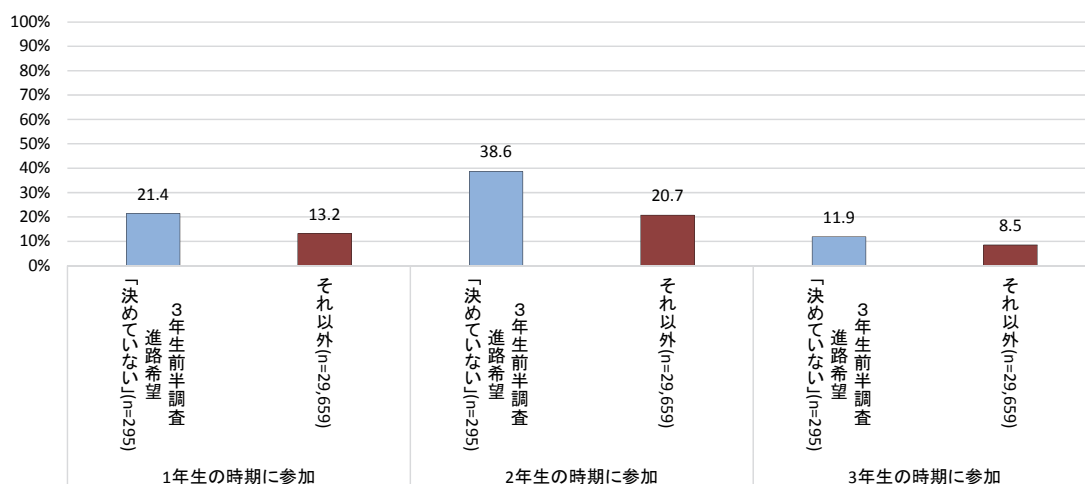


図表 3-11-6 3年生前半調査の時点で進路希望「決めていない」の生徒とそれ以外の生徒との間の所属する学校でのキャリア教育に関する取り組みの実施割合の違い



※「上級学校のオープンキャンパス等への参加」は、1年時の調査ではたずねていない。

図表 3-11-7 3年生前半調査の時点で進路希望「決めていない」の生徒とそれ以外の生徒との間のインターンシップ参加の状況の違い



4. 生徒の変容が大きく見られた学校に着目した分析

以下では、ここまでの分析とは観点を換え、生徒の基礎的・汎用的能力のプラスの変化の度合いが大きかった学校と、プラスの変化の度合いが比較的小さかった学校とで、キャリア教育に関する取り組み等の状況についてどのような違いが見られるのかを把握するための分析を行う。

(1) 学校群の抽出

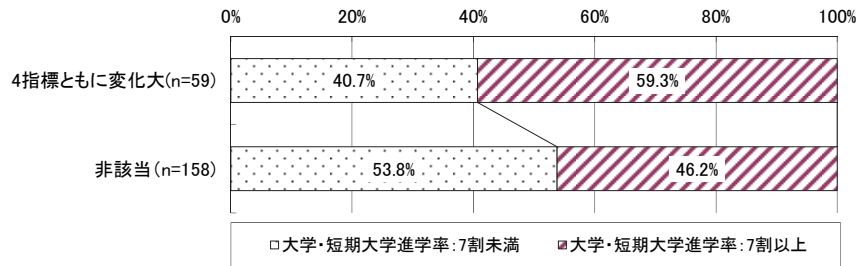
「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の各指標の1年生前半から3年生後半にかけてのトータルの変化量について、全学校の平均の変化量よりも高いか低いかを判別し、「4つの指標ともに全学校の平均の変化量よりも高い学校」と、「それ以外の学校（非該当）」とに分類した。

4つの指標ともに全学校の平均の変化量よりも高い学校は59校であり、集計対象となる生徒数は8,489人であった（図表4-1-1）。なお、この条件に該当する学校について進学率別に見ると、大学・短期大学の進学率が相対的に高い学校の割合が高くなっている（図表4-1-2）。

図表 4-1-1 条件に該当する学校数・生徒数

	学校数	集計対象の生徒数
4つの指標ともに全学校の平均の変化量よりも高い学校	59校	8,489人
非該当	168校	18,858人

図表 4-1-2 4つの指標ともに全学校の平均の変化量よりも高い学校の進学率

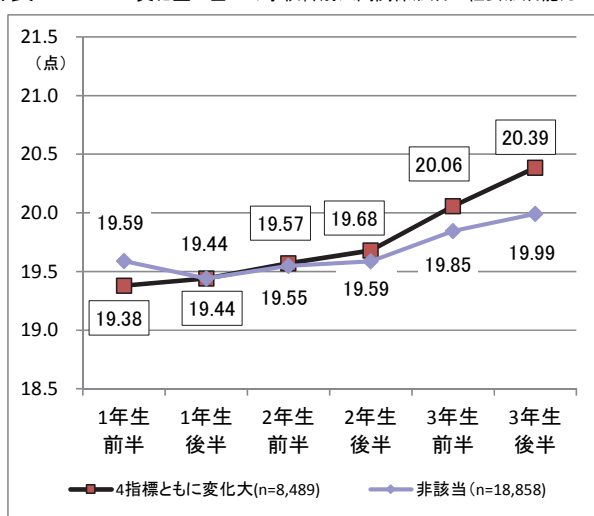


(2) 各指標の変化の状況

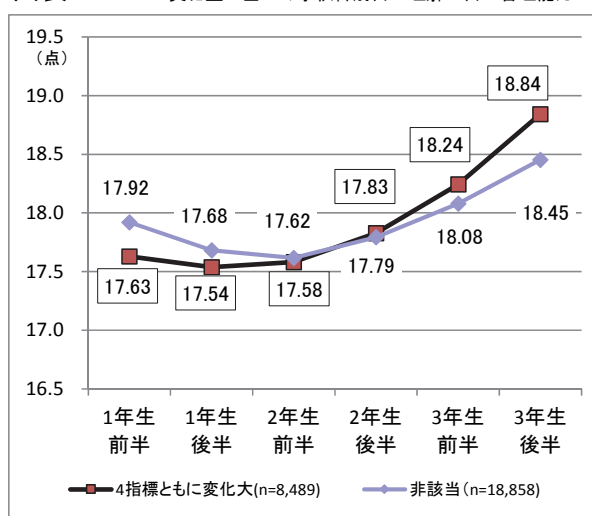
4つの指標ともに全学校の平均の変化量よりも高い学校とそれ以外の学校とで、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の各指標の推移の違いについてみると次の図表4-2-1～図表4-2-4のようになっている。

これらから、4つの指標ともに全学校の平均の変化量よりも高い学校の生徒では、その他の生徒と比較して1年生または2年生前半の時期にかけては能力・意識の水準が相対的に低いのが、その後の伸びが顕著に見られ、3年生の時期には全ての指標で、その他の生徒の水準を上回っていることがわかる。

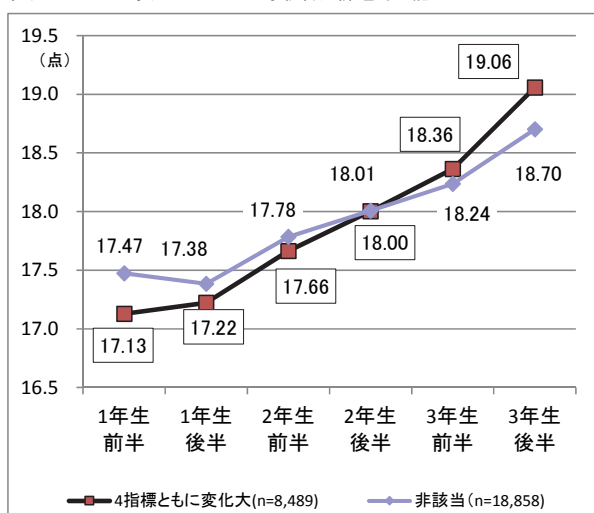
図表 4-2-1 変化量に基づく学校群別人間関係形成・社会形成能力



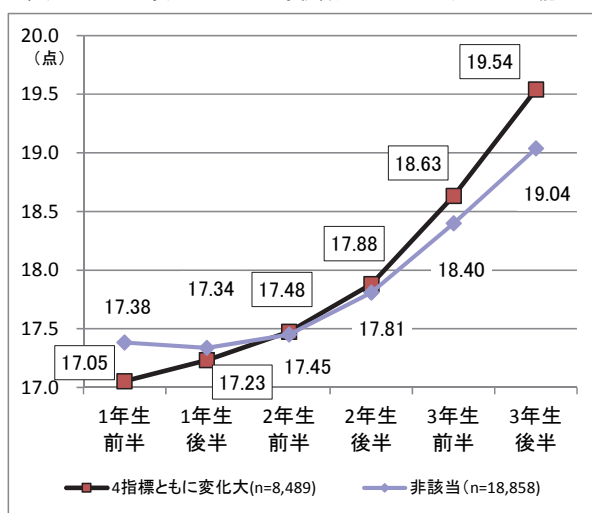
図表 4-2-2 変化量に基づく学校群別自己理解・自己管理能力



図表 4-2-3 変化量に基づく学校群別課題対応能力



図表 4-2-4 変化量に基づく学校群別キャリアプランニング能力



(3) 学校群別の学校調査結果の比較

①キャリア教育に関する計画等策定の状況、教職員を対象とした研修会実施の状況の違い

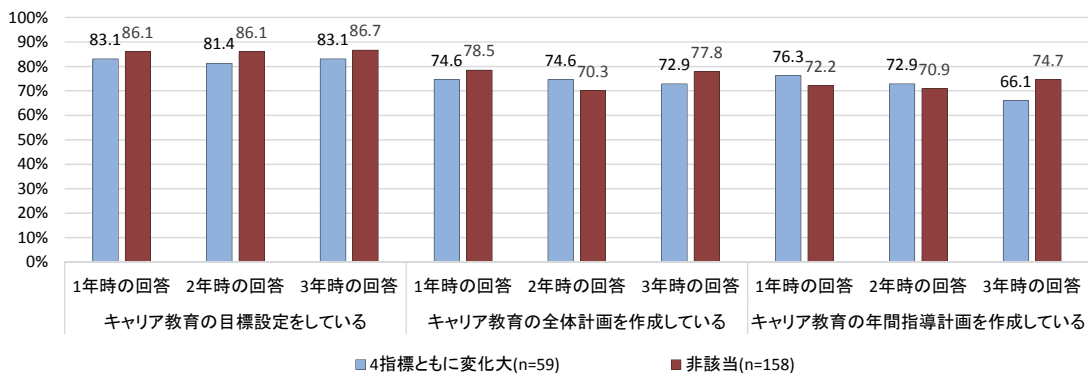
基礎的・汎用的能力に関する4指標の変化量がいずれも平均以上であった学校群と、それ以外の学校群とで、キャリア教育に関する目標設定、または全体計画・年間指導計画の策定状況について比較すると、必ずしも4つの指標ともに全学校の平均の変化量よりも高い学校において「設定/作成している」の回答割合が高いわけではないことがわかる(図表4-3-1)。

この点について、1年時から3年時の3年間のキャリア教育に関する目標設定、全体計画の作成、年間指導計画の作成の3点の回答項目数をみると、4指標の変化量がいずれも平均以上であった学校群では回答項目数が9である(いずれの年でも目標設定、ならびに全体計画・年間指導計画の作成をしている)割合が45.8%と比較的高くなっているが、他方で項目数が0~3である場合も、4指標の変化量がいずれも平均以上であった学校では該当する割合の合計は13.6%と、「非該当」の学校(11.5%)よりも高くなっていることから、両者の間に、目標設定や計画作成の状況についての明確な差異はないのではないかと考える(図表4-3-2)。

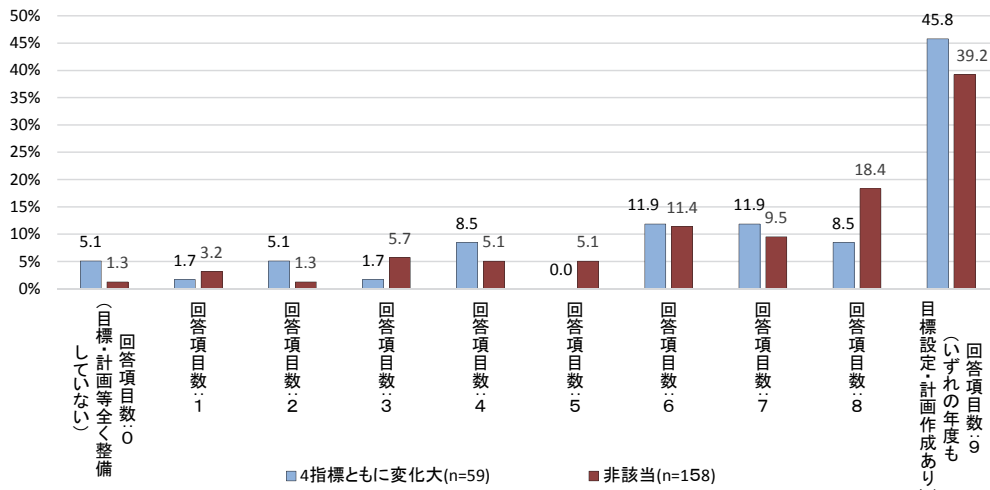
なお、キャリア教育に関する目標の設定の仕方については、4つの指標の変化量がいずれも平均以上であった学校群のほうが、「各学年の目標を設定している」や「身に付けさせたい能力や態度を設定している」の回答割合は、若干高くなっている(図表4-3-3)。

このほか、教職員を対象とした校内研修の実施状況についても、4指標の変化量がいずれも平均以上であった学校群と、それ以外の学校群とで、大きな違いは見られない(図表4-3-4)。

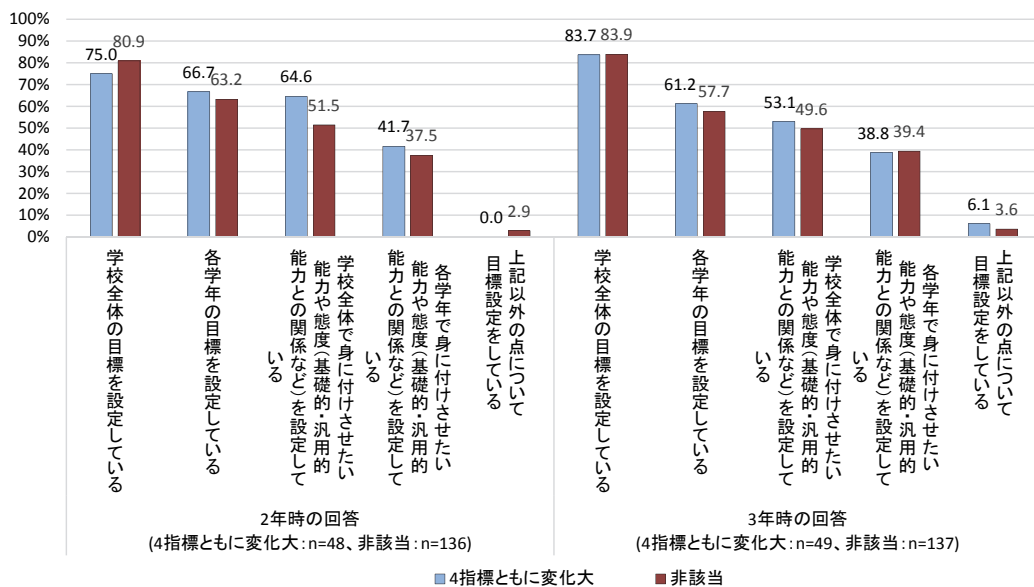
図表 4-3-1 指標の変化量に基づく学校群別、キャリア教育に関する目標設定・計画作成の状況



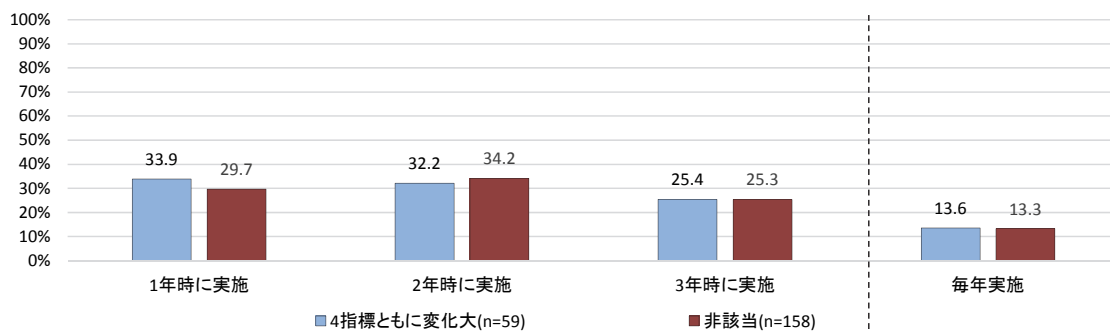
図表 4-3-2 指標の変化量に基づく学校群別、1年時から3年時のキャリア教育に関する目標設定・計画作成の状況



図表 4-3-3 指標の変化量に基づく学校群別、キャリア教育に関する目標設定の仕方



図表 4-3-4 指標の変化量に基づく学校群別、教職員を対象とした研修会の実施状況



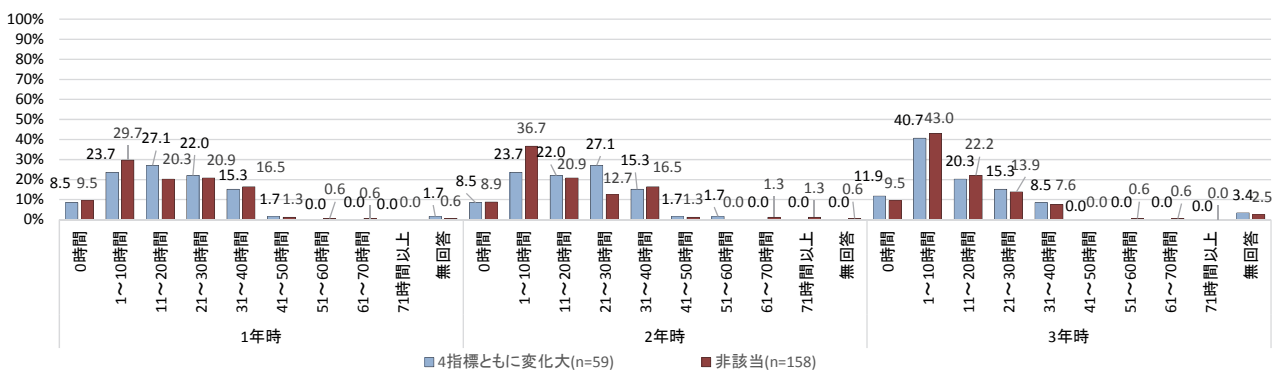
②総合的な学習の時間・ホームルーム活動におけるキャリア教育に関する内容の時間の多寡の違い

総合的な学習の時間、ならびに、ホームルーム活動でキャリア教育に関する内容にかけられている時間の多寡について見ると、4指標の変化量がいずれも平均以上であった学校群では、2年生の時期に総合的な学習の時間にかけている時間数や、3年生の時期のホームルーム活動でかけられている時間数が比較的多いなどの違いがあることがわかる（図表4-4-1、図表4-4-2）。

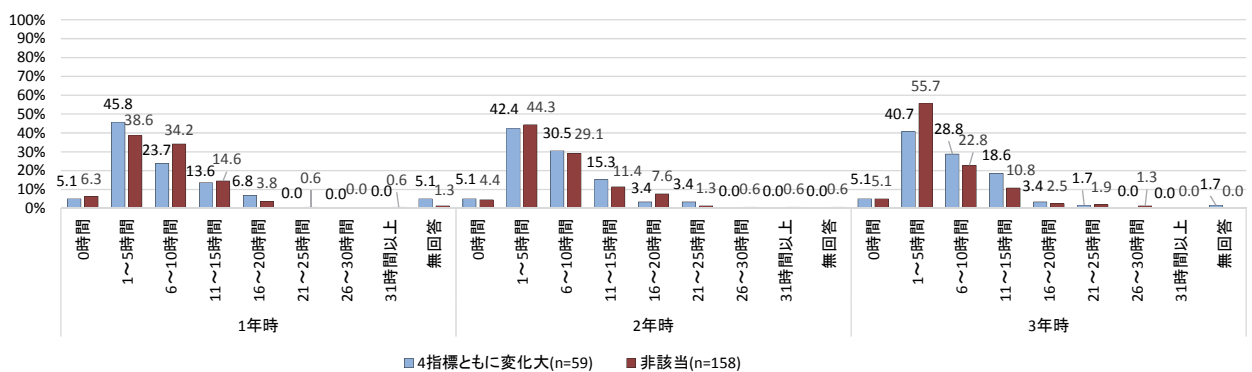
総合的な学習の時間とホームルーム活動の回答の組み合わせにより、学年年別に、かけられている時間が相対的に多い学校と少ない学校とに区分し、該当する学校の割合の違いについてみると、4指標の変化量がいずれも平均以上であった学校群では、特に2年生の時期に、かけられている時間数が比較的多い学校の割合が高くなっている（図表4-4-3）。

なお、2年生の時期でのキャリア教育に関する時間数の状況について進学率別にみると、特に進学率が相対的に高い学校について、4指標の変化量がいずれも平均以上であった学校群で、キャリア教育にかけている時間数が多い学校の割合が高くなっている（図表4-4-4）。

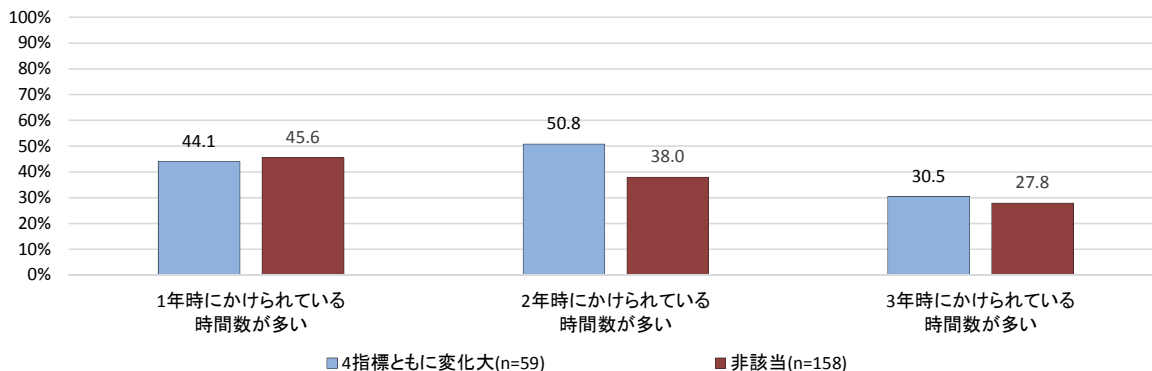
図表 4-4-1 指標の変化量に基づく学校群別、総合的な学習の時間でキャリア教育に関する内容に年間であてている時間数



図表 4-4-2 指標の変化量に基づく学校群別、ホームルーム活動の時間でキャリア教育に関する内容に年間であてている時間数

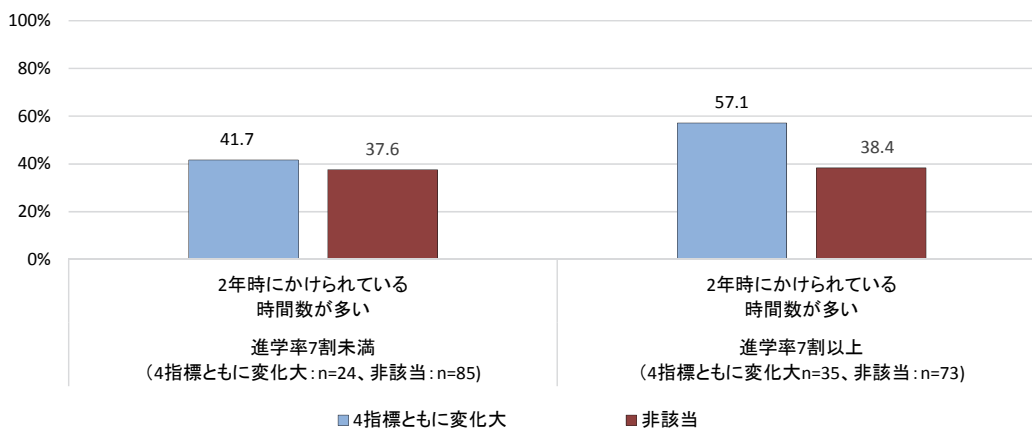


図表 4-4-3 指標の変化量に基づく学校群別、総合的な学習の時間とホームルーム活動でキャリア教育に関する内容に年間であてている時間数



※ 『総合的な学習の時間』で、自己の在り方・生き方を考えさせる等、キャリア教育に関する内容に年間どれくらい時間をあてているか」と、『ホームルーム活動（ロングホームルーム）』で、自己の在り方・生き方を考えさせる等、キャリア教育に関する内容に年間どれくらい時間をあてているか』に対する回答の組み合わせにより、概ねかけられている時間が 25 時間超の学校について、時間数が多いと扱っている。

図表 4-4-4 進学率別、指標の変化量に基づく学校群別、2年生の時期にキャリア教育に関する内容に年間であてている時間数の違い

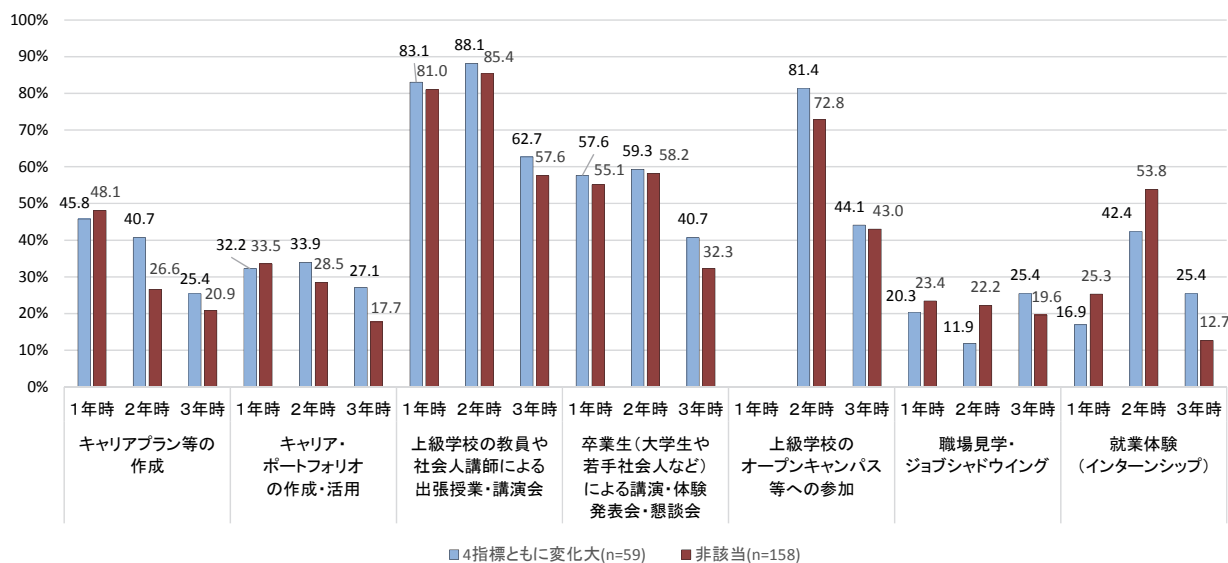


③キャリア教育に関する各種の取り組み状況の違い

基礎的・汎用的能力に関する4指標の変化量がいずれも平均以上であった学校群とそれ以外の学校群とで、キャリア教育に関する各種の取り組み状況の違いについて集計・分析を行った(図表4-5-1)。この結果から、基礎的・汎用的能力に関する4指標の変化量がいずれも平均以上であった学校群では、2年生・3年生の時期に「キャリアプラン等の作成」や「キャリア・ポートフォリオの作成・活用」を行っている割合が高いこと、各学年での、「上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会」「卒業生(大学生や若手社会人など)による講演・体験発表会・懇親会」、あるいは「上級学校のオープンキャンパス等への参加」が実施されている割合が高いこと、「職場見学・ジョブシャドウイング」または「就業体験(インターンシップ)」については、3年生の時期に実施されている割合が高くなっていることがわかる。先の分析で、2年生の時期におけるキャリアプラン等の作成や、オープンキャンパスへの参加、または3年生の時期でのインターンシップの参加が基礎的・汎用的能力の変化の度合いに影響している可能性が高いことが明らかになったが、学校群を分類して比較を行った今回のような分析でも、これらの取り組み状況に違いがあることが確認された。

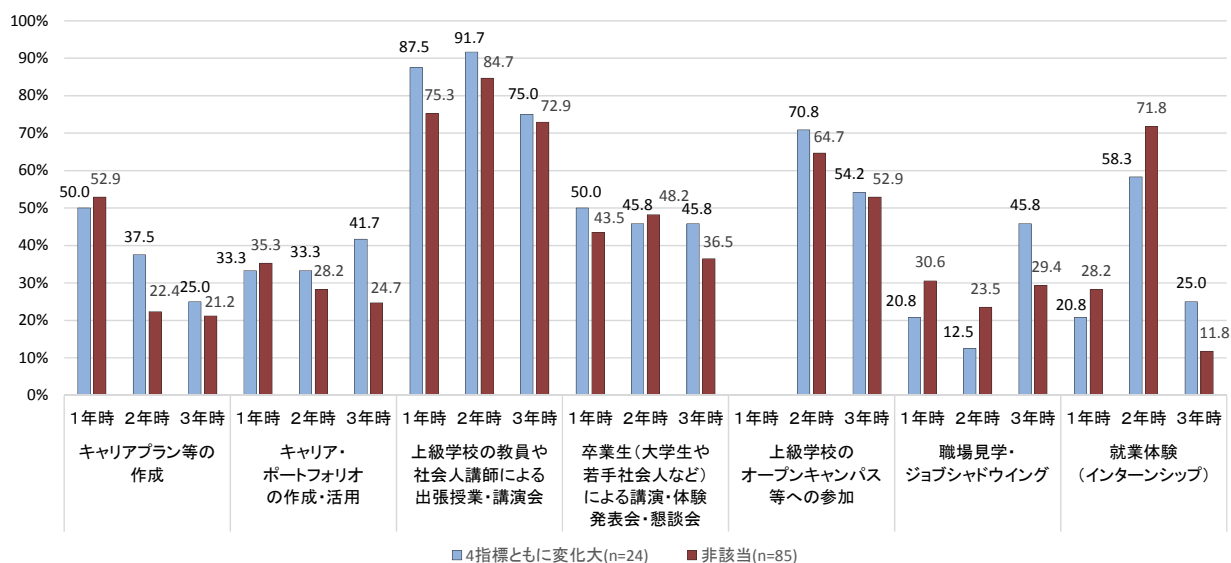
なお、これらの取り組み状況について進学率別にみると、「職場見学・ジョブシャドウイング」や「就業体験(インターンシップ)」については進学率が相対的に低い学校で実施割合が比較的高く、他方で1~2年生の時期での「卒業生(大学生や若手社会人など)による講演・体験発表会・面談会」や2年生の時期での「上級学校のオープンキャンパス等への参加」については進学率が相対的に高い学校で実施割合が高くなっているが、そのなかで、基礎的・汎用的能力に関する4指標の変化量がいずれも平均以上であった学校群では、2年生・3年生の時期に「キャリアプラン等の作成」や「キャリア・ポートフォリオの作成・活用」を行っている割合が比較的高いことや、「就業体験(インターンシップ)」について、3年生の時期に実施されている割合が比較的高くなっているという点は、進学率の違いによらず、共通した特徴として見られることがわかる(図表4-5-2、図表4-5-3)。

図表4-5-1 指標の変化量に基づく学校群別、キャリア教育に関する各種の取り組み状況



※各質問項目に無回答であった学校は、ここでは「実施していない」ものとして集計した。
 ※「上級学校のオープンキャンパス等への参加」は、1年時の調査ではたずねていない。

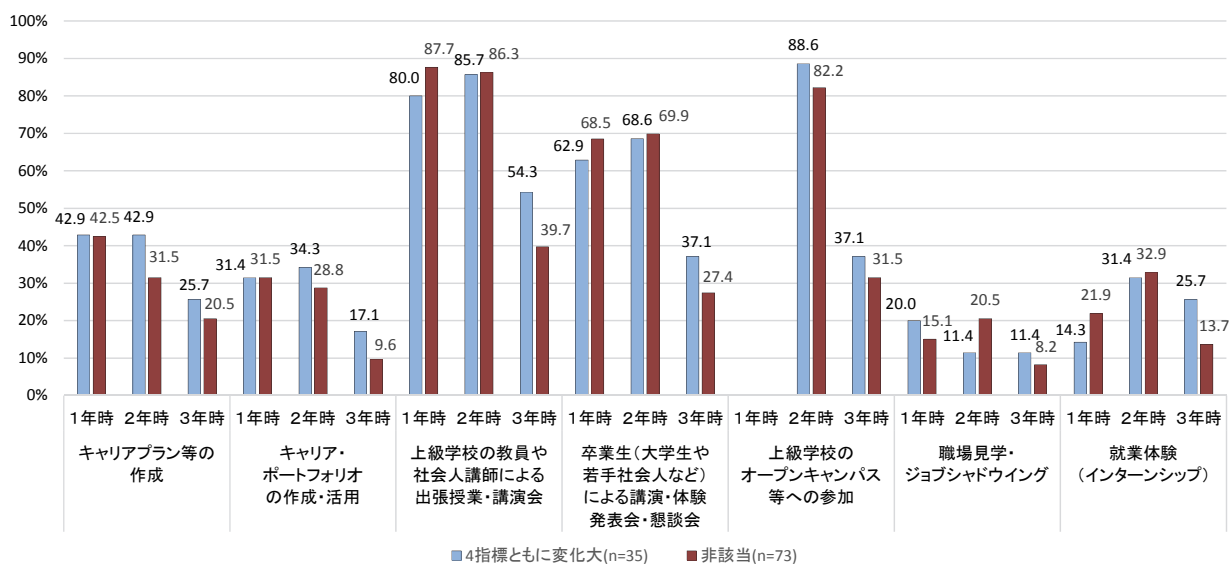
図表 4-5-2 進学率が7割未満の学校における指標の変化量に基づく学校群別、キャリア教育に関する各種の取り組み状況



※各質問項目に無回答であった学校は、ここでは「実施していない」として集計した。

※「上級学校のオープンキャンパス等への参加」は、1年時の調査ではたずねていない。

図表 4-5-3 進学率が7割以上の学校における指標の変化量に基づく学校群別、キャリア教育に関する各種の取り組み状況



※各質問項目に無回答であった学校は、ここでは「実施していない」として集計した。

※「上級学校のオープンキャンパス等への参加」は、1年時の調査ではたずねていない。

5. ヒアリング調査から把握される学校の特徴

以下では、質問紙調査とは別に実施したヒアリング調査から把握された、生徒の基礎的・汎用的能力に関する各指標の変化量が比較的大きかった各学校の特徴や、それらの学校間に見られた共通点等について示す。

ヒアリング調査は、各学校でキャリア教育に関連する取り組みが具体的にどのように行われているのかを把握し、また、学校での実践と生徒の変容との関連性についての理解を深めることを目的として実施した。

(1) 調査対象の抽出・訪問日

ヒアリングの対象先は、質問紙調査の結果に基づき、1年生前半の調査から2年生後半の調査にかけて¹³の基礎的・汎用的能力に関する各指標の変化量がいずれも平均よりも大きかった学校の中から、地域性や進学率、生徒数の規模の大きさ、その他のキャリア教育に関する取り組み状況の違いを鑑み、選定・抽出を行った。

最終的に調査対象は質問紙調査の対象とした217の高校のうち、6つの高校を抽出し、各学校の管理職（校長・副校長・教頭など）ならびにキャリア教育の推進の中核を担っている教員に対するヒアリング調査を実施した。ヒアリング先の学校の概要ならびに訪問日は次の図表5-1-1の通りである。なお、ヒアリング対象校に関しては記号（A校～F校）で表記した。

図表 5-1-1 ヒアリング調査対象校に関する情報、ヒアリング調査訪問日

対象校	地域	全校生徒数	進学率*	訪問日
A校	関東	800人以上	4割～7割	平成26年9月22日
B校	関東	600人～800人	4割未満	平成26年10月31日
C校	関西	400人未満	4割～7割	平成26年10月17日
D校	中国・四国	400人～600人	7割以上	平成26年9月24日
E校	中国・四国	400人～600人	7割以上	平成26年9月24日
F校	九州	400人～600人	4割～7割	平成26年10月22日

※全校生徒数は、調査対象校のホームページに掲載されている情報から把握した。

※進学率は学校向けの質問紙調査への回答で得られた情報である。各学校の最新の進路実績等とは情報が若干異なることもありうる。

¹³ 調査実施時期との関係で、2年生後半調査までの回答結果を基にヒアリング調査の対象とする学校の検討を行った。なお、ヒアリング調査の対象とした学校については、3年生後半の時期まで見ても、他の学校と比べて肯定的な変化が比較的大きいことを確認している。

(2) ヒアリング調査対象先と質問紙調査結果の対応関係

調査対象の学校について、質問紙調査から得られた情報を図表 5-2-1 に示した。

図表 5-2-1 ヒアリング調査対象校について質問紙調査から把握された情報

	A校	B校	C校	D校	E校	F校
目標設定、全体計画・年間指導計画に関する回答項目数：4～9	○	○	○	○	○	×
教職員を対象とした校内研修会を毎年実施	×	○	○	×	×	×
2年生の時期にキャリア教育に関する時間数が多い	×	○	×	○	×	×
キャリアプラン：1年生	○	×	×	○	×	×
キャリアプラン：2年生	×	○	×	○	○	×
キャリアプラン：3年生	×	○	×	×	×	○
キャリア・ポートフォリオ：1年生	○	○	○	○	×	×
キャリア・ポートフォリオ：2年生	○	○	×	×	○	×
キャリア・ポートフォリオ：3年生	×	○	○	○	×	×
教員や社会人講師の授業・講演：1年生	○	○	○	○	×	×
教員や社会人講師の授業・講演：2年生	○	○	○	○	○	○
教員や社会人講師の授業・講演：3年生	×	○	○	×	×	○
卒業生による講演等：1年生	×	○	×	○	×	×
卒業生による講演等：2年生	○	○	×	○	○	×
卒業生による講演等：3年生	×	○	○	×	○	×
オープンキャンパス：2年生	○	×	○	○	○	○
オープンキャンパス：3年生	×	○	○	×	○	○
職場見学・ジョブシャドウ：1年生	×	×	×	×	×	×
職場見学・ジョブシャドウ：2年生	×	×	×	×	○	×
職場見学・ジョブシャドウ：3年生	×	○	○	×	×	×
インターンシップ：1年生	×	○	×	×	×	×
インターンシップ：2年生	×	×	×	○	○	×
インターンシップ：3年生	×	×	○	×	×	×
インターンシップの事前指導として調べ学習を実施	—	×	×	○	○	—
基礎的・汎用的能力に関する4指標の変化量が平均以上	○	○	○	○	○	○

(3) ヒアリング調査の結果把握された共通点や特徴

ヒアリング調査の結果、各校にある程度共通した特徴として、各校で取り組まれていることは様々であるが、生徒一人ひとりの進路希望等を実現するために教職員の方が尽力していること、また、単に「勉強」だけでなく、学校内外の様々な活動に取り組む姿勢を評価していること等を挙げることができる。

さらに、そのように学校内外で様々なことに取り組むなかで「成功体験」を得ることにより、生徒は自信・自己肯定感を高めているのではないかと想定され、このような点が、質問紙調査で把握された基礎的・汎用的の指標の伸びにつながっているのではないかと推察される。

①生徒一人ひとりに対する丁寧な指導・対応

ヒアリングの対象とした学校は必ずしも大学・短期大学進学率が高い学校ばかりではない。ヒアリングの中でも、生徒の進学意識や競争意識がそれほど高くないとの話が聞かれた学校があった。ただ、いずれの学校においても、学校・教員は、高校入学後、生活指導の面も含めて、生徒一人ひとりに対して丁寧な指導・対応を行っているとのことであった。「教員側がやればやるだけ生徒は応えてくれる」という実感を持っているとの話も聞かれたが、教員側の「がんばり」に生徒が応えるという関係があることで、これらの学校では生徒の能力・意識の向上がより大きく見られたのではないかと推察される。

このほか、生徒に対して常に「声かけ」をして、一人ひとりの生徒と教員との間での「つながり」をしっかりと保つことが重要であるとの話が聞かれた学校もあった。

②様々な活動を通じての成功体験、存在価値の実感や自信・自己肯定感の獲得

ヒアリング対象の各学校では、インターンシップに限らず、地域の行事やボランティア活動などにも生徒が積極的に参加している状況にあることが明らかになった。ヒアリングのなかでは、生徒はこれら地域の人とのかかわりを持つことなどを通じて、「頼られる存在になる」ことで自信を持ち、達成感を得て、また、地域の人に喜ばれることが、生徒の自己肯定感につながっているのではないかとということが指摘された。

また、多くの学校で、学校内では、部活動や生徒会活動、学校行事等の活動も重視しているという話が聞かれた。単に「勉強」だけでなく、様々なことを通じて、生徒の自主性や能力等を育成することや、「存在価値」に関する認識を高めさせることが意識的に行われていることがうかがえた。「キャリア教育」について、必ずしも特別なものとして位置づけるのではなく、これら学校内外で行われる様々なことの積み重ねにより、総合的に取り組まれることが重要であるとの認識も示された。

このほか、行事等の活動や、部活動、成果発表会の機会など、生徒が学校内で先輩との「縦の関係」のなかで活動する機会を意識的に設定している学校もある。生徒の能力観や将来への意識を高めていく上では、これら身近な先輩との関係性も重要との考えがあることがうかがえた。

③教職員間の連携・情報共有、引継ぎ等に関する教員側の体制作り

上記①または②を実現していくために、各学校では教職員側の体制作りの面で工夫がなされているのではないかとということがうかがえた。例えば、生徒一人ひとりの進路希望の情報や成績の情報を、教員全員が共有する仕組みを設けている学校が見られた。また、校内での業務・担当等の役割分担の際に、主担当・副担当制を採用することで、取り組み実施の背景や理念の部分も含めて、学校内でノウハウ等が引き継がれるように意識的に取り組んでいる学校も見られた。このほか、キャリア教育に関する研修に基本的に教員全員が参加している学校もあった。

生徒一人ひとりに対する丁寧な指導・対応を行っていくことや、「勉強」以外の面も重視した取り組みを推進し、生徒と向き合っていくことは、ともすれば学校現場でかかわる教員には、多くの負担がかかることではないかということもうかがえたが、これらの取り組みを継続的に実施しうるように、教職員間でも連携・協力し合い、学校として一体となって取り組むことができているからこそ、高い成果が上げられているのではないかと推察される。

(4) ヒアリング対象校から把握された個別の情報

ヒアリング調査の結果把握された各校に関する情報・特徴等について、以下のように整理した。

①A校（地域：関東、全校生徒数：800人以上、進学率：4割～7割）

- ・進路選択の時期が早く、1年生の6月の段階で進路についての三者面談をする。
- ・「キャリア教育」という言葉は使っていないが、生徒には、「自分の人生をどのように生きていくか」を考えることを意識させている。取り立てて「キャリア教育」と言ってしまうと、教育全体の中の一部のカテゴリーというような捉え方もされて、ある意味誤解をされてしまうかもしれないと考えている。
- ・インターンシップは行っていないが、小学校の先生のアシスタントをしたり、キッズサッカーなどのボランティアを行ったり、保育実習や看護体験等を行う機会がある。
- ・「成功体験」を語ってもらうということで、2年生の3学期に、既に卒業した人、またはこれから卒業する3年生との「進路交流会」を実施している。そこでの話は、先輩からの「生の声」なので、在校生に対する影響が大きい。
- ・総合的な学習・キャリア教育に関連する内容を記録するノートを作成し、3年間の進路等に関する記録を綴じ込むようにしている。
- ・部活動も一生懸命やり、行事も一生懸命やり、学校の中でやれることを、目の前のことを全力でやって、忙しくてもとにかくこなしていくという体験をさせないと、生きていく力にならないと考える。部活動も含めて、「総合力」が生徒の力になると考えている。

②B校（地域：関東、全校生徒数：600人～800人、進学率：4割未満）

- ・学力的には相対的に低い学校で、ある意味で、「高校に行きたい人」の受け皿になっているところもある。生活指導も、服装のことなど、こまめに指導するようにしている。
- ・キャリア教育については、学校で独自に定めている計画に基づき、生徒に対しては10年後の自分を意識させた取り組みを実施している。また、教員側の体制としても、計画に基づき、分掌ごとに反省会をこまかくやっている。
- ・これまで、生徒はあまり「ほめられる経験がなかった」のではないかと考える。それに対して、高校では様々なことが刺激になっている。ボランティア活動など、地域の人たちとの交流によって、自信を持つようになることも多い。このほか、生徒が取り組んだ活動の成果を地域の人たちも含めて発表する機会等もある。
- ・インターンシップを1年生の11月に全員を対象に、3日間で実施している。事前・事後指導にはかなり力を入れて、時間をかけて実施している。
- ・他の学校に比べ、文化祭等の活動や部活動が活発であるという印象がある。何か「これがあったから」ということではなく、普段の積み上げの中でできることが増えてきているということなのではないかと思われる。
- ・少人数での指導を行っていることもあり、生徒との距離も近い。「人懐っこい」生徒が多く、教員側がやればやるだけ生徒は応えてくれる。

③C校（地域：関西、全校生徒数：400人未満、進学率：4割～7割）

- ・小規模校であることをふまえて、生徒ひとりひとりに対する丁寧な教育を特色としている。
- ・生活指導も含め、入学後にはきめ細かな指導を行う。習熟度別の授業、放課後の進路指導など、全教員が同じ方向を向いて細かな指導をする。進路については「一人一人の進路実現」を理念とし、個に応じたマンツーマンの個別指導を行っている。
- ・教員にはキャリア教育の研修を実施しており、教員全員が参加している。
- ・生徒会の組織がしっかりしており、文化祭や体育祭を含めて、行事等積極的に活動している。伝統的に行われてきたということもあり、上の代の生徒を見て、生徒が主体的に取り組むことができるようになっている。
- ・地域の行事・活動を大切にしており、行事等の活動の中には、運営を生徒が主体となって実施するものもある。
- ・地域の活動では、地域の人に喜ばれることが、生徒の自己肯定感につながるということもある。学校としては、このような、生徒の自己肯定感を高める様々な取り組みを意識して実施している。
- ・キャリア教育の成果のひとつとして、生徒がどのような進路を選んでも卑屈になっていないということがあつたのではないかと印象を持っている。

④D校（地域：中国・四国、全校生徒数：400人～600人、進学率：7割以上）

- ・大学に「合格する」だけでなく、行きたい学部・学科を考えた上で大学を決めるということを重視している。単に偏差値の高い大学を目指すのではなく、「将来何になりたいか」というところから、それを目指すためには・・・という考えで、進学意識を高めている。
- ・学校の特徴として、「卒業研究」の取り組みがある。近隣の大学等と連携しており、成果については発表会で発表する。発表会は、自分たちが担当する3年生になるまでに、低学年のうちから何度か見ることになり、それでイメージを広げることにもなっている。また、1年生のときから大学の模擬授業等を行っており、「本物」に触れさせる、様々な仕組みづくりをしている。
- ・教員体制としては主任と副主任という体制にし、主任が副主任を育てるというかたちで育成・引継ぎ等を行うようにしている。
- ・学校生活の中で、「無駄なこと」をどれだけできるかが重要なのではないかと考える。本当は「無駄なこと」はないが、その部分のことをどれだけできるか、ということが重要だと思う。教育は「一つのもの」だけではなく、「様々なもの」でできあがっていると認識している。
- ・このほか、「最後は自分できめる」「自分のことは自分でやる」ということを学ばせる機会を与えることを意識している。

⑤E校（地域：中国・四国、全校生徒数：400人～600人、進学率：7割以上）

- ・生徒の特徴として、素直な生徒が多く、正直なところ勉強がそこまで好きなわけではなく、また、「上昇志向」がそこまで高いわけではないという印象を持っている。
- ・学校では、「勉強だけに価値があるわけではない」ということを意識しており、例えば部活動も含め、様々なことに価値があると考え、できるだけ生徒を「ほめる」ようにしている。このようなことを通じて、どこかで自分の存在価値を示す機会を与えるということ、様々な価値観があるということに気づかせる、ということ意識している。
- ・このほか、ボランティア活動や文化祭の活動など、様々な教育活動に参加することも、人間性を高めることになっていると考えている。
- ・行事等の活動のなかでは、「縦割り」の機会を増やしている。先輩を見て、後輩の生徒が学ぶ、ということ意識的に行っている。
- ・特別活動も、部活動も、全てキャリア教育の一環であるとしてとらえている。キャリア教育は何かと考えたときに、学校内でそれまで単独で行っていた行事等についても、「キャリア教育」としてとらえなおすことができた。単なる受験学力の育成ではなく、総合的に考えていくことが重要なのではないかと思う。
- ・教員側の体制の特徴として、「キャリアミーティング」として、個々の生徒の進路や人生設計に関して、教員みんなが話し合う機会がある。
- ・教員側の姿勢としても、勉強だけではなく部活動等も重視し、様々なものを大切にするようにしている。そのスタンスを受け継いでいくことが大切であると考え、感覚的なノウハウを残すために、副担当制をとっている。

⑥ F校（地域：九州、全校生徒数：400人～600人、進学率：4割～7割）

- ・生徒の特徴として、大学等に進学する生徒もいるが、全体として競争意識が高いわけではなく、入学当初の進学意識も特段高いわけではないという印象を持っている。このことから、生徒に対しては、細かな進路指導をしている。体制として、学年や教科担当で、教員全員で進路のことを考えるようにしている。
- ・総合的な学習の時間では、調べ学習やグループワークを行っている。小論文やグループでの発表等も行っており、一方的な講義形式ではなくて、自分で調べて考えさせることを意識している。
- ・地域の活動に文化部が参加することもある。地域活動等で「頼られる存在になる」ことで、生徒の自信になってくることもある。がんばった結果が達成感につながる、ということを経験させる、小さなことの積み重ねが重要になると考えている。
- ・進路指導に関して、以前は模試の反省会として、偏差値を中心に考えていたが、今は「個人をみて検討する」、という傾向が強くなっている。進路に関する情報等は教員間で共有することにより、教科の先生も生徒のことについて多面的に考えることができるようになる、という効果もある。
- ・生徒と教員との間の面談は1年に4～5回ある。現代の子どもの特徴かもしれないが、「個別に伝える」ことが大切なのではないかと考えている。進路のことに限らないが、常に「声がけ」をして、生徒と教員との間でつながりを保てるかどうか重要である。
- ・教育の基本は「生徒にかかわる」ことであると考えている。「先生が自分の言葉で生徒に話しかけることができる」というだけでも、キャリア教育になっているのではないかと考える。生徒と教員が「一緒に考える」、ということが重要だと思う。
- ・このほか、教員同士で情報交換・会話が良くなされている雰囲気はある。力のある先生は一人でやりがちだが、組織で、チームで取り組んでいることが大切だと思う。

6. まとめ

以上、「基礎的・汎用的能力」など、生徒の能力や意欲・態度などについて、平成 24 年度より実施した計 6 回の質問紙調査から、その間に生徒にどのように変容が見られるのか、また、各学校におけるキャリア教育に関する取り組みの違いによって、変容の仕方に差異は見られるのか等について、分析を行った。また、ヒアリング調査を通じて、各学校でキャリア教育に関連する取り組みが具体的にどのように行われているのか、さらには、学校での実践と生徒の変容とがどのようにして結びついているのか等について、把握を試みた。

<1～2 年生の時期に見られる意欲や能力観に関する「揺らぎ」と、3 年生の時期の上昇>

質問紙調査のデータに基づく分析結果からは、生徒の意欲や能力に関する自己評価に関して、1 年生から 2 年生にかけてある種の「揺らぎ」を経験しているのではないかと考えられる動きを示した後、2 年生後半から 3 年生の時期にかけて、継続的に上昇する傾向にあるということを、多くの調査項目に関して見ることができた。

また、「基礎的・汎用的能力」に関して、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の 4 つの能力観については、それぞれ関連する 6 項目を足しあわせた合成指標により 3 年間の変化をみることで、生徒の変容の様相をより明瞭に示すことができた。

<キャリア教育に関する取り組み体制の充実度は主に 1～2 年生の時期の変化に影響>

各学校で実施されているキャリア教育に関連する取り組みとの関連性に着目した分析から、キャリア教育に関する目標設定や全体計画・年間指導計画の有無や教職員に対する研修実施等については、1 年生前半から 3 年生後半にかけてのトータルでの生徒の変容の度合いに対して、直接的な影響は大きくないことが明らかになった。

ただし、これら目標の設定や全体計画・指導計画の作成など、学校としてのキャリア教育に関する取り組み体制が整えられている場合には、1 年生から 2 年生にかけての「自己理解・自己管理能力」の低下の度合いが比較的小さいことなどが明らかになった。

<キャリアプラン等の作成やインターンシップへの参加等が基礎的・汎用的能力の変化に影響>

また、個別の取り組みと基礎的・汎用的能力に関する指標の伸びとの関係について分析した結果、「キャリアプラン等の作成」「オープンキャンパスへの参加」「インターンシップへの参加」等が、生徒の能力・意識を高めていく上で、より効果的な取り組みである可能性があることがわかった。ただし、それぞれ、高校生活の 3 年間で実施した時期により、生徒の変容の度合いは異なることも明らかになった。

なかでも、「インターンシップへの参加」は 3 年生での参加の場合に特にプラスの影響が大きいことがわかった。このほか、インターンシップの実施に関して、「事前の調べ学習」を実施している場合に、実施していない学校と比較して、「人間関係形成・社会形成能力」など、基礎的・汎用的能力の伸びがより大きいことも明らかになった。

このほか、学校の進学率別の分析では、相対的に進学率が高い学校の生徒と低い学校の生徒とでは異なる傾向が見られた。また、進学率が相対的に低い学校の生徒では、自身の能力等に対する自己評価が相対的に低く、3 年生の前半の段階でも進路希望を明確に持てない生徒が比較的多くなっていることも明らかになっており、生徒・学校の特性等をふまえて、実施すべき取り組みやその時期等を検討することが重要であることが示唆されている。

＜教職員間の連携など総合的に取り組むための体制作りも重要＞

生徒の変容が比較的大きかった6つの高校を対象にしたヒアリング調査からも、示唆に富む結果が得られた。これらの学校の特徴として、「生徒一人ひとりに対する丁寧な指導・対応」をしていること、「様々な活動を通じての成功体験、存在価値の実感や自信・自己肯定感の獲得」が意識されていること、「教職員間の連携・情報共有、引き継ぎ等に関する教員側の体制作り」がなされていること等を指摘することができる。なお、キャリア教育は様々なことの積み重ねにより、総合的に取り組まれることが重要であるとの見解も聞かれている。

ヒアリング対象の各校の取り組みは様々であるが、生徒は学校内外での様々な活動を通じて自信・自己肯定感を高めていると考えられ、また、そのことが、質問紙調査で把握された基礎的・汎用的能力の指標の伸びにつながっているのではないかと推察された。

＜キャリア教育に関する取り組みを「どのように実施するか」についての創意工夫が必要＞

本調査の結果、特に3年生の時期にインターンシップに参加した生徒で、基礎的・汎用的能力の伸びが大きかったことは、①普通科高校の生徒にとってもインターンシップの参加により得られるものは大きいこと、また、②実際に進路を選択する時期に近いタイミングでの参加がより効果的である可能性があること、等を示唆している。ヒアリング調査の対象とした学校からは、狭義の「勉強」だけでなく、学校内外の活動に積極的に取り組むことが重要であるとの話も聞かれた。インターンシップの参加は、高校生が自己理解や自己肯定感を高め、諸能力の高まりを認識できるようになる上で一定の効果があるものと考えられる。

また、「キャリアプラン等の作成」が生徒の基礎的・汎用的能力の変化にプラスの影響を及ぼしている可能性があることや、インターンシップに関して、「事前の調べ学習」を実施している場合にプラスの変化がより大きくなることから、生徒が何かを「体験する・参加する」だけでなく、生徒の視野を広げ、認識力を高めるための諸実践を併せて提供することが生徒の能力・意識の向上を図る上では重要であると言えよう。また、ヒアリング調査では、キャリア教育は様々なことの積み重ねにより、総合的に取り組むことが重要であるとの見解も聞かれた。キャリア教育の成果を高めるためには、インターンシップ等の実施の有無のみならず、実施のタイミングや、事前・事後指導を含めた系統的な実践の在り方など、「どのように実施するか」ということに関する各学校の創意工夫が重要だと考える。

平成24年度より平成26年度にかけて実施した本調査研究では、学校におけるキャリア教育に関連する取り組みが、高校生活3年間のなかでの生徒の基礎的・汎用的能力（「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）の伸びに影響を及ぼしていること、また、そのなかでどのような取り組みをしている学校で生徒の能力・意識の伸びが大きく見られるのかということの一端を明らかにすることができた。本調査研究の成果が、今後のキャリア教育のあり方、ひいては、高等学校段階における教育のあり方を検討する上での一助となれば幸いである。

<資料集>

(1) 調査票

① 生徒向け調査票

〈3年生前半調査：表面〉

d. ほかの人と一緒に何かをするときには、自分ができることは何かを考えて行動するようになっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. ほかの人と一緒に何かをするときには、周りの人と力を合わせてやることを意識している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
f. 必要ときには、自分の意見をはっきり言うことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
g. 自分にはよいところがあると思っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
h. 自分が何に興味や関心があるのかわかっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
i. 身の回りのことは、できるだけ自分でしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
j. 必要ときには、苦手なことにもがんばって取り組むようになっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
k. やるべきことがわかっているときには、ほかの人から指示される前に取り組むことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
l. 気持ちが高ぶっているときなどであっても、しなければならぬことにはきちんとして取り組むことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
m. わからないことがあったときには、自分からすすんで情報を集めることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
n. 何か問題がおきたときには、なぜそうなったかを考えるようにしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
o. 何か問題がおきたときには、どのようにしたらその問題が解決できるかを考えるようにしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
p. 何か問題がおきたときには、次に同じようなことがおきないように工夫をするようにしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

E. 学校生活や、普段感じていることについて、あてはまるものをそれぞれ一つ選んでマークしてください。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
a. 学校生活は充実している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 授業を熱心に受けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 学校行事に積極的に参加している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 授業や学校行事以外の学校の活動に積極的に取り組んでいる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 家での学習に積極的に取り組んでいる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
f. 学校での友人関係に満足している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
g. これからもっとたくさんこのことを学びたいと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
h. 学校での勉強は普段の生活を送るうえで役に立つと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
i. 学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
j. 学校での勉強は将来の生活を豊かにすると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
k. 自分の将来が楽しみだ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
F. 普段の生活（授業中や放課後、家庭での生活などの全般を含みます）の様子を振り返って、あてはまるものをそれぞれ一つ選んでマークしてください。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
a. 相手の気持ちを考えて語るようにしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 自分とほかの人が考え方を持つ人のことも受けてめようとしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 意見はわかりやすく伝えるように意識している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

■ 学校生活と将来展望に関する調査（文部科学省調査）

1. 記入はHB以上の黒鉛筆またはシャープペンシルで、該当するマーク欄（○の部分）を正確に塗りつぶしてください。
2. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
3. アンケート用紙を汚したり、折り曲げたりしないでください。
4. 回答結果について個人が特定される形で集計することはありません。また、テストではありませので思ったままを正直にお答えください。

学校番号※1	番
--------	---

※1「学校番号」は、先生から3桁の番号が示されますので、そちらを記入してください。

A. 性別	男性	女性	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
B. 現在、理系・文系等のコース別の授業を受けていますか(一つだけ)	理系	文系	その他のコースに分かれていない
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

C. 卒業後の進路志望(一つだけ)	進学	就職	進学・就職以外のことをしたい	具体的に考えたことがない
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	↓ D. へ			

D. 進学したい学校の種類(一つだけ)	大学	短期大学	専門学校(専修学校・各種学校)	決めていない
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	↓ E. 以降へ			

※裏面についてもご回答ください

〈3年生前半調査：裏面〉

☆2年生の時のクラス番号・出席番号

〈番号・記号記入欄〉		2年 組 番		
Lクラス番号・記号		M出席番号		
あてはまる番号・記号を一つマーク				
①	(11)	(A)	(K)	(0)
②	(12)	(B)	(L)	(1)
③	(13)	(C)	(M)	(2)
④	(14)	(D)	(N)	(3)
⑤	(15)	(E)	(O)	(4)
⑥	(16)	(F)	(P)	(5)
⑦	(17)	(G)	(Q)	(6)
⑧	(18)	(H)	(R)	(7)
⑨	(19)	(I)	(S)	(8)
⑩	(20)	(J)	(T)	(9)

H. あなたは、3年生になつてから、就業体験（インターンシップ）に参加しましたか（一つだけ）

4月～6月に参加した	7月～9月に参加予定	10月～12月に参加予定	1月～3月に参加予定	3年生では参加予定はなし
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

「参加した」方は下の1.以降へ
 「参加予定」「参加する予定はない」方はJ.以降へ

I. 上記H.で「参加した」と回答した方にお聞きします。3年生の時、何日間就業体験（インターンシップ）に参加しましたか（一つだけ）

1日	2日	3日	4日	5日	6日以上
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

※以下のJからOでは、あなたの1年生から3年生までのクラス番号・出席番号について回答してください。
 ※クラス番号・出席番号は、過去のアンケートの回答と今回の回答との変化を把握するためにお聞きします。間違いないように回答してください。
 ※クラス番号・出席番号は、まず<番号・記号記入欄>に回答したうえで、対応する番号・記号にマークするようにしてください。
 ※「出席番号」が1桁の場合には、「十の位」は①をマークしてください。
 （例：出席番号が2番の場合は「02」と考え、「十の位」は①、「一の位」は②をマークしてください）

☆現在（3年生）のクラス番号・出席番号

〈番号・記号記入欄〉		3年 組 番		
Jクラス番号・記号		K出席番号		
あてはまる番号・記号を一つマーク				
①	(11)	(A)	(K)	(0)
②	(12)	(B)	(L)	(1)
③	(13)	(C)	(M)	(2)
④	(14)	(D)	(N)	(3)
⑤	(15)	(E)	(O)	(4)
⑥	(16)	(F)	(P)	(5)
⑦	(17)	(G)	(Q)	(6)
⑧	(18)	(H)	(R)	(7)
⑨	(19)	(I)	(S)	(8)
⑩	(20)	(J)	(T)	(9)

表面F.の続き	あてはまる	あまりはない	あまりはない
q. 何かに取り組むときには、計画を立てて取り組むようにしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
r. 何かに取り組むときには、進め方や考え方がまちがっていないか、ふり返って考えるようにしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
s. 勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
t. 仕事をすることの意味について自分なりの考えを持っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
u. 世の中には、さまざまな働き方や生き方があることを理解している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
v. 職業や働き方を選ぶ際に、どのような情報を調べればよいかわかっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
w. 将来の夢や目標が具体的にになっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
x. 将来の夢や目標に向かって努力している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

g. 将来の仕事について、自分の考えに最も近いものをそれぞれ一つ選んでマークしてください。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
a. 自分の能力をいかせる仕事をした	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 人の役に立つ仕事をした	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 責任を伴う仕事はできるだけ避けたい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 努力や訓練が必要な仕事はやりたくない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

■ 学校生活と将来展望に関する調査（文部科学省調査）

1. 記入はHB以上の黒鉛筆またはシャープペンシルで、該当するマーク欄（○の部分）を正確に塗りつぶしてください。
2. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
3. アンケート用紙を汚したり、折り曲げたりしないでください。
4. 回答結果について個人が特定される形で集計することはありません。また、テストではありませので思ったままを正直にお答えください。

学校番号※1	番
--------	---

※1「学校番号」は、先生から3桁の番号が示されますので、そちらを記入してください。

A. 性別	男性	女性
	○	○

B. 学校生活や、普段感じていることについて、あてはまるものをそれぞれ一つ選んでマークしてください。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
a. 学校生活は充実している	○	○	○	○
b. 授業を熱心に受けている	○	○	○	○
c. 学校行事に積極的に参加している	○	○	○	○
d. 授業や学校行事以外の学校での活動に積極的に取り組んでいる	○	○	○	○
e. 家での学習に積極的に取り組んでいる	○	○	○	○

B. 続き	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
f. 学校での友人関係に満足している	○	○	○	○
g. これからもっとたくさんのごとを学びたいと思う	○	○	○	○
h. 学校での勉強は普段の生活を送るうえで役に立つと思う	○	○	○	○
i. 学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げられると思う	○	○	○	○
j. 学校での勉強は将来の生活を豊かにすると思う	○	○	○	○
k. 自分の将来が楽しみだ	○	○	○	○

C. 普段の生活（授業中や放課後、家庭での生活などの全般を含みます）の様子を振り返って、あてはまるものをそれぞれ一つ選んでマークしてください。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
a. 相手の気持ちを考えて話をするようにしている	○	○	○	○
b. 自分とはちがう考え方を持つ人のことも受けとめようとしている	○	○	○	○
c. 意見はわかりやすく伝えるように意識している	○	○	○	○
d. ほかの人と一緒に何かをするときには、自分ができるところには何かを考えて行動するようにしている	○	○	○	○
e. ほかの人と一緒に何かをするときには、周りの人と力を合わせるということを意識している	○	○	○	○

C. 続き	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
f. 必要なときには、自分の意見をはっきり言うことができる	○	○	○	○
g. 自分にはよいところがあると思っている	○	○	○	○
h. 自分が何に興味や関心があるのかわかっている	○	○	○	○
i. 身の回りのことは、できるだけ自分でしている	○	○	○	○
j. 必要なときには、苦手なことにもがんばって取り組むようにしている	○	○	○	○
k. やるべきことがわかっているときには、ほかの人から指示される前に取り組むことができる	○	○	○	○
l. 気持ちが沈んでいるときなどであっても、しなければならぬことはきちんとして取り組むことができる	○	○	○	○
m. わからないことがあったときには、自分からすすんで情報を集めることができる	○	○	○	○
n. 何か問題がおきたときには、なぜそうなったかを考えるようにしている	○	○	○	○
o. 何か問題がおきたときには、どのようにしたらその問題を解決できるかを考えるようにしている	○	○	○	○
p. 何か問題がおきたときには、次に同じようなことがおきないように工夫をするようにしている	○	○	○	○
q. 何かに取り組むときには、計画を立てて取り組むようにしている	○	○	○	○

※裏面についてもご回答ください

3年生後半調査：裏面

J. 進路が既に決まっている方について

卒業後の進路について、あてはまるもの一つを選んでマークしてください。	短期大学に進学する	専門学校(専修学校・各種学校)に進学する	進学・就職以外のことをする
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

K. 現在(3年生)のクラス番号・出席番号

※クラス番号・出席番号は、まずく番号・記号記入欄>に回答したうえで、対応する番号・記号にマークするようにしてください。

※「出席番号」が1桁の場合は、「十の位」は⑩をマークしてください。(例：出席番号が2番の場合は「02」と考え、「十の位」は⑩、「一の位」は②をマークしてください)

クラス番号	出席番号
①	⑩
②	⑨
③	⑧
④	⑦
⑤	⑥
⑥	⑤
⑦	④
⑧	③
⑨	②
⑩	①

<番号・記号記入欄>

3年組番	
クラス番号・記号	出席番号
あてはまる番号・記号を一つマーク	十の位
① (A)	⑩ (K)
② (B)	⑨ (L)
③ (C)	⑧ (M)
④ (D)	⑦ (N)
⑤ (E)	⑥ (O)
⑥ (F)	⑤ (P)
⑦ (G)	④ (Q)
⑧ (H)	③ (R)
⑨ (I)	② (S)
⑩ (J)	① (T)

E. あなたは、3年生になつてから、就業体験(インターンシップ)に参加しましたか(一つだけ)

4月~6月に参加した	7月~9月に参加した	10月~12月に参加した(参加予定)	1月~3月に参加予定(参加しない)	3年生では参加しない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

F. 上記Eで「参加した」と回答した方にお聞きします。3年生の時、何日間就業体験(インターンシップ)に参加しましたか(一つだけ)

1日	2日	3日	4日	5日	6日以上
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

次のG.以降へ

G. 卒業後の進路は決まっていますか。就職試験や上級学校の入学試験等に合格するなど、既に具体的な進路が決まっている場合には「既に決まっている」を、これから試験を受けるなどの場合には「まだ決まっていない」をマークしてください。

まだ決まっていない	既に決まっている
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

H. 進路がまだ決まっていない方について

卒業後の進路希望について、あてはまるもの一つを選んでマークしてください。

進学したい	就職したい	進学・就職以外のことをしたい	決めています	具体的に考えたことがない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

I. 進学したい学校の種類(一つだけ)

大学	短期大学	専門学校(専修学校・各種学校)	決めていない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

表面Qの続き

r. 何かに取り組むときには、進め方や考え方がまちがっていないか、ふり返って考えるようにしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
s. 勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
t. 仕事をするごとの意味について自分なりの考えを持っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
u. 世の中には、さまざまなき方や生き方がいることを理解している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
v. 職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっていく	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
w. 将来の夢や目標が具体的にになっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
x. 将来の夢や目標に向かって努力している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

D. 将来の仕事について、自分の考えに最も近いものをそれぞれ一つ選んでマークしてください。

a. 自分の能力をいかせる仕事が好き	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 人の役に立つ仕事が好き	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 責任を伴う仕事はできるだけ選きたい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 努力や訓練が必要な仕事はやりたくない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

②学校向け調査票

キャリア教育の取り組み・推進状況に関する調査

<お願い>

※それぞれの質問について、貴校の全日制普通科に関して、あてはまる回答を選択肢から選び、番号に○を付けてください。

※「学校名」は、当方において本調査のご回答状況の把握を目的として記入していただくものです。また、「ご記入者」の情報に関しましては、ご回答いただいた内容に関し、不明な点等があった場合の当方からの問い合わせの際に使用させていただくことを想定しております。学校名やご記入者を特定した形で回答結果を公表することはいたしません。

※回答結果によって、貴校が実施しているキャリア教育の取り組み・推進の状況に関し個別に評価を行うことや、具体的な改善を求めるといったことは一切ございませんので、貴校の現状についてありのままをお答えください。

※なお、調査は学校全体に関する状況をたずねる質問と、主に貴校の3年生に関する取り組みの状況をたずねる質問とがあります。主に3年生に関することをたずねる質問には、質問文の冒頭にその旨記載してありますので、確認の上ご回答ください。

学校名 : _____

ご記入者: 役職 _____ / お名前 _____

1) 貴校では、キャリア教育の目標（キャリア教育を通じて身につけさせたい力や、目指す生徒像）を定めていますか。（あてはまるものひとつに○）

1. キャリア教育の目標を設定している ⇒1-1)へ
2. キャリア教育の目標を設定していない ⇒2)へ

1-1) 上記において「1. キャリア教育の目標を設定している」を選んだ場合、どのような形で目標設定をしていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 学校全体の目標を設定している
2. 各学年の目標を設定している
3. 学校全体で身に付けさせたい能力や態度（基礎的・汎用的能力との関係など）を設定している
4. 各学年で身に付けさせたい能力や態度（基礎的・汎用的能力との関係など）を設定している
5. 上記以外の点について目標設定をしている

⇒2)へ

2) 貴校では、キャリア教育の全体計画を作成していますか。（あてはまるものひとつに○）

1. キャリア教育の全体計画を作成している
2. キャリア教育の全体計画を作成していない

⇒3)へ

3) 貴校では、キャリア教育の年間指導計画を作成していますか。（あてはまるものひとつに○）

1. キャリア教育の年間指導計画を作成している
2. キャリア教育の年間指導計画を作成していない

⇒4)へ

4) 貴校では、3年生を対象にして、学校設定教科・科目として、キャリア教育に関する科目（「産業社会と人間」や「キャリアデザイン」など、名称は問いません）を設定していますか。（あてはまるものひとつに○）

1. 3年生を対象に、キャリア教育に関する科目を設定している
2. キャリア教育に関する科目を設定しているが、3年生対象ではない
3. キャリア教育に関する科目は設定していない

⇒5)へ

5) 平成 26 年度におけるキャリア教育推進のための校内体制の状況についてお教えてください。(あてはまるものひとつに○)

- | |
|------------------------------------------------------------------------------|
| 1. キャリア教育推進に特化して設置した「キャリア教育推進部」等を校務分掌上に位置づけている |
| 2. 上記選択肢 1 以外の進路指導部、生徒指導部等などの分掌がキャリア教育を担当している |
| 3. 分掌としての組織はないが、キャリア教育推進のための委員会等を組織している
(例：副校長、教頭、学年主任、関係分掌主任等で構成される委員会等) |
| 4. 分掌、委員会等の組織はないが、特定のポストに就いたものが主に担当している |
| 5. 分掌、委員会等の組織はないが、特定の個人が担当している |
| 6. キャリア教育推進のための特段の体制をとっていない |
| 7. その他(具体的に：) |

⇒1. ～5. は5-1)へ、6. ～7. は6)へ

5-1) 上記において1. ～5. を選んだ場合、その担当者(本務者)の人数についてお教えてください。(あてはまるものひとつに○)

- | | | |
|-------|-------|---------|
| 1. 1人 | 2. 2人 | 3. 3人 |
| 4. 4人 | 5. 5人 | 6. 6人以上 |

⇒6)へ

6) 貴校では今年度、キャリア教育について、教職員を対象とした校内研修会を実施しましたか。(あてはまるものひとつに○)

- | |
|----------------------------|
| 1. 実施した(今年度中の実施予定も含む) |
| 2. 実施していない(今年度中に実施する予定はない) |

⇒7)へ

7) 貴校では、キャリア教育(特に就業体験(インターンシップ)等の体験的な活動)を円滑に進めるために、協議会を組織する等、学校外の諸機関と連携した組織を設置していますか。(あてはまるものひとつに○)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 設置している(平成 26 年度以前に設置し現存している場合を含む) |
| 2. 今年度中に設置予定である |
| 3. 以前は設置していた時期があったが現在は設置していない |
| 4. 設置していない |

⇒8)へ

8) 貴校では、3 年生に関し、何単位を「総合的な学習の時間」にあてていますか。(あてはまるものひとつに○)

- | | | | |
|---------|---------|---------|-----------|
| 1. 0 単位 | 2. 1 単位 | 3. 2 単位 | 4. 3 単位以上 |
|---------|---------|---------|-----------|

⇒9)へ

9) 貴校では、3 年生に関し、「総合的な学習の時間」で、自己の在り方・生き方を考えさせる等、キャリア教育に関する内容に年間どれくらい時間をあてていますか。(あてはまるものひとつに○)

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 0 時間 | 2. 1～10 時間 | 3. 11～20 時間 |
| 4. 21～30 時間 | 5. 31～40 時間 | 6. 41～50 時間 |
| 7. 51～60 時間 | 8. 61～70 時間 | 9. 71 時間以上 |

⇒10)へ

10) 貴校では、3 年生に関し、「ホームルーム活動(ロングホームルーム)」で、自己の在り方・生き方を考えさせる等、キャリア教育に関する内容に年間どれくらい時間をあてていますか。(あてはまるものひとつに○)

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 0 時間 | 2. 1～5 時間 | 3. 6～10 時間 |
| 4. 11～15 時間 | 5. 16～20 時間 | 6. 21～25 時間 |
| 7. 26～30 時間 | 8. 31 時間以上 | |

⇒11)へ

11) 貴校では、3年生を対象にして以下のような取り組みを実施していますか。(a~gのそれぞれにつき、あてはまるものひとつに○)

a) キャリアプラン等の作成	1. 3年生を対象に実施している(今年度すでに実施済み) 2. 3年生を対象に実施している(今年度中に実施予定) 3. 実施しているが、3年生対象ではない 4. 実施していない
----------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

b) キャリア・ポートフォリオの作成・活用 ※「キャリア・ポートフォリオ」とは、「生徒のキャリア発達を促すことにつながるさまざまな学習経験や活動の記録、特技・資格・免許などの一覧をファイリングしてまとめたもの」を意味し、振り返りや評価に役立てることが期待されています。	1. 3年生を対象に実施している(今年度すでに実施済み) 2. 3年生を対象に実施している(今年度中に実施予定) 3. 実施しているが、3年生対象ではない 4. 実施していない
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

c) 上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会	1. 3年生を対象に実施している(今年度すでに実施済み) 2. 3年生を対象に実施している(今年度中に実施予定) 3. 実施しているが、3年生対象ではない 4. 実施していない
-----------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

c-1) 上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会について、「実施していない」以外の選択肢1~3を選択した場合におたずねします。出張授業や講演会に関連して、貴校ではどのようなことを実施していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. マナー指導(礼儀作法や挨拶の方法の指導等) 3. 出張授業や講演会の目的を確認するための指導 5. 報告書・レポートの作成 7. 出張授業や講演会に関する内容での個人面談・個人指導 9. その他の事前・事後指導(具体的に： 10. 上記のようなことは特に実施していない	2. 出張授業や講演会の内容に関する事前の調べ学習 4. 講師や登壇者に対するお礼状の作成 6. 出張授業や講演会に関連した成果発表会等の実施 8. 出張授業や講演会と教科の学習内容を結びつけた指導
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

d) 卒業生(大学生や若手社会人など)による講演・体験発表会・懇談会	1. 3年生を対象に実施している(今年度すでに実施済み) 2. 3年生を対象に実施している(今年度中に実施予定) 3. 実施しているが、3年生対象ではない 4. 実施していない
------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

e) 上級学校のオープンキャンパス等への参加	1. 3年生を対象に実施している(今年度すでに実施済み) 2. 3年生を対象に実施している(今年度中に実施予定) 3. 実施しているが、3年生対象ではない 4. 実施していない
------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

f) 職場見学・ジョブシャドウイング ※「ジョブシャドウイング」とは、「生徒が職場で働く社会人に“影”のように付き従い、仕事の様子を観察する」といった方法のことを意味します。	1. 3年生を対象に実施している(今年度すでに実施済み) 2. 3年生を対象に実施している(今年度中に実施予定) 3. 実施しているが、3年生対象ではない 4. 実施していない
--------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

f-1) 職場見学・ジョブシャドウイングについて、「実施していない」以外の選択肢1～3を選択した場合におたずねします。職場見学・ジョブシャドウイングに関連して、貴校ではどのようなことを実施していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. マナー指導（礼儀作法や挨拶の方法の指導等）	2. 見学・訪問の内容に関する事前の調べ学習
3. 見学・訪問の目的を確認するための指導	4. 見学・訪問先に対するお礼状の作成
5. 報告書・レポートの作成	6. 見学・訪問に関連した成果発表会等の実施
7. 見学・訪問に関する内容での個人面談・個人指導	8. 見学・訪問と教科の学習内容とを結びつけた指導
9. その他の事前・事後指導（具体的に：_____）	
10. 上記のようなことは特に実施していない	

g) 就業体験（インターンシップ）	1. 3年生を対象に実施している（今年度すでに実施済み） 2. 3年生を対象に実施している（今年度中に実施予定） 3. 実施しているが、3年生対象ではない 4. 実施していない
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

g-1) 就業体験（インターンシップ）について、「実施していない」以外の選択肢1～3を選択した場合におたずねします。就業体験（インターンシップ）に関連して、貴校ではどのようなことを実施していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. マナー指導（礼儀作法や挨拶の方法の指導等）	2. 就業体験の内容に関する事前の調べ学習
3. 就業体験の目的を確認するための指導	4. 訪問・受け入れ先に対するお礼状の作成
5. 報告書・レポートの作成	6. 就業体験に関連した成果発表会等の実施
7. 就業体験に関する内容での個人面談・個人指導	8. 就業体験と教科の学習内容とを結びつけた指導
9. その他の事前・事後指導（具体的に：_____）	
10. 上記のようなことは特に実施していない	

《以下のg-2)～g-4)については、上記の「g)就業体験（インターンシップ）」の実施の状況について、選択肢1または2の「3年生を対象に実施している」を選択した場合におたずねします》

g-2) 3年生を対象に実施する「就業体験（インターンシップ）」にあてている期間（事前・事後指導は含まない）は、どれくらいですか。3年生対象の就業体験（インターンシップ）に関し複数のプログラムがある場合には、貴校で標準的に実施されているものに関してお答えください。(あてはまるものひとつに○)

1. 1日	2. 2日	3. 3日	4. 4日	5. 5日	6. 6日以上
-------	-------	-------	-------	-------	---------

g-3) 3年生を対象に実施する「就業体験（インターンシップ）」には、どのような生徒が参加していますか。(あてはまるものひとつに○)

1. 3年生全員が参加している
2. 生徒の進路希望に基づき、3年生のうち一部の者が参加している
3. 生徒の就業体験希望の有無に基づき、3年生のうち一部の者が参加している
4. 上記以外の方法に基づき、3年生のうち一部の者が参加している

g-4) 上記で「3年生全員が参加している」以外の、選択肢2～4を選択した場合におたずねします。3年生を対象に実施する「就業体験（インターンシップ）」には、3年生全体のうちどの程度の生徒が参加していますか。(あてはまるものひとつに○)

1. 1割未満	2. 1～3割程度	3. 3～5割程度
4. 5～7割程度	5. 7～9割程度	6. 9割以上

ご協力ありがとうございました
生徒向けの調査票（「学校生活と将来展望に関する調査」）とともにご返送ください

相手の気持ちを考えて話をするようにしている

Table with 6 main categories (Overall, 1st Half, 2nd Half, 3rd Half, 4th Half, Total) and 3 sub-categories (Count, %, Effective %). Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

自分とはちがう考え方を持つ人のことも受けとめようとしている

Table with 6 main categories and 3 sub-categories. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

意見はわかりやすく伝えるように意識している

Table with 6 main categories and 3 sub-categories. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

ほかの人と一緒に何かをするときには、自分ができるときは何かを考えて行動するようにしている

Table with 6 main categories and 3 sub-categories. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

ほかの人と一緒に何かをするときには、周りの人と力を合わせるということを意識している

Table with 6 main categories and 3 sub-categories. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

必要なときには、自分の意見をはっきり言うことができる

Table with 6 main categories and 3 sub-categories. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

自分にはよいところがあると思っている

Table with 6 main categories and 3 sub-categories. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

自分が何に興味や関心があるのかわかっている

Table with 6 main categories and 3 sub-categories. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

身の回りのことは、できるだけ自分でしている

Table with 6 main categories and 3 sub-categories. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

必要なときは、苦手なことにもがんばって取り組むようにしている

Table with 7 main columns for categories (1年生前半, 1年後半, 2年前半, 2年後半, 3年前半, 3年後半) and 3 sub-columns for counts, percentages, and effectiveness. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判断不能', and '合計'.

やるべきことがわかっているときには、ほかの人から指示される前に取り組むことができる

Table with 7 main columns for categories and 3 sub-columns for counts, percentages, and effectiveness. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判断不能', and '合計'.

気持ちが沈んでいるときなどであっても、しなければならぬことにはきちんと取り組むことができる

Table with 7 main columns for categories and 3 sub-columns for counts, percentages, and effectiveness. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判断不能', and '合計'.

わからないことがあったときには、自分からすすんで情報を集めることができる

Table with 7 main columns for categories and 3 sub-columns for counts, percentages, and effectiveness. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判断不能', and '合計'.

何か問題がおきたときには、なぜそうなったかを考えるようにしている

Table with 7 main columns for categories and 3 sub-columns for counts, percentages, and effectiveness. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判断不能', and '合計'.

何か問題がおきたときには、どのようにしたらその問題を解決できるかを考えるようにしている

Table with 7 main columns for categories and 3 sub-columns for counts, percentages, and effectiveness. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判断不能', and '合計'.

何か問題がおきたときには、次に同じようなことがおきないように工夫をするようにしている

Table with 7 main columns for categories and 3 sub-columns for counts, percentages, and effectiveness. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判断不能', and '合計'.

何かに取り組むときには、計画を立てて取り組むようにしている

Table with 7 main columns for categories and 3 sub-columns for counts, percentages, and effectiveness. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判断不能', and '合計'.

何かに取り組むときには、進め方や考え方がまちがっていないか、ふり返って考えるようにしている

Table with 7 main columns for categories and 3 sub-columns for counts, percentages, and effectiveness. Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判断不能', and '合計'.

勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている

Table with 6 main categories (全体) and 18 sub-columns (度数, %, 有効%). Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

仕事をすることの意味について自分なりの考えを持っている

Table with 6 main categories (全体) and 18 sub-columns (度数, %, 有効%). Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

世の中には、さまざまな働き方や生き方があることを理解している

Table with 6 main categories (全体) and 18 sub-columns (度数, %, 有効%). Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかった

Table with 6 main categories (全体) and 18 sub-columns (度数, %, 有効%). Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

将来の夢や目標が具体的になっている

Table with 6 main categories (全体) and 18 sub-columns (度数, %, 有効%). Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

将来の夢や目標に向かって努力している

Table with 6 main categories (全体) and 18 sub-columns (度数, %, 有効%). Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

自分の能力をいかせる仕事がしたい

Table with 6 main categories (全体) and 18 sub-columns (度数, %, 有効%). Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

人の役に立つ仕事がしたい

Table with 6 main categories (全体) and 18 sub-columns (度数, %, 有効%). Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

責任を伴う仕事はできるだけ避けたい

Table with 6 main categories (全体) and 18 sub-columns (度数, %, 有効%). Rows include 'あてはまらない', 'あまりあてはまらない', 'ややあてはまる', 'あてはまる', '無回答', '判別不能', and '合計'.

努力や訓練が必要な仕事はやりたくない

	全体（1年生前半）			全体（1年生後半）			全体（2年生前半）			全体（2年生後半）			全体（3年生前半）			全体（3年生後半）		
	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%
あてはまらない	11349	25.3	25.5	10645	23.9	24.1	9613	22.1	22.3	10174	23.4	23.5	9964	23.2	23.3	10696	25.5	25.5
あまりあてはまらない	20714	46.1	46.6	21388	48.0	48.4	21011	48.4	48.7	20319	46.7	46.9	20127	46.9	47.0	17844	42.5	42.6
ややあてはまる	9731	21.7	21.9	9517	21.4	21.6	9807	22.6	22.7	10044	23.1	23.2	9773	22.8	22.8	9633	22.9	23.0
あてはまる	2628	5.9	5.9	2597	5.8	5.9	2680	6.2	6.2	2800	6.4	6.5	2925	6.8	6.8	3763	9.0	9.0
無回答	488	1.1	-	365	0.8	-	328	0.8	-	190	0.4	-	146	0.3	-	83	0.2	-
判別不能	2	0.0	-	3	0.0	-	5	0.0	-	2	0.0	-	2	0.0	-	3	0.0	-
合計	44912	100.0	100.0	44515	100.0	100.0	43444	100.0	100.0	43529	100.0	100.0	42937	100.0	100.0	42022	100.0	100.0

1年生時の就業体験の参加の有無

	全体（1年生前半）			全体（1年生後半）			全体（2年生前半）			全体（2年生後半）			全体（3年生前半）			全体（3年生後半）		
	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%
4月～6月に参加した							138	0.3	0.3									
7月～9月に参加した							2015	4.6	4.7									
10月～12月に参加した							3159	7.3	7.4									
1月～3月に参加した							787	1.8	1.9									
参加していない							36395	83.8	85.6									
無回答							940	2.2	-									
判別不能							10	0.0	-									
合計							43444	100.0	100.0									

1年生の時の就業体験の参加日数

	全体（1年生前半）			全体（1年生後半）			全体（2年生前半）			全体（2年生後半）			全体（3年生前半）			全体（3年生後半）		
	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%
1日							2400	5.5	39.8									
2日							1160	2.7	19.2									
3日							2347	5.4	38.9									
4日							61	0.1	1.0									
5日							46	0.1	0.8									
6日以上							21	0.0	0.3									
無回答							63	0.1	-									
判別不能							1	0.0	-									
非該当							37345	86.0	-									
合計							43444	100.0	100.0									

2年生時の就業体験の参加の有無

	全体（1年生前半）			全体（1年生後半）			全体（2年生前半）			全体（2年生後半）			全体（3年生前半）			全体（3年生後半）		
	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%
4月～6月に参加した							854	2.0	2.1	731	1.7	1.8						
7月～9月に参加した（参加予定）							4005	9.2	9.7	3922	9.0	9.4						
10月～12月に参加した（参加予定）							2185	5.0	5.3	2499	5.7	6.0						
1月～3月に参加予定							392	0.9	1.0	774	1.8	1.9						
2年生では参加する予定はない							33758	77.7	81.9	33689	77.4	81.0						
無回答							2240	5.2	-	1912	4.4	-						
判別不能							10	0.0	-	2	0.0	-						
合計							43444	100.0	100.0	43529	100.0	100.0						

2年生の時の就業体験の参加日数

	全体（1年生前半）			全体（1年生後半）			全体（2年生前半）			全体（2年生後半）			全体（3年生前半）			全体（3年生後半）		
	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%
1日							649	1.5	21.6	1697	3.9	24.8						
2日							697	1.6	23.2	1607	3.7	23.5						
3日							1328	3.1	44.1	2788	6.4	40.7						
4日							177	0.4	5.9	354	0.8	5.2						
5日							108	0.2	3.6	300	0.7	4.4						
6日以上							49	0.1	1.6	96	0.2	1.4						
無回答							1850	4.3	-	311	0.7	-						
判別不能							1	0.0	-	0	0.0	-						
非該当							38585	88.8	-	36376	83.6	-						
合計							43444	100.0	100.0	43529	100.0	100.0						

3年生時の就業体験の参加の有無

	全体（1年生前半）			全体（1年生後半）			全体（2年生前半）			全体（2年生後半）			全体（3年生前半）			全体（3年生後半）		
	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%
4月～6月に参加した													817	1.9	2.0	460	1.1	1.2
7月～9月に参加した（参加予定）													2065	4.8	5.0	1438	3.4	3.6
10月～12月に参加した（参加予定）													110	0.3	0.3	143	0.3	0.4
1月～3月に参加予定													29	0.1	0.1	52	0.1	0.1
3年生では参加する予定はない													37943	88.4	92.6	37642	89.6	94.7
無回答													1945	4.5	-	2286	5.4	-
判別不能													28	0.1	-	1	0.0	-
合計													42937	100.0	100.0	42022	100.0	100.0

3年生の時の就業体験の参加日数

	全体（1年生前半）			全体（1年生後半）			全体（2年生前半）			全体（2年生後半）			全体（3年生前半）			全体（3年生後半）		
	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%	度数	%	有効%
1日													525	1.2	66.4	1149	2.7	58.0
2日													67	0.2	8.5	338	0.8	17.1
3日													155	0.4	19.6	331	0.8	16.7
4日													20	0.0	2.5	44	0.1	2.2
5日													4	0.0	0.5	47	0.1	2.4
6日以上													20	0.0	2.5	71	0.2	3.6
無回答													26	0.1	-	61	0.1	-
判別不能													0	0.0	-	0	0.0	-
非該当													42120	98.1	-	39981	95.1	-
合計													42937	100.0	100.0	42022	100.0	100.0

(3) 学校向け調査集計表

※「無回答」は、該当する設問の箇所が空欄だったもの、「判別不能」は、複数の回答があったものである。
 ※調査項目について、その回の調査ではたずねていないものについては、網掛けをして示した。

キャリア教育の目標を定めていますか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
キャリア教育の目標を設定している	185	85.3	184	84.8	186	85.7
キャリア教育の目標を設定していない	32	14.7	33	15.2	31	14.3
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

どのような形で目標設定していますか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
学校全体の目標を設定している			146	79.3	156	83.9
各学年の目標を設定している			118	64.1	109	58.6
学校全体で身に付けさせたい能力や態度（基礎的・汎用的能力との関係など）を設定している			101	54.9	94	50.5
各学年で身に付けさせたい能力や態度（基礎的・汎用的能力との関係など）を設定している			71	38.6	73	39.2
上記以外の点について目標設定をしている			4	2.2	8	4.3
合計			184	—	186	—

キャリア教育の全体計画を作成していますか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
キャリア教育の全体計画を作成している	168	77.4	155	71.4	166	76.5
キャリア教育の全体計画を作成していない	49	22.6	61	28.1	50	23.0
無回答	0	0.0	1	0.5	1	0.5
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

キャリア教育の年間指導計画を作成していますか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
キャリア教育の年間指導計画を作成している	159	73.3	155	71.4	157	72.4
キャリア教育の年間指導計画を作成していない	57	26.3	62	28.6	60	27.6
無回答	1	0.5	0	0.0	0	0.0
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

《調査対象学年》を対象にして、学校設定教科・科目として、キャリア教育に関する科目を設定していますか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
《調査対象学年》を対象に、キャリア教育に関する科目を設定している	29	13.4	23	10.6	23	10.6
キャリア教育に関する科目を設定しているが、《調査対象学年》対象ではない	9	4.1	6	2.8	10	4.6
キャリア教育に関する科目は設定していない	179	82.5	187	86.2	184	84.8
無回答	0	0.0	1	0.5	0	0.0
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

《調査対象年度》におけるキャリア教育推進のための校内体制の状況についてお教えてください

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
キャリア教育推進に特化して設置した「キャリア教育推進部」等を校務分掌上に位置づけている	14	6.5	14	6.5	14	6.5
上記選択肢1以外の進路指導部、生徒指導部等などの分掌がキャリア教育を担当している	124	57.1	120	55.3	131	60.4
分掌としての組織はないが、キャリア教育推進のための委員会等を組織している	28	12.9	38	17.5	32	14.7
分掌、委員会等の組織はないが、特定のポストに就いたものが主に担当している	22	10.1	15	6.9	19	8.8
分掌、委員会等の組織はないが、特定の個人が担当している	4	1.8	5	2.3	4	1.8
キャリア教育推進のための特設の体制をとっていない	16	7.4	16	7.4	14	6.5
その他	9	4.1	9	4.1	1	0.5
無回答	0	0.0	0	0.0	2	0.9
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

担当者（本務者）の人数についてお教えてください

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
1人	23	12.0	28	14.6	33	16.5
2人	25	13.0	27	14.1	23	11.5
3人	19	9.9	23	12.0	21	10.5
4人	20	10.4	20	10.4	23	11.5
5人	17	8.9	21	10.9	8	4.0
6人以上	85	44.3	72	37.5	91	45.5
無回答	3	1.6	1	0.5	1	0.5
合計	192	100.0	192	100.0	200	100.0

キャリア教育について教職員を対象とした校内研修会を実施しましたか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
昨年度・今年度ともに実施した(今年度中の実施予定も含む)			56	25.8		
昨年度は実施していないが、今年度は実施した(今年度中の実施予定も含む)			17	7.8		
昨年度は実施したが、今年度は実施していない(今年度中に実施する予定はない)			11	5.1		
昨年度・今年度ともに実施していない(今年度中に実施する予定はない)			132	60.8		
無回答			1	0.5		
合計			217	100.0		

キャリア教育について教職員を対象とした校内研修会を実施しましたか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
実施した(今年度中の実施予定も含む)					55	25.3
実施していない(今年度中に実施する予定はない)					159	73.3
無回答					3	1.4
合計					217	100.0

キャリア教育を円滑に進めるために、協働会を組織する等、学校外の諸機関と連携した組織を設置していますか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
設置している(《調査対象年度》以前に設置し現存している場合も含む)			39	18.0	42	19.4
今年度中に設置予定である			2	0.9	0	0.0
以前は設置していた時期があったが現在は設置していない			0	0.0	3	1.4
設置していない			175	80.6	171	78.8
無回答			1	0.5	1	0.5
合計			217	100.0	217	100.0

《調査対象学年》に関し、何単位を「総合的な学習の時間」にあてていますか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
0単位	12	5.5	12	5.5	11	5.1
1単位	190	87.6	192	88.5	186	85.7
2単位	7	3.2	13	6.0	16	7.4
3単位以上	6	2.8	0	0.0	3	1.4
無回答	2	0.9	0	0.0	1	0.5
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

《調査対象学年》に関し、「総合的な学習の時間」で、キャリア教育に関する内容に年間どれくらい時間をあてていますか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
0時間	20	9.2	19	8.8	22	10.1
1～10時間	61	28.1	72	33.2	92	42.4
11～20時間	48	22.1	46	21.2	47	21.7
21～30時間	46	21.2	36	16.6	31	14.3
31～40時間	35	16.1	35	16.1	17	7.8
41～50時間	3	1.4	3	1.4	0	0.0
51～60時間	1	0.5	1	0.5	1	0.5
61～70時間	1	0.5	2	0.9	1	0.5
71時間以上	0	0.0	2	0.9	0	0.0
無回答	2	0.9	1	0.5	6	2.8
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

《調査対象学年》に関し、「ホームルーム活動(ロングホームルーム)」で、キャリア教育に関する内容に年間どれくらい時間をあてていますか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
0時間	13	6.0	10	4.6	11	5.1
1～5時間	88	40.6	95	43.8	112	51.6
6～10時間	68	31.3	64	29.5	53	24.4
11～15時間	31	14.3	27	12.4	28	12.9
16～20時間	10	4.6	14	6.5	6	2.8
21～25時間	1	0.5	4	1.8	4	1.8
26～30時間	0	0.0	1	0.5	2	0.9
31時間以上	1	0.5	1	0.5	0	0.0
無回答	5	2.3	1	0.5	1	0.5
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

キャリアプラン等の作成

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
《調査対象学年》を対象に実施している(今年度すでに実施済み)	82	37.8	50	23.0	39	18.0
《調査対象学年》を対象に実施している(今年度中に実施予定)	21	9.7	16	7.4	9	4.1
実施しているが、《調査対象学年》対象ではない	21	9.7	36	16.6	53	24.4
実施していない	91	41.9	113	52.1	112	51.6
無回答	2	0.9	2	0.9	4	1.8
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

キャリア・ポートフォリオの作成・活用

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
《調査対象学年》を対象に実施している(今年度すでに実施済み)	62	28.6	53	24.4	40	18.4
《調査対象学年》を対象に実施している(今年度中に実施予定)	10	4.6	12	5.5	4	1.8
実施しているが、《調査対象学年》対象ではない	8	3.7	17	7.8	29	13.4
実施していない	134	61.8	133	61.3	142	65.4
無回答	3	1.4	2	0.9	2	0.9
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
《調査対象学年》を対象に実施している（今年度すでに実施済み）	148	68.2	157	72.4	118	54.4
《調査対象学年》を対象に実施している（今年度中に実施予定）	29	13.4	30	13.8	10	4.6
実施しているが、《調査対象学年》対象ではない	33	15.2	23	10.6	80	36.9
実施していない	6	2.8	5	2.3	8	3.7
無回答	1	0.5	2	0.9	1	0.5
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

卒業生（大学生や若手社会人など）による講演・体験発表会・懇談会（実施内容）

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
マナー指導（礼儀作法や挨拶の方法の指導等）					94	45.2
出張授業や講演会の内容に関する事前の調べ学習					61	29.3
出張授業や講演会の目的を確認するための指導					85	40.9
講師や登壇者に対するお礼状の作成					26	12.5
報告書・レポートの作成					101	48.6
出張授業や講演会に関連した成果発表会等の実施					21	10.1
出張授業や講演会に関する内容での個人面談・個人指導					16	7.7
出張授業や講演会と教科の学習内容を結びつけた指導					18	8.7
その他の事前・事後指導					15	7.2
上記のようなことは特に実施していない					17	8.2
無回答					10	4.8
合計					208	—

卒業生（大学生や若手社会人など）による講演・体験発表会・懇談会

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
《調査対象学年》を対象に実施している（今年度すでに実施済み）	85	39.2	90	41.5	60	27.6
《調査対象学年》を対象に実施している（今年度中に実施予定）	36	16.6	37	17.1	15	6.9
実施しているが、《調査対象学年》対象ではない	52	24.0	49	22.6	96	44.2
実施していない	41	18.9	41	18.9	46	21.2
無回答	3	1.4	0	0.0	0	0.0
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

上級学校のオープンキャンパス等への参加

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
《調査対象学年》を対象に実施している（今年度すでに実施済み）			153	70.5	92	42.4
《調査対象学年》を対象に実施している（今年度中に実施予定）			10	4.6	2	0.9
実施しているが、《調査対象学年》対象ではない			33	15.2	108	49.8
実施していない			21	9.7	14	6.5
無回答			0	0.0	1	0.5
合計			217	100.0	217	100.0

職場見学・ジョブシャドウイング

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
《調査対象学年》を対象に実施している（今年度すでに実施済み）	43	19.8	34	15.7	44	20.3
《調査対象学年》を対象に実施している（今年度中に実施予定）	6	2.8	8	3.7	2	0.9
実施しているが、《調査対象学年》対象ではない	50	23.0	40	18.4	55	25.3
実施していない	118	54.4	135	62.2	116	53.5
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

職場見学・ジョブシャドウイング（実施内容）

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
マナー指導（礼儀作法や挨拶の方法の指導等）					69	68.3
見学・訪問の内容に関する事前の調べ学習					52	51.5
見学・訪問の目的を確認するための指導					72	71.3
見学・訪問先に対するお礼状の作成					49	48.5
報告書・レポートの作成					67	66.3
見学・訪問に関連した成果発表会等の実施					24	23.8
見学・訪問に関する内容での個人面談・個人指導					15	14.9
見学・訪問と教科の学習内容を結びつけた指導					4	4.0
その他の事前・事後指導					4	4.0
上記のようなことは特に実施していない					4	4.0
無回答					3	3.0
合計					101	—

就業体験（インターンシップ）

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
《調査対象学年》を対象に実施している（今年度すでに実施済み）	42	19.4	94	43.3	33	15.2
《調査対象学年》を対象に実施している（今年度中に実施予定）	8	3.7	16	7.4	1	0.5
実施しているが、《調査対象学年》対象ではない	91	41.9	37	17.1	119	54.8
実施していない	76	35.0	69	31.8	60	27.6
無回答	0	0.0	1	0.0	4	1.8
合計	217	100.0	217	100.0	217	100.0

就業体験（インターンシップ）（実施内容）

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
マナー指導（礼儀作法や挨拶の方法の指導等）					117	76.5
職場体験の内容に関する事前の調べ学習					83	54.2
職場体験の目的を確認するための指導					119	77.8
訪問・受け入れ先に対するお礼状の作成					110	71.9
報告書・レポートの作成					128	83.7
職場体験に関連した成果発表会等の実施					60	39.2
職場体験に関する内容での個人面談・個人指導					31	20.3
職場体験と教科の学習内容を結びつけた指導					11	7.2
その他の事前・事後指導					10	6.5
上記のようなことは特に実施していない					3	2.0
無回答					6	3.9
合計					153	—

【調査対象学年】を対象に実施する「就業体験（インターンシップ）」にあてている期間は、どれくらいですか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
1日	13	26.0	15	13.6	9	26.5
2日	10	20.0	27	24.5	6	17.6
3日	19	38.0	48	43.6	7	20.6
4日	3	6.0	6	5.5	2	5.9
5日	4	8.0	12	10.9	4	11.8
6日以上	0	0.0	2	1.8	4	11.8
無回答	1	2.0	0	0.0	2	5.9
合計	50	100.0	110	100.0	34	100.0

【調査対象学年】を対象に実施する「就業体験（インターンシップ）」には、どのような生徒が参加していますか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
1年生全員が参加している (2年生全員が参加している、3年生全員が参加している)	31	62.0	44	40.0	1	2.9
生徒の進路希望に基づき参加者を選定しており、1年生のうち一部の者が参加している (生徒の進路希望に基づき、2年生/3年生のうち一部の者が参加している)	3	6.0	35	31.8	17	50.0
生徒から希望を募って参加者を選定しており、1年生のうち一部の者が参加している (生徒の就業体験希望の有無に基づき、2年生/3年生のうち一部の者が参加している)	16	32.0	23	20.9	13	38.2
上記以外の方法に基づき参加者を選定しており、1年生のうち一部の者が参加している (上記以外の方法に基づき、2年生/3年生のうち一部の者が参加している)	0	.0	8	7.3	1	2.9
無回答	0	0.0	0	0.0	2	5.9
合計	50	100.0	110	100.0	34	100.0

【調査対象学年】を対象に実施する「就業体験（インターンシップ）」には、【調査対象学年】全体のうちどの程度の生徒が参加していますか

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
1割未満	11	22.0	36	32.7	19	55.9
1～3割程度	5	10.0	18	16.4	7	20.6
3～5割程度	2	4.0	6	5.5	1	2.9
5～7割程度	0	0.0	4	3.6	2	5.9
7～9割程度	1	2.0	1	0.9	0	0.0
9割以上	0	0.0	1	0.9	0	0.0
全員	31	62.0	44	40.0	1	2.9
無回答	0	0.0	0	0.0	4	11.8
合計	50	100.0	110	100.0	34	100.0

大学・短期大学進学率をお教えてください

	H24年度調査 (1年時)		H25年度調査 (2年時)		H26年度調査 (3年時)	
	度数	%	度数	%	度数	%
4割未満	64	29.5				
4割以上7割未満	45	20.7				
7割以上	108	49.8				
合計	217	100.0				